

研究者情報 研究シーズ集 2026
ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY | SEEDS 2026



研究者情報・研究シーズ集 2026



石川県立看護大学
ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

研究者情報・研究シーズ集 2026

〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地
TEL 076-281-8300(代) FAX 076-281-8319
E-mail : office@ishikawa-nu.ac.jp



<https://www.ishikawa-nu.ac.jp/>

石川県立看護大学



石川県公立大学法人

石川県立看護大学

研究者情報 研究シーズ集

Ishikawa Prefectural Nursing University SEEDS

Contents

MESSAGE	02
What are SEEDS?	03
研究者情報の目次	04
研究者情報	07
研究シーズ集	65
キーワード検索	76
大学紹介	78



石川県立看護大学の 教員たちのシーズ集への期待とは？

石川県立看護大学 学長 真田 弘美 SANADA Hiromi

能登の震災を経験して強く思うことは、これからの私たちが立ち向かう未来は、自然災害、温暖化による気候変動、そして、それが引き起こす政治・経済的な問題による国家間の紛争など、さまざまな不安定要素を抱えながら、予測ができない状況にあるということです。

我々が目指す看護学のミッションは、この不安定な時代に生きる人々が自らの健康を護り、尊厳をもって自立・自律していける社会をつくることです。そのために研究は不可欠です。これからの医療を支えるため、様々な領域の研究者による協働、次世代をつくる大学院生の育成、さらに、産学連携による新しいプロダクトの開発、それに災害に備え科学的なシステムの構築など、いわゆる「チームサイエンス」をぜひ、実現したいと思います。高校や中学生の生徒から、大学人としてセカンドキャリアを積まれるシニアまで、どなたでも、仲間になってくださる方、ぜひ遠慮なく研究室のドアをノック（メール）してください。当学教員は心よりウエルカムいたします。

今は、日本だけでなく、他国からも我々が持つシーズに興味を持って集まってくれる大学院生、企業の方々が増えてきました。石川県立看護大学は総力をあげて、このシーズを開花させ、現場に届けます。「老いることもわるくないな」と思える社会を一緒に創りませんか。

看護は、**看**て、**知**り、**探**求することで必ず**進**化する、そして多様性の社会を生き抜くためには、**看**るを**越**える、さらに我々は社会を巻き込んで**未**来を**看**る。これが当大学教員全員の志です。

「シーズ」とは
未来を産み出す
「種」のこと。

大学で研究されているアイデアや技術は、新しい事業や産業を産み出す芽となり、未来の社会を形作ります。こうした革新的なアイデアや技術は、花開き・実を結ぶ可能性を秘めた「種」になぞらえて「研究シーズ」と呼ばれています。

石川県立看護大学では、基礎から応用まで、看護学を中心にさまざまな研究が行われていますが、この「研究者情報・シーズ集」では本学の研究者とその研究内容を紹介します。

このシーズ集は
誰のために、
そして何のために？

私たちは、本学の学生・院生となって研究の種と一緒に育ててくれる仲間、本学の研究を利用して研究や事業化をしたい企業や行政、研究者などのパートナーを歓迎します。本学の多様な研究の中には、あなたの興味・関心に近い研究、あなたが思い描く未来を実現できそうな研究、あなたの仕事に役立ちそうな研究、あるいはあなたが考えたこともないような新しい刺激を与えてくれる研究がきっとあります。この冊子があなたと私たちの「研究の種」を結ぶ出会いの場となることを願っています。



科目群		職名	氏名	研究のポイント	ページ
		学長・教授	真田 弘美	年を取るのも悪くないと思える社会の実現に向けて	08
人間科学領域	健康体力科学	教授	垣花 渉	身体活動を促進する行動科学および社会的支援アプローチの効果	09
	哲学・生命倫理学	講師	中嶋 優太	日本で最初の哲学者、西田幾多郎の思想を通じて、私たちの思考の背景を探る	10
	心理学	准教授	松田 幸久	目を開いた時に生まれる、この世界が間違いなく存在するという認識	11
	人間工学	教授	小林 宏光	ヒトの生物学的理解を基盤として現代社会の生活・環境について考える	12
	英語	講師	工藤 義信	教訓詩の内容とその翻案の諸相から、中世イングランド社会の人々の価値観と書物文化を考える	13
	情報科学	講師	佐能 唯	感覚や経験など可視化し、工学からのアプローチで医療・看護のサポートを目指す	14
健康科学領域	機能・病態学	教授	平居 貴生	時計遺伝子を制御する機能的分子を見つける	15
		教授	今井 美和	若者のHPV関連疾患を予防するシステムづくり	16
		准教授	市丸 徹	動物の行動をていねいに観察し、その背景にあるメカニズムと意義を探る	17
	保健・治療学	教授	岩佐 和夫	骨格筋にひそむ免疫制御機能を解明していく	18
		教授	今井 秀樹	化学物質の複合曝露による健康影響の新しい評価方法とその課題	19
基礎看護学講座	基礎看護学	教授	石川 倫子	不確実性の時代に即した持続可能な組織開発・人材育成を探る	20
		准教授	寺井 梨恵子	看護師の視覚情報に関する観察力と臨床判断能力の向上を目指す	21
		講師	田村 幸恵	心不全パндеミック！75歳以上になると循環器疾患の死亡数はがんより多い	22
		准教授	石井 和美	ケア技術の質向上、患者さんにとってより安全・安楽なケア方法の考案を目指す	23
		助教	瀬戸 清華	希少・難治性疾患と生きている当事者の世界を知り、ピアサポートの支援へとつなぐ	24
		助教	千田 明日香	質の高い援助を行う病棟看護師と看護補助者の協働のあり方を知る	25
		助手	橋本 知奈	手術を受ける患者さんの生命力の消耗を最小にする看護	26
母性・小児看護学講座	母性看護学	教授	亀田 幸枝	あなたはプレコンセプションケアを知っていますか？～将来の妊娠を見据えた自分たちの心身の健康管理～	27
		教授	米田 昌代	あかちゃんを亡くされた方を地域全体で支えるシステム作りをめざして	28
		講師	曾山 小織	プレコンセプションから産後まで：継続した支援で健やかな親子関係の土台を作る	29
		講師	楠作 梢	ユース世代の「自分らしく生きる」を、性を含む心身の健康の観点から支える	30
		助教	河合 美佳	産後の女性の体の回復を考える～女性の将来的な健康も見据えた支援を目指して～	31
		助教	野沢 ゆり乃	妊産婦、新生児が安心して過ごせるための助産ケアを考える	32
		助教	原 真佑子	自律した意思決定に寄り添う看護：出生前検査を巡る看護職の実践知を探る	33
	小児看護学	教授	戸部 浩美	子育て・夫婦のピンチを、自身への思いやりを深め家族の絆を強めるチャンスに変える！	34
		准教授	千原 裕香	子ども虐待予防をめざして親になる前の若者への支援アプローチを探る	35
		助教	後藤 亜希	子ども虐待防止をめざした育児困難を抱える母親支援を探る	36
		助教	西 真理子	子どもを特別養子縁組に託す実母への支援を確立し、傷ついた女性を支援する	37

科目群		職名	氏名	研究のポイント	ページ
成人・老年看護学講座	成人看護学	教授	紺家 千津子	どこでも、すべての人たちの皮膚を健康に保つ最良なケアを実現	38
		教授	峰松 健夫	皮膚を視る、皮膚を護る、そして皮膚から診る	39
		教授	臺 美佐子	がんと浮腫と共に 健やかに暮らす 未来を創る	40
		講師	南條 裕子	“重篤な病気を乗り越えた先”に、「頑張って良かった」の笑顔を目指す	41
		助教	瀧澤 理穂	がん体験者の悩みの核心や意思決定の背景とともに探る	42
		助教	星野 真実	シミュレーションで非侵襲的に体内を観察し、看護理工学による新たなケア・機器開発へ	43
	老年看護学	教授	北村 言	高齢者が「今が幸せ」と思える生活を支える新たな看護技術の開発	44
		准教授	大橋 史弥	エコーによる体内可視化で高齢者の安心した暮らしを支える看護システムを探る	45
		講師	沖田 翔平	生活の質を低下させないために看護ができることを探る	46
地域・在宅・精神看護学講座	地域看護学	教授	米澤 洋美	立場の弱い人や孤立した人も含め、お一人お一人が居場所と出番を持ち輝ける社会を目指して、地域での退職後高齢者の健康づくりを探る	47
		助教	室野 奈緒子	メンタルヘルス不調者の円滑な職場復帰を叶える多職種連携の科学的検証	48
		助教	嶋 雅奈恵	家庭養育の推進（より家庭に近い環境での養育の推進）のため、障害児施設の発達障害児への支援を探る	49
	在宅看護学	教授	桜井 志保美	年齢や疾患にかかわらず、生まれてから人生の最期まで、児者が家族とともに自宅で安心して暮らせる未来の実現に貢献する	50
		助教	山路 朋子	人生の終末期をその人らしく暮らすことができるように、退院支援の在り方や、効果的な教育を考えるために役立てる	51
		助教	牛村 春奈	食えることは生きることであり、喜びでもある。食えることを諦めなくて良い社会に向けて、口のはたらきを探る。	52
	精神看護学	教授	美濃 由紀子	重大な他害行為を行った精神障がい者の治療、社会復帰における看護師の役割の明確化を図る	53
		准教授	大江 真吾	自閉スペクトラム症の方の語りから、彼らが何を考え、何を感じているかを探る	54
		助教	高濱 圭子	断酒継続し依存症から立ち直る方々の生きる力を探索して看護ケアに活かす	55
		助手	杉谷 菜月	対話型生成AIによる発達・愛着障害者へのコミュニケーション支援モデルの開発	56
	共同研究講座 看護理工学	共同研究講座 教授	大貝 和裕	パイオからAIまで看護理工学に基づく、高齢者を守る包括的ケアシステムの構築	57
		共同研究講座 准教授	長谷川 陽子	栄養学と看護理工学をビッグデータで融合し、人々が健康で幸せに生きることを支えるサイエンスを目指す	58
	共同研究講座 ウェルビーイング看護学	共同研究講座 教授	松本 勝	センサ技術・ICTを活用したモニタリングやAIによる新たなロボティックホームケアの確立	59
		共同研究講座 講師	幅 大二郎	看護理工学と理学療法学を融合し、幸福寿命の延伸を目指したロボティックチェアの開発	60
		共同研究講座 助授	立川 啓太	高齢者の尊厳を守る、排泄トラブルのない社会へ	61
	石川県寄附講座 災害実践看護学	教授	木田 亮平	災害時に国民を守る看護提供体制・組織システムを探索する	62
		講師	窪田 直美	災害時の避難生活におけるQOLの向上のため、避難生活の環境改善を目指す研究（災害時の排泄環境の改善）	63
		講師	登谷 美知子	令和6年能登半島地震における高齢者施設での避難者受け入れの実態及び施設の特徴に関する調査	64

研究者情報

Researcher information



真田 弘美 学長

Hiromi Sanada

contact: sanadah@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/hiromisanada>



研究キーワード

看護のもののづくり／DX／傷(キズ)

年を取るのも悪くないなと思える 社会の実現に向けて

研究の概要

高齢者は自己実現をはかる成熟のプロセスの最終段階を迎える存在です。しかし、身体の生物学的な老化にともなって、寝る、食べる、排泄する、歩くなどの日常生活に端を発する疾病や障害が、高齢者が自分らしく生きることを妨げています。そこで、寝ることに起因する褥瘡(じよくそう)(いわゆる「床ずれ」)、排泄に関連する失禁関連皮膚炎(いわゆる「おむつかぶれ」)や尿路感染症、食べることに起因する誤嚥性肺炎、歩くことに関連する糖尿病足潰瘍などに焦点をあて、それらの発症メカニズムを解明し、予測、予防、ケアの新しい技術や機器などを開発することに取り組んでいます。

研究の内容(大学院向け)

看護学研究に限界はない

日ごろから患者に寄り添う看護師だからこそ気づくことのできる臨床の課題やニーズがあります。そうした課題やニーズを抽出し、機序に基づいて新たな技術や機器を開発し、臨床での評価・普及につなげる学問が「看護理工学」です。これまで「無いなら創る」の精神で、看護理工学の手法を用い、また産官学連携によって、褥瘡ケアや創傷ケア、スキンケアにかかわる様々な製品やツールを開発し、実用化してきました。常に看護を今より良くするための研究に、分野や手法にとらわれることなく取り組んでいます。若い皆さんの自由な発想と、バイタリティあふれる行動力に期待しています。



これまで開発した褥瘡ケア・スキンケア製品

メッセージ

本学では人生100歳時代の少子高齢化社会を支える次世代の看護師・看護学研究者を育てていきます。看護を通じた自己実現を目指しませんか。男性も大歓迎です。

Profile

研究分野

褥瘡学／看護理工学／老年看護学／創傷看護学

所属学会

日本褥瘡学会／日本創傷・オストミー・失禁管理学会
看護理工学会／日本看護科学学会 など

学歴・経歴

1979年 聖路加看護大学 卒業
1997年 金沢大学医学部研究生 修了(医学博士)
1998年 金沢大学医学部保健学科 教授
2003年 東京大学大学院医学系研究科 教授
2019年 Fellow of American Academy of Nursing (FAAN)
2021年 Sigma Thera Tau International Honor Society of Nursing・Member
2022年 石川県立看護大学 学長

受賞

2020年 ヘルシーソサエティ賞バイオニア部門
2022年 World Union Wound Healing Societies Lifetime Achievement Award
2025年 ICN(国際看護師協会)インターナショナル・アチーブメント・アワード

論文

- Jais S, Sanada H, et al. Evaluating the cost-effectiveness of diabetic foot ulcer management by wound care specialists in Indonesia. Wound Repair Regen. 32(1):80-89. 2024.
- Horinouchi A, Sanada H, et al. Incontinence-Associated Dermatitis-Like Skin Changes Induced by the Application of Absorbent Pads Containing Bacteria and Artificial Urine in Rats. Exp Dermatol. 33(11): e70013. 2024

書籍等出版物

- Bioengineering Nursing: New Horizons of Nursing Research, Nova Science Pub, 2014.
- 看護理工学, 東京大学出版会, 2015.

講演・口頭発表等

- “I will be the avatar : The new care recommendation system for wound care management,” The 9th APETNA Conference.
- 「ライフワークとしての褥瘡対策」第23回日本褥瘡学会学術集会の特別講演
- ナーシングケアイノベーション. Japan Health プレ・セミナー2024のシンポジウム
- “無いなら作る” 看護ケアのイノベーション. 第203回医療情報システム研究会の特別講演
- 近未来のWOC看護に望まれること. 第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会の特別講演

競争的資金等の研究課題

- 科研費基盤研究(A)ロボティックチェア・ヘルスケアアバターによる未来型セルフケア構想
- 科研費挑戦的研究(開拓)滲出液エクソソームマーカー検出人工リボソームの開発:創傷アセスメントの新たな展開



人間科学領域

垣花 渉 教授

Wataru Kakihana

contact: kakihana@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/read0152818>



研究キーワード

運動／コミュニティ・エンパワメント／アクションリサーチ

身体活動を促進する行動科学および 社会的支援アプローチの効果

研究の概要

「地域を基盤とした参加型研究によるコミュニティ・エンパワメントの構築は、高齢者の健康を維持・増進させる」という仮説検証型の研究を行っている。研究者と高齢者が協働して地域健康づくりを作り上げる介入プロセスを、トライアングレーション法を用いて質的に分析する。併せて、介入に伴う高齢者の体組成および体力の変化を対照群のそれと比較する。量的・質的分析により、コミュニティ・エンパワメントの構築が高齢者の健康を維持・増進させる根拠を明らかにする。

研究の内容(大学院向け)

スポーツや運動の現場での科学的知見を、 壮年・老年期の健康増進へ生かす実践的研究

スポーツや運動の現場の知見を科学的に立証するため、お年寄りの運動習慣が体力や体組成に及ぼす影響を調べています。スポーツや運動は“楽しい”ことが大事なため、身体を動かす楽しさを味わえるイベントを開きます。楽しいことがわかると運動は長続きます。わかったあとは、自分のペースで運動に取り組んでもらいます。私の役割は、運動習慣を形成するおせっかいヒントを的確なタイミングで出し、運動を楽しむ環境をつくることです。地道な研究から、おもしろいことがわかってきました。無理のない運動を自分のペースで行うと、お年寄りの筋肉量は増え、持久力は向上する可能性があります(図参照)。きつい運動を我慢してやらなくても健康になれる、ということです。

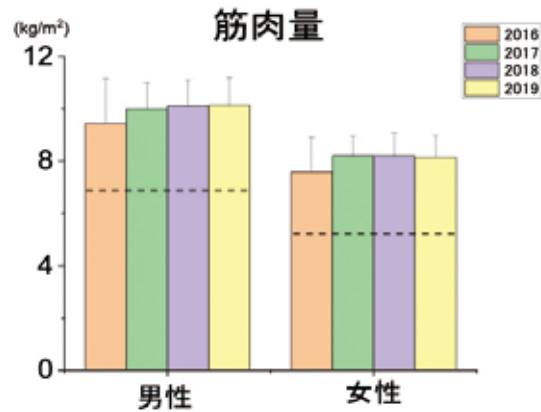


図.無理のない運動を高齢者が行ったときの筋肉量の変化

メッセージ

運動不足は、すべての世代に共通な健康問題です。注目されていますが、一向に改善されません。私はこの問題を解決するために、“こうしたら、運動を続けられるかも”のヒントを的確なタイミングで出し、“それとなく”運動へ導くための戦略とその効果を研究しています。

Profile

研究分野

体力科学／応用健康科学／初年次教育

所属学会

日本体力医学会／日本機械学会
初年次教育学会／地域活性学会
大学教育学会

学歴・経歴

1992年 早稲田大学人間科学部 卒業
1994年 筑波大学大学院体育研究科修士課程 修了
2001年 早稲田大学大学院人間科学研究科博士後期課程 修了
1997年 早稲田大学人間科学部 助手
2000年 国立身体障害者リハビリテーション研究所 流動研究員
2007年 石川県立看護大学看護学部 准教授
2020年 同大学 教授(現在に至る)

受賞

- 第17回 日本運動器リハビリテーション学会 奨励賞
- 日本経済新聞社社会人基礎力育成グランプリ 2013 準大賞
- 石川県立看護大学ベストティーチャー賞
- 農林水産省第3回食育活動表彰 ボランティア部門 消費・安全局長賞

論文

- 令和6年能登半島地震における住民と看護学生の協働による健康支援活動のプロセスとその影響. 地域活性研究, 22, 131-140, (2025)
- 参加型の地域健康づくりが高齢者の行動や健康状態に及ぼす影響. 地域活性研究, 18, 1-10, (2023)
- 看護学生を能動的な学習へ導く探究学習の実践研究. 初年次教育学会誌, 15, 50-57, (2023)

書籍等出版物

箕浦 ととき, 高橋 恵(編著): 5章 社会人基礎力を意識的に育む授業とは, 6章 フィールド実習を通じた社会人基礎力の育成, 7章 学生が自己の健康を管理する力の育成, 看護職としての社会人基礎力の育て方[第2版]. 日本看護協会出版会, 2019.

講演・口頭発表等

学生と高齢者が協働する「健康長寿のまちづくり」(招待講演), 日本世代間交流学会第13回全国大会, 2022

競争的資金等の研究課題

- 自律した学習者を育てる看護系高大接続教育の推進
- 主体的に考える力を養う看護系初年次教育の実践研究
- 壮年・老年期の健康増進を図るヘルスコミュニケーション

社会貢献活動

- 初年次教育学会 理事
- 地域活性学会 北信越支部 副支部長



人間科学領域

中嶋 優太 講師

Yuta Nakajima

contact: nakajima@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/y-nakajima>

研究キーワード

日本哲学／西田幾多郎／生命倫理学

日本で最初の哲学者、西田幾多郎の思想を通じて、私たちの思考の背景を探る

研究の概要

「自由」「社会」等々、これらの日本語はもともと西洋哲学の言葉の訳語で、明治時代の哲学者たちによって作られたものである。日本人が西洋の哲学をどのように受け止め、それを自分の物にしていっただのかを知ることは、現代の日本の社会を形作っているものの考え方の背景を知ることにつながる。日本で最初の哲学者ともいわれ、世界で最も注目されている日本人哲学者である西田幾多郎(図1. 石川県かほく市生まれ)の研究を通して、私たちの日常的な思考の背景と、その可能性を探っている。

研究の内容(大学院向け)

未発表の直筆資料を翻刻して、これまで誰も知らなかった西田哲学の原風景に迫り、「自由」とは何かを考え直す

2015年に西田幾多郎の直筆資料が大量に発見された。これらの資料からは特に金沢時代の西田が当時の哲学の最新情報や、心理学などの諸科学の成果を取り入れていたことがわかる。また、「至誠」など東洋思想に由来する鍵語が見られる点も注目に値する。資料を保存している石川県西田幾多郎記念哲学館の翻刻プロジェクトに参画して翻刻(図2)を行い、これまで知られてこなかった西田幾多郎の思想形成の背景を明らかにできるよう取り組んでいる。

西田の新資料を手がかりに再検討しているのは「自由」という言葉である。現代の医療現場で重視される生命倫理学の根本には、患者の自由な意志決定を尊重するという考え方がある。けれども、私たちは本当に自由に意志決定ができていいのか。そもそも、自由な意志決定とはどのようなものなのか。西田の思想や、関連する西洋の思想を手がかりに考え直したい。



図1. 西田幾多郎(1870-1945)
(石川県西田幾多郎記念哲学館提供)

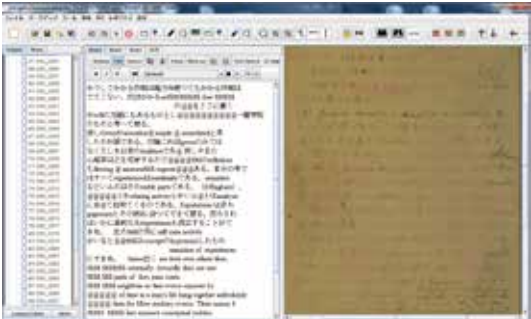


図2. 翻刻支援ソフト SMART-GSの作業画面

メッセージ

哲学の魅力は、私たちが当たり前だと思っていることをあらためて考えてみるところです。どんな日常の中にも、人生の中にも、考えるに興味深い哲学的問題がつまっていて、哲学を通してみると人生はもっと豊かに感じられると思います。

Profile

研究分野
日本哲学／西田哲学／生命倫理学

所属学会
西田哲学会／日本倫理学会／比較思想学会
日本哲学会／日本医学哲学・倫理学会

学歴・経歴
2009年 京都大学大学院文学研究科日本哲学史専修修士課程 修了
2012年 京都大学大学院文学研究科日本哲学史専修博士課程 単位取得退学
2015年 石川県西田幾多郎記念哲学館 研究員
2018年 石川県西田幾多郎記念哲学館 専門員
2022年 石川県立看護大学 講師

受賞
2023年 比較思想学会研究 奨励賞

論文

- 「若き西田幾多郎の生の倫理 新資料『倫理学講義ノート』におけるギュイヨー受容」『哲学研究 611号』(pp.57-79)2024年
- 「西田幾多郎の必然的自由と無我：新資料を手がかりに」『倫理学年報 第72集』(pp.175-187) 2023年
- 「西田の新資料『倫理学講義ノート』における人格の問題」『西田哲学会年報 第18号』(pp.50-93)2021年
- 「西田哲学とヴント心理学の直接経験 - その無基体的性格について -」『比較思想研究 第46号』(pp.48-56)2019年

書籍等出版物
西田幾多郎著『西田幾多郎全集別巻 倫理学講義ノート・宗教学講義ノート』岩波書店、2021年(翻刻主担当)

講演・口頭発表等

- 西田幾多郎の新カント学派批判と心理学、西田哲学会第23回年次大会、シンポジウム「西田幾多郎と新カント学派」、シンポジスト、石川県西田幾多郎記念哲学館、2025年7月27日
- 西田幾多郎新資料研究の現在、西田幾多郎没後80周年記念シンポジウム、シンポジスト、京都大学、2025年1月25日
- 甲南大学人間科学研究所 第4回九鬼周造記念シンポジウム「書簡と遺稿が伝える哲学者九鬼周造の面影」、シンポジスト、2022年12月17日

競争的資金等の研究課題
西田『善の研究』前後の新資料からみた人格論：日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 2024年 -2028年



人間科学領域

松田 幸久 准教授

Yukihiisa Matsuda

contact: ymatsuda@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/ym0315>

研究キーワード

心理学／認知科学／脳科学／応用臨床心理学

目を開いた時に生まれる、この世界が間違いなく存在するという認識

研究の概要

人間が有している機能の特徴を研究しています。人間が持っている機能はまだまだ解明されていないことが多く、よく「内なる宇宙」と例えられます。私は視覚と記憶を中心として意識的・無意識的な視覚情報処理過程を研究しています。

最近、初めた研究としては“どこを見ているか”と“何を感じているか”の関係についての研究を行なっています。一例では「ウィンドウショッピングなどの好き嫌い判断にはリラックス効果があるか?」について、眼球運動、自律神経系、唾液に現れる生理反応を観測して研究しています。経験上ではウィンドウショッピングや美術館で美術品の好き嫌いを考えているだけで、ストレス緩和効果があると思うので、きっと結果もそうなるはず！

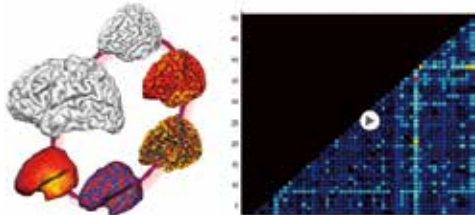


※実験風景(左図)。反射光が視覚刺激のじゃまになるので全体的に黒いですね。およそ0.01秒単位で実験画面をコントロールして人間の反応を記録しています。

研究の内容(大学院向け)

脳が人を創り、人が脳を知る時にうまれるもの

それは「理解」です。…などと抽象的&大袈裟に書いてみましたが、私は脳が持つ構造と機能的な特徴をもとにした研究を行なっています。その一端として、脳構造に着目した精神疾患特異性についての研究があります。脳は下左図のようにしわのある構造をしています。表面の灰白質と呼ばれる部分の厚みや、ある領域における表面積、ある範囲内に収まっている密集具合など、さまざまな特徴があります。また、脳を細かく分け、それぞれでの活動量を分析すると同じように働く部位とそうではない部位(下右図)があります。こういった特徴を数値に変換し、統計学を用いて、人の反応として表現される脳のありようを探究しています。



メッセージ

過去、未来、起こりえなかった並行世界にとらわれすぎることなく、今、この瞬間を生きてください。

Profile

研究分野
心理学／認知科学／脳科学

所属学会
日本心理学会／日本生理学会／日本カウンセリング学会／北陸心理学会／日本認知症予防学会

学歴・経歴
東北大学大学院情報科学研究科で博士号取得後、医学系研究所研究員、薬学部講師などを経て現職

受賞
2016年 認知症サポーターキャラバン活動 優良自治体賞

論文

- Hirose M, (中略) Matsuda Y. (2024). Quantitative evaluation of problem-based learning outcomes on student pharmacists' patient care process in Japan, 24(1), 583-589.
- Matsuda Y, 他 . (2018). Cortical gyrification in schizophrenia: current perspectives. NEUROPSYCHIATRIC DISEASE AND TREATMENT, 14, 1861-1869.
- Matsuda Y, 他. (2018). Educational benefits for nurses and nursing students of the dementia supporter training program in Japan. PloS one 13(7) e0200586.

書籍等出版物

- Matsuda, Y. (2023). Can there be a personality test with academic validity that is composed of meaningless questions?: Development of a poplar psychological test. Research Highlights in Language, Literature and Education Vol. 5.
- Matsuda, Y. (2022). Two Dissociable Functions of Spatial Attention, Facilitation Effect and Inhibition of Return. Current Overview on Science and Technology Research Vol. 4, 135- 157.

講演・口頭発表等
Matsuda Y, 他. (2021). Associations between human error in prescription inspection, personality traits, and working memory. The 32nd International Congress of Psychology.

競争的資金等の研究課題

- 松田幸久, 教育用電子薬歴の開発と薬学的管理能力の向上への応用, 2025-2027, 科学研究費基盤研究(C), 分担.
- 松田幸久, 脊髄損傷者における屋外活動時での適正な体温維持に効果的な実用的対策の確立, 2023-2027, 科学研究費基盤研究(C), 分担.
- 松田幸久, 薬剤師・薬学部生を中心とした認知症スクリーニング・ゲームの開発と実践, 2018, 第7回杉浦地域医療振興助成金, 公益財団法人杉浦記念財団.

社会貢献活動

- 学術雑誌「心理学の諸領域」編集幹事
- 大学附属地域ケア総合センター事業, 「宝達志水町における祭礼行事のアーカイブ作成」, 2023- 現在
- 大学附属地域ケア総合センター事業, 「避難所指定施設における健康保持のための温度変化の計測と啓発活動」, 2024- 現在



人間科学領域

小林 宏光 教授

Hiromitsu Kobayashi

contact: kobayasi@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/read0172464>



研究キーワード

人間工学／生理人類学／看護デザイン

ヒトの生物学的理解を基盤として 現代社会の生活・環境について考える

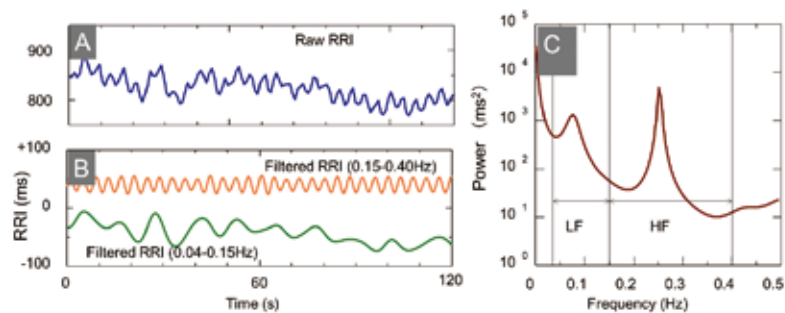
研究の概要

ガリレオ(1564-1591)は、教会のシャンデリアが揺れているのを見て、振り子の等時性を発見したと伝えられていますが、その際に自分の脈をとり時間を計ったといわれています。振り子の等時性の発見に、心拍が一役買ったわけですが、実は心拍はそれほど一定間隔で発生するわけではなく、その間隔には常にゆらぎが存在します。このゆらぎは心拍変動(Heart Rate Variability; HRV)と呼ばれています。心拍変動の揺らぎパターンは、加齢だけでなく、精神的緊張など様々なストレスによる自律神経活動の変化も反映すると考えられており、看護的研究でもよく用いられています。この心拍変動について、基礎的・応用的な研究を続けています。

研究の内容(大学院向け)

人間の生理学的機能の測定を通じて看護のデザインを提案する

人間工学とは、私たちを取り巻くさまざまなモノ、道具、機械、環境に関して人間の特性を基準として考察する分野です。工学という名がついていますが、機械について研究するのではなくあくまで人間を対象とした学問として人間工学を考えています。この点で人間工学と看護学とはもともと関連が深い研究分野であると思われます。心拍変動測定に加え、人間工学、生理人類学における様々な研究手法を看護学領域に応用した研究を行っています。例えば歩行中の体幹加速度、長期間睡眠測定、近赤外線光による脳血流測定、超音波エコーによる静脈直径測定、感圧シートによる清拭圧測定などの技術を用いた療養環境の評価、看護技術の客観的検証・開発などに取り組んできました。



図・心拍変動とそのスペクトル

メッセージ

大学での学びは、これまでの中学・高校での学習よりも自由度が大きいです。一方で学習への主体性が問われます。高校時代に大学での学びの基盤を培ってください。

Profile

研究分野

人間工学／生理人類学／看護デザイン

所属学会

日本生理人類学会／日本人間工学会
日本看護技術学会

学歴・経歴

1990年 九州芸術工科大学(現・九州大学)大学院
修士課程生活環境専攻 修了
1990年 九州芸術工科大学工業設計学科 助手
1999年 博士(理学) 千葉大学自然科学研究科
2000年 石川県立看護大学 助教授
2010年 石川県立看護大学 教授

受賞

2022年 TOP10%査読者賞 日本人間工学会
2022年 日本生理人類学会 学会賞
2016年 日本生理人類学会 論文大賞

論文

- Mastumoto M, Hashiguchi N, Kobayashi H (2022). Short-and long-term reproducibility of peripheral superficial vein depth and diameter measurements using ultrasound imaging. BMC Medical Imaging, 22 (1), 1-6.
- 石井和美, 中田弘子, 小林宏光. (2022). 圧力測定フィルムを用いた臨床看護師の清拭圧ー 健康皮膚に対する綿タオルとディスボーズブルタオル清拭の比較ー. 看護理工学会誌, 10, 37-42.
- 笠井恭子, 小林宏光, 川島和代. (2017). 特別養護老人ホーム入居者の夜間の排泄ケアと睡眠状態との関連. 老年看護学, 21 (2), 51-58.
- Nagaya S, Hayashi H, Fujimoto E, Maruoka N, Kobayashi H. (2015). Passive ankle movement increases cerebral blood oxygenation in the elderly: an experimental study. BMC nursing, 14 (1), 1-7.

書籍等出版物

- 生理人類学: 人の理解と日常の課題発見のために. 理工図書, 2020(分担執筆)
- 人間科学の百科事典, 丸善出版, 2015(分担執筆)

講演・口頭発表等

見つめなおす看護実践のカタチ～新しいケア用具の提案～看護実践学会交流集会, 2022

競争的資金等の研究課題

歩行対称性指標の妥当性およびその正常標準値の検討: 科学研究費補助金 基盤研究(C) 2019-2023



人間科学領域

工藤 義信 講師

Yoshinobu Kudo

contact: yshkudo@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/ykudo>



研究キーワード

中世英文学／西洋中世写本研究／中世イングランド書物文化

教訓詩の内容とその翻案の諸相から、 中世イングランド社会の人々の価値観と 書物文化を考える

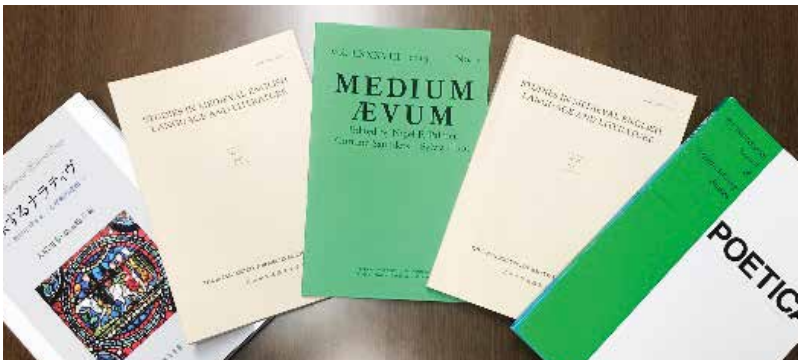
研究の概要

社会が大きく揺れ動いた15世紀イングランドで、父から息子への人生の教訓を綴った一篇の英語詩が生まれました。ピーター・イドリー作『息子への教え』という名で知られるこの詩は、その内容自体において、中世イングランドの人々が何を善しとし、何を善しとしなかったかを窺い知るための題材といえますが、さらにこの教訓詩にはもとなる作品(材源)が存在します。材源との比較を通して、教訓の内容や表現がどのように変わっているかに着目すると、古くからの教訓を著者の生きていた時代に沿ったものとなるよう、翻案している様子が浮かび上がります。こうした教訓の翻案に、世相の変化を読み解くことができます。本教訓詩は、著者からその息子へ宛てて書かれた当初の文脈を超えて、転写を通して多くの読者に読まれました。家族や親しい人々の間で交わされた書簡など、15世紀当時の人々の生きざまが垣間見える史料と照らし合わせることで、人々がいかにイドリーの詩に具現化されているような一連の教訓とともに生きていたかがわかります。

研究の内容(大学院向け)

「マイナー」な作品から、当時の書物文化への理解を刷新する

ピーター・イドリー作『息子への教え』は、これまであまり注目されることのなかった作品であることもあって、現存するバージョン同士の比較といった、基本的な分析に関して現在も研究の余地が残されています。詩が転写を通して多くの人々や地域に流布していったパターンについても、これまで重点的に研究されてきた同時代の他の作品のパターンとは異なる側面を持っており、15世紀イングランドの書物生産に関する新たな問題を提起する可能性を秘めています。



メッセージ

あらゆる物事を学問的に探究する面白さを、大学で感じて欲しいと思います。高校でいま取り組んでいる学習に、無駄なことは何ひとつありません。あとで必ずつながりますので、安心して励んで頂きたいと思います。

Profile

研究分野

中世英文学／西洋中世写本研究

所属学会

The Early Book Society／西洋中世学会
日本英文学会／日本中世英語英文学会

学歴・経歴

2014年 英国ヨーク大学大学院英文学科修士課程 修了
2014年 慶應義塾大学大学院文学研究科英米文学専攻後期博士課程 単位取得退学
2021年 石川県立看護大学 講師

受賞

2021年 第2回西洋中世学会賞
2021年 日本中世英語英文学会松浪奨励賞
2024年 日本中世英語英文学会奨励賞

論文

- 'Reinstalling Clerical Authority, Juridical and Didactic: The Unique Rearrangements of Book II of Peter Idley's Instructions to his Son in London, British Library, Arundel MS 20', Medium Ævum, 88 (2019), 265-300
- 'Self-Identity and Self-Presentation in the Late-Fifteenth-Century Norwich Merchant's Miscellany Manuscripts Known as "The Fisher Miscellany"', Journal of the Early Book Society, 25 (2022), 1-38

書籍等出版物

- 大沼由布, 徳永聡子編『旅するナラティブ-西洋中世をめぐる移動の諸相』(知泉書館, 2022年)(13章を執筆)
- 西洋中世学会編『西洋中世文化事典』(丸善出版, 2024年)('助言の文学'を執筆)

講演・口頭発表等

- 中英語文学ミセラニー写本にみる読者の関心, イデオロギー形成, そして教訓的テキストの機能ー Cambridge, Magdalene College, Pepys MS 2030 および Cambridge University Library MS Ee.2.15の新考察, 西洋中世学会第12回大会自由論題報告, オンライン, 2020.10
- ピーター・イドリー『息子への教え』における女性読者, 西洋中世学会第16回大会 ポスター報告, 富山, 2024.6
- 2通のナイチンゲール書簡, 第12回看護理工学会学術集会 展示解説, かほく, 2024.11

競争的資金等の研究課題

- 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「ピーター・イドリー教訓詩の伝播の実態を探るテキスト批評・人物研究・古写本学的分析」
- 日本学術振興会 科学研究費助成事業 国際共同加速基金(国際共同研究強化)「イドリー写本制作条件をめぐる物質的側面からの追及と中流社会階層の書物文化の考察」
- (分担)日本学術振興会 科学研究費助成事業 国際共同研究加速基金(海外連携研究)「中世イギリス文学における古典期聖女伝のテキスト伝播と受容の研究」

社会貢献活動

公益財団法人尚志社北陸地区奨学生選考委員



人間科学領域

佐能 唯 講師

Yui Sano

contact: yuisano@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/yuisano>

研究キーワード

歩行解析／転倒リスク評価／医療工学

感覚や経験など可視化し、工学からのアプローチで医療・看護のサポートを目指す

研究の概要

歩行障害を持った人の歩行、高齢者の歩行、疲労時の歩行など、さまざまな歩行を計測し、解析を行っている。

たとえば、歩行障害はさまざまな種類があるが、痛みやしびれが現れる箇所が似ているため、患者の主観的な訴えだけでは歩行障害の原因を判断しづらい問題があった。健常者および歩行障害者の歩行動作を動画で撮影し(図1)、歩行障害毎の歩行を解析した。その結果、歩行障害別に違いがみられることがわかった。したがって、歩行動作を解析することで歩行障害の原因を推察することの可能性を見出すことができた。

高齢者の歩行計測では、転倒リスクに注目し、どのようなケースで転倒しやすくなるのかという点についてセンサーを用いて調べた(図2)。日常生活においては歩行以外の動作も歩行と同時に進行。この動作が高齢者の歩行に影響するかを若年者の歩行と比較した。その結果、高齢者の姿勢制御が、視覚に依存し、音声刺激に基づく経路変更は負荷が大きいことを明らかにした。

疲労時の歩行計測では、歩行時、足先に力を入れて地面を蹴ることで、前に進む推進力を得ることから、若年健常者の疲労前と疲労後の足先の接地面の変化について足裏の接地面を調べる装置を使って調べた(図3)。疲労後では利き足に変化がみられることがわかった。

このように、歩行を様々な方法で調べることで、医療従事者の経験から得られた情報を数値化している。それが今後の医療・看護のサポートになることを目指す。



図1. 歩行画像解析実験の様子

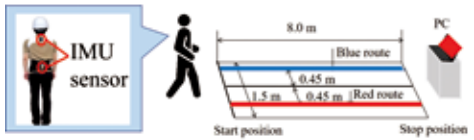


図2. センサーを使った実験システム



図3. 足先接地面積計測装置

メッセージ

医学・看護学分野に工学が混ざること、多方面から現象をとらえることができます。分野を超えて互いに協力し、新たな価値を見出したいと考えています。また、自分も通ってきた学生時代を思い出し、学生と一緒に作っていく講義を目指したいと思っています。

Profile

研究分野

歩行解析／転倒リスク評価

所属学会

日本機械学会／看護理工会

学歴・経歴

- 2011年 金沢大学大学院自然科学研究科人間・機械科学専攻博士前期課程 首席修了
- 2011年 アイ・オー・データ機器 入社
- 2021年 金沢大学大学院自然科学研究科機械科学専攻博士後期課程 修了
- 2023年 アイ・オー・データ機器 退社
- 2023年 石川県立看護大学

受賞

- 2022年 看護理工会論文奨励賞
 - 2022年 日本機械学会女性未来賞
 - 2021年 看護理工会論文奨励賞
- ※受賞時の名字は「村上」である。

論文

- 「多重課題条件下の歩行中において課題の種類と加齢が腰からみた肩回転運動に与える影響」『看護理工会, 8』(pp. 230-241)2021年
- 「Effects of task type and aging on translational body movements while walking under multiple task conditions」『Journal of Nursing Science and Engineering, 8』(pp.1-10)2020年

※投稿時の名字は「村上」である。

講演・口頭発表等

荒井理那, 佐能唯, 千原裕香, 小林宏光, 輸液ポンプの輸液管理演習におけるMRゴーグルを用いた演習方法の開発, 第12回看護理工会学会学術集会, 2024年11月



健康科学領域

平居 貴生 教授

Takao Hirai

contact: thirai@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/read0100492>

研究キーワード

分子薬理学／時間生物学／骨代謝学
Molecular Pharmacology, Chronobiology, Bone biology

時計遺伝子を制御する機能的分子を見つける

研究の概要

体内リズムと病気の関連について興味を持って研究を続けています。体内リズムを制御する時計遺伝子の新しい役割を見つけること、それらをコントロールするような機能分子を見出すことで多くの病気の予防や治療に貢献できるのではないかと考えています。

研究の内容(大学院向け)

時間生物学と骨代謝学領域の研究が中心になりますが、これらの研究成果が生活習慣病の予防や治療に応用できると考えています。具体的には時計遺伝子として知られる転写因子E4BP4／NFIL3やROR α に着目し、分子薬理学的手法、細胞生物学的手法などを一体的に運用することによって、それらの新規機能の解明を目指します。また、それら基礎研究が健康増進、予防薬理学の進展、看護学の深化に寄与することになれば良いと考え、研究を続けています。

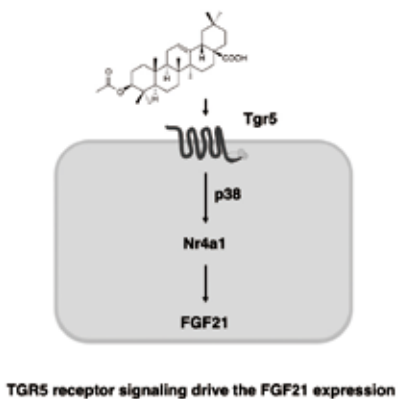


図. 筋細胞のTGR5受容体シグナルはFGF21発現を制御する。

こちらは最近の研究の紹介です。

生薬レンギョウの成分である3-O-acetyloleanolic acid は筋細胞のTGR5受容体を介してfibroblast growth factor 21 (FGF21)の発現を制御することを明らかにしました。FGF21はインスリン感受性の改善、糖代謝の改善、脂質代謝の改善、エネルギー産生能の向上といった作用を有すると考えられています。Transmembrane G protein-coupled receptor 5 signaling stimulates fibroblast growth factor 21 expression concomitant with up-regulation of the transcription factor nuclear receptor Nr4a1. Kiyama et al., Biomed Pharmacother, 142, 112078 (2021)

メッセージ

皆さんが、楽しい!といえる大学生活になるように、お手伝いできればと思います。

Profile

研究分野

分子薬理学／時間生物学／骨代謝学

所属学会

日本薬理学会／日本時間生物学会
日本骨代謝学会／日本薬学会

学歴・経歴

- 2005年 金沢大学大学院博士後期課程修了 博士(薬学)
- 2006年 MGH, Research Fellow
- 2009年 京都府立医科大学 助教
- 2012年 愛知学院大学歯学部 講師
- 2016年 愛知学院大学薬学部 准教授
- 2020年 石川県立看護大学 教授

受賞

第28回 歯科基礎医学会学会奨励賞 受賞

論文

- Takao Hirai et al., Berberine stimulates fibroblast growth factor 21 by modulating the molecular clock component brain and muscle Arnt-like 1 in brown adipose tissue, Biochem Pharmacol, 164, 165-176 (2019)
- Kenjiro Tanaka, Takao Hirai* et al., α^{18} -Adrenoceptor signalling regulates bone formation through the up-regulation of CCAAT / enhancer-binding protein δ expression in osteoblasts, Br J Pharmacol, 173(6), 1058-1069 (2016)

講演・口頭発表等

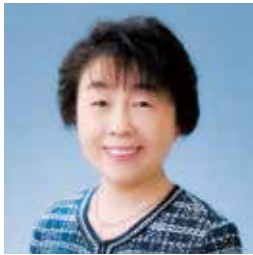
講演・口頭発表多数

競争的資金等の研究課題

生物時計システムの制御を基盤とする新規天然薬物の開発:基盤研究(C) 2019-21年など

社会貢献活動

日本薬理学会 評議員



健康科学領域

今井 美和 教授

Miwa Imai

contact: miwaimai@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/read0098922>

研究キーワード

HPV(ヒトパピローマウイルス)/ワクチン/HPV 関連疾患
子宮頸がん/プレコンセプションケア

若者のHPV関連疾患を予防するシステムづくり

研究の概要

ヒトパピローマウイルス(HPV)は子宮頸がんの主な原因として知られていますが、性別を問わず中咽頭がん、肛門がん、尖圭コンジローマなどの原因にもなります。HPVは主に性交で感染するため、思春期でのHPVワクチン接種によりこれらのHPV 関連疾患を効果的に予防できます。日本では思春期女子に対してHPVワクチンの定期接種が実施されていますが、年齢別接種率は1割前後と極めて低い水準にとどまっています。そこで、2023年に本学の大学院生とともに、HPVワクチンキャッチアップ接種事業対象学生とその母親に子宮頸がん予防啓発プログラムを実施しました(図1)。

男性のHPVワクチン接種率の増加は、集団免疫により男女ともにHPV感染リスクを減少させる可能性があります。2020年12月に承認された男性接種は一部自治体での費用助成にとどまり、接種率は低水準で推移しています。このように、日本では思春期の男女ともに接種率は低く、その向上が課題となっています。思春期での接種における主な意思決定者は保護者です。そのため、保護者向けのHPV 関連疾患予防啓発プログラムの開発に取り組み、思春期の若者のHPVワクチン接種率向上に向けた効果的な啓発プログラムの開発を進めています。

研究の内容(大学院向け)

HPV 関連疾患予防啓発プログラムの開発を目指して

日本の高校までの包括的性教育のレベルは国際標準から大きく遅れており、子宮頸がんなどのHPV 関連疾患の予防について学ぶ機会はほとんどありません。このため、高校卒業後の18歳以上の若者に対するプレコンセプションケアが不可欠になっています。同時に、思春期の子どもを持つ保護者もその重要性を理解する必要があります。このような状況を改善するため、本学では同世代のピア(仲間)である大学生や大学院生が協力し、HPV 関連疾患予防啓発プログラムの開発に取り組んでいます。

注) 包括的性教育: 身体や生殖の仕組みだけでなく、性の多様性や人間関係など性を幅広く学ぶ教育
プレコンセプションケア: 妊娠前のヘルスケア



図1.HPVワクチンキャッチアップ接種事業対象学生とその母親への子宮頸がん予防啓発プログラム資料から一部抜粋

メッセージ

HPV 関連疾患の予防は、若者にとって重要な健康課題です。若者自身や思春期の子どもをもつ保護者が予防に積極的に取り組めるよう、啓発プログラムの開発に熱意をもって取り組みましょう。

Profile

研究分野

病理学/ 思春期学

所属学会

日本病理学会/日本臨床細胞学会
International Academy of Pathology
日本癌学会/日本思春期学会
日本母性衛生学会/日本看護研究学会

学歴・経歴

1995年 金沢大学大学院医学研究科博士課程
病理系専攻修了 博士(医学) 修了
1997年 金沢大学 助手
1999年 金沢大学医学部 講師
2000年 石川県立看護大学 助教授
2007年 石川県立看護大学 教授

論文

- HPVワクチンキャッチアップ接種事業対象女性の接種行動を促進する因子 今井美和, 他1名, 思春期学, 42(2),309-321,2024年
- HPVワクチンキャッチアップ接種意向に関連要因: 若年成人女性を対象としたインターネット調査 今井美和, 他4名, 厚生の指標, 70(8), 16-24, 2024年
- 日本における若年女性の子宮頸がん予防行動を促すための母親への介入: スコーピングレビュー 亀田幸枝, 今井美和, 他2名, 日本看護科学会誌, 45, 373-383, 2025年
- 若年成人の娘とともに参加した子宮頸がん予防プログラムが母親のHPVワクチン接種推奨意向・行動に与える影響 丹後京香, 今井美和, 他1名, 母性衛生, 66(4), 623-636, 2026年
- 女子大学生を対象とした子宮頸がん予防啓発プログラムのHPVワクチン接種促進効果と母親参加の影響: パイロットスタディ 西谷音々, 今井美和, 他1名, 思春期学, 44(1), 250-261, 2026年

書籍等出版物

ルービン カラー基本病理学 第5版. 第18章 女性生殖系 西村書店(東京), 全759頁(p.453-483), 翻訳, 2015年

講演・口頭発表等

- 思春期男子のHPVワクチン接種行動を促すための親への介入: スコーピングレビュー 田中陽, 今井美和, 他3名, 第41回 石川県母性衛生学会総会・学術講演会, 2025年
- HPVワクチン未接種者のキャッチアップ接種意向に関連する要因および接種者の反応, 大西李来, 今井美和, 他1名, 第51回 日本看護研究学会学術集会, 2025年
- 日本における思春期男子のHPVワクチン接種に対する父親の意向と特徴 山本紀子, 今井美和, 他2名, 第51回 日本看護研究学会学術集会, 2025年

競争的資金等の研究課題

思春期男子のHPV 関連疾患予防のための親への啓発プログラムの開発 今井美和(赤祖父美和), 他3名, 科学研究費補助金基盤研究(C), 2024-2027年度



健康科学領域

市丸 徹 准教授

Toru Ichimaru

contact: ichimart@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/read0133896>

研究キーワード

生殖中枢/視床下部/電気生理学/MUA/GnRHパルスジェネレーター

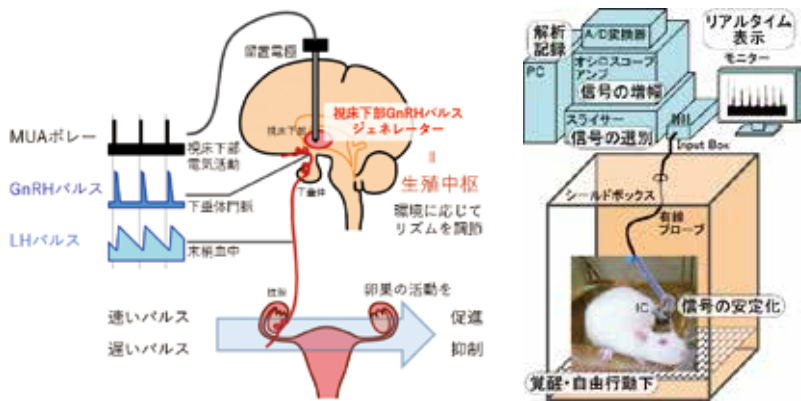
動物の行動をていねいに観察し、
その背景にあるメカニズムと意義を探索

研究の概要

ヒトや動物の生殖機能は性ホルモンによって調節されていますが、その分泌は視床下部-下垂体-性腺軸(HPG axis)の支配下にあります。例えば、過度のダイエットやストレスで生理が止まる・遅れるなどの現象は、視床下部が体内・体外の情報を処理して、種の存続より個体の維持を優先すべきと判断し、生殖器系のはたらきを抑制させるために起こると考えられています。このとき、性腺への指令はLHというホルモンのパルス状分泌を介してなされます。すなわち、視床下部にあってパルスのリズムを決めている神経機構こそが生殖中枢であると考えられます。本研究では、視床下部の神経活動を直接モニターする手法を開発し、リズム発生のしくみや生殖機能に影響する因子を探索することを目指しています。

研究の内容(大学院向け)

視床下部の神経活動は多ニューロン発射活動(Multi-unit activity: MUA)記録法で測定します。留置電極により覚醒下の動物からリアルタイムで記録できるため様々なメリットがありますが、同時に手技的な困難さを伴います。まずは、より確実に安定した記録のできる手法の開発を試んでいます。



メッセージ

宇宙兄弟という漫画の主人公、南波六太の「本気の失敗には価値がある」という言葉が好きです。大学では、皆さんも失敗を恐れず、本気で何かに取り組んでみてください。

Profile

研究分野

神経内分泌/動物行動学

所属学会

日本生理学会/日本繁殖生物学会/日本獣医学会

学歴・経歴

1997年 東京大学農学部獣医学科 卒業
2001年 東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程 卒業
2001年 University of Michigan ポスドク研究員
2003年 東京大学 学術研究支援員
2007年 福井大学 助教
2015年 石川県立看護大学 講師
2019年 石川県立看護大学 准教授

論文

- Exposure to ram wool stimulates gonadotropin-releasing hormone pulse generator activity in the female goat, Animal Reproduction Science 106:361-368, 2008
- Central cholecystokinin-octapeptide accelerates the activity of the hypothalamic gonadotropin-releasing hormone pulse generator in goats, The Journal of Neuroendocrinology 15:80-86, 2003
- A possible role of NPY as a mediator of undernutrition to the hypothalamic GnRH pulse generator in goats, Endocrinology 142:2489-2498, 2001

競争的資金等の研究課題

障害者による粗飼料生産での機械利用とヒツジ生産を支援する技術開発(障害者による飼育がヒツジに与えるストレスの評価), 農研機構 生物系特定産業技術研究支援センター・イノベーション創出強化研究推進事業, 2021-2023年度

社会貢献活動

金城大学 医療健康学部 病理学/生理学実習
非常勤講師



健康科学領域

岩佐 和夫 教授
Kazuo Iwasa
contact: kkiwasa@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/ipnu-DHMS8376>

研究キーワード

神経免疫学／重症筋無力症／骨格筋
Neuroimmunology, Myasthenia Gravis, Skeletal muscle

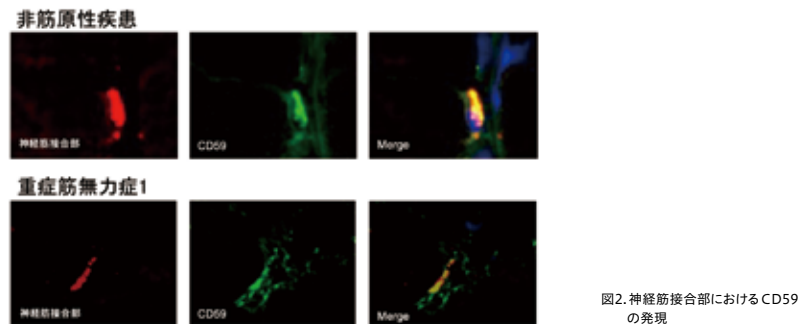
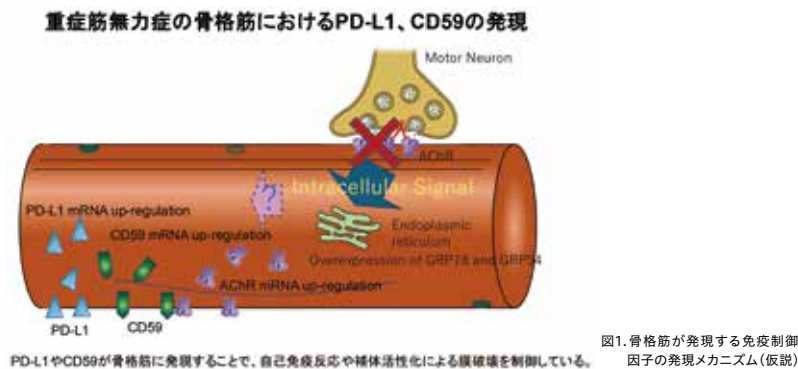
骨格筋にひそむ免疫制御機能を解明していく

研究の概要

重症筋無力症の基本的な病態は自己抗体による神経筋接合部のシナプス後膜（骨格筋）の障害である。重症筋無力症ではシナプス後膜の障害に加え、骨格筋においても特異的な反応が生じていることが明らかになってきている。この骨格筋における反応の解明は重症筋無力症の新たな病態理解に結びつくだけでなく、治療にも役立つ可能性があると考え研究を行っている。

研究の内容(大学院向け)

重症筋無力症の骨格筋では小胞体ストレス応答の亢進、免疫チェックポイント因子や補体制御因子などの発現亢進が生じていることを明らかにしている(図1)。つまり、重症筋無力症の病態には従来の自己免疫反応のほかに骨格筋に発現または骨格筋から分泌される物質が免疫機能を制御し病態に関与している可能性が考えられる。この骨格筋における免疫制御機能は重症筋無力症の新たな病態理解に結びつくだけでなく、新たな治療にも役立つ可能性がある。



メッセージ

この研究は、筋肉が免疫機能を調整していることを明らかにすることを目的としております。この研究が発展していくと、筋肉をどのように動かすと長生きできるのかわかるようになるかもしれません。

Profile

研究分野

脳神経内科学／神経免疫学

所属学会

日本内科学会／日本神経内科学会
日本神経免疫学会／日本神経治療学会
日本神経感染症学会／日本脳卒中学会
New York Academy of Science

学歴・経歴

1989年 金沢大学 卒業
1997年 金沢大学大学院 修了
2002年 金沢大学 助手
2005年 金沢大学 講師
2007年 金沢大学大学院 准教授
2020年 石川県立看護大学 教授

論文

- 重症筋無力症の新規病態:補体制御因子CD59による治療への可能性 BIO Clinica.40 (2) (pp73-74)2025年
- 重症筋無力症骨格筋におけるPD-L1の発現. J Neuroimmunol. 325 号 (pp. 74-78)2018年
- 重症筋無力症骨格筋におけるCD59の発現. J.Neurol Neuroimmunol Neuroinflamm. 10号1巻 e200057 2022年

競争的資金等の研究課題

重症筋無力症の新規病態:基盤研究(C) 2021-23年

社会貢献活動

パーキンソン病いきいきリハビリ教室主催



健康科学領域

今井 秀樹 教授
Hideki Imai
contact: imaihide@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/read0003765>

研究キーワード

地域の出生力に関する研究／環境汚染物質の脳神経系・内分泌系への影響／必須微量元素の生態学的意義に関する研究
fertility, environmental chemicals, essential trace elements

化学物質の複合曝露による健康影響の新しい評価方法とその課題

研究の概要

人間の健康と生存には、持って生まれた遺伝要因と私たちを取り巻く環境要因の両方が重要な役割を担う。20世紀おわりから遺伝情報と健康の関連についての研究が爆発的に進展した。一方環境要因の健康影響に関する研究がまだ発展途上にあり、Wild はそれをシオマネキの爪に例えた(下図)。つまり大きな爪が遺伝要因に関する研究で、小さな爪が環境要因に関する研究ということになる。近年疫学分野において健康影響をエンドポイントとした化学物質への複合暴露を評価する統計解析手法がいくつか新たに導入されている。これらの手法を応用し、複数の化学物質がヒト集団の健康および出生状況に与える影響を解明していきたい。



研究の内容(大学院向け)

環境因子(おもに化学物質)の脳一神経系あるいは内分泌系への影響の研究。必須微量元素の生態学的意義に関する研究。地域の出生力に関する研究。



Profile

研究分野

人類生態学／環境保健学／衛生学／疫学

所属学会

日本衛生学会／日本健康学会／環境ホルモン学会

学歴・経歴

三重県に生まれる。東京大学大学院医学系研究科保健学専攻修了。国立環境研究所主任研究員、筑波大学社会医学系助教、宮崎大学医学部准教授、東京医療保健大学東が丘看護学部教授を経て現職。

論文

Imai, H., Nishimura, T. Sadamatsu, M. Liu, Y., Kabuto, M. and Kato, N. Type II glucocorticoid receptors are involved in neuronal death and astrocyte activation induced by trimethyltin in the rat hippocampus. Exp. Neurol. 171, 22- 28, 2001.

書籍等出版物

コンパクト公衆衛生学第7版(朝倉書店), 2023年

講演・口頭発表等

第8回生殖・発生毒性学東京セミナー招待講演“環境ホルモンの次世代への影響-特に脳神経系に注目して-”, 2017年5月

競争的資金等の研究課題

海馬機能障害に対する食品由来栄養素の保護作用に関する研究(日本学術振興会科学研究費補助金萌芽, 2008-2010年)

社会貢献活動

- 羽咋市国民健康保険運営協議会委員(2021年度～)
- 羽咋市情報公開及び個人情報保護審査委員会委員(2020年度～)
- 羽咋市広域圏事務組合情報公開及び個人情報保護審査委員会委員(2020年度～)
- 環境省化学物質の内分泌かく乱作用に関連する報告の信頼性評価作業班班員(2003年度～)



基礎看護学講座

石川 倫子 教授

Noriko Ishikawa
contact: ishi1995@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/norikoishikawa12>

研究キーワード

組織開発／キャリア／在宅療養移行支援
診療看護師 (NP)／看護提供システム

不確実性の時代に即した 持続可能な組織開発・人材育成を探る

研究の概要

予期せぬ変化や新たな課題は時代ごとに存在する。私たちはこの不確実な事象を受け止め、時代に即して組織のあり方を変え、新たな取り組みを取り入れ、これを成長のチャンスに変えていかなければならない。そして未来の予測が困難な現代だからこそ、リーダーは人と人とのつながりを意識すること、円滑なコミュニケーションが取れる場づくりなど、不確実性の時代に適した持続可能な組織やチーム創りが求められる。

この持続可能な組織開発やチーム創りをどのように行っているのか、そして看護職は持続可能なキャリアをどのように形成しているのかを探っている。

研究の内容(大学院向け)

超高齢・人口減少時代に、住み慣れた家で生ききるための 移行支援・システムを創る

在宅移行期において、患者・家族は医療者のもとでの治療中心の療養から、患者・家族の責任のもとでの療養、暮らしの営みの中での療養、そして新たな治療・療養環境を創り出していくことが求められる。新たな療養生活を築き、療養継続するには当事者である患者・家族自らが症状マネジメント力を高める必要がある。そのため、診療看護師 (NP) が患者・家族の療養生活で得た自助力を活かし、患者・家族の症状マネジメント力を高める教育支援モデルの開発 (図1・2) を試みている。また、超高齢・人口減少地域における在宅療養移行をスムーズにするための病院 - 在宅支援が継続できる看護提供システムを模索している。

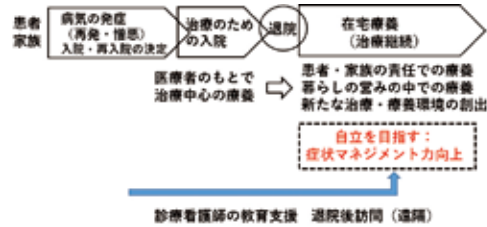


図1. 患者・家族の在宅移行による療養変化と支援の位置づけ

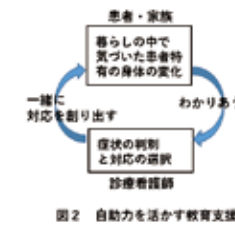


図2. 自助力を活かす教育支援

大震災時に被災者の療養をつなぐ地域看護連携システムを創る

令和6年能登半島地震において、被災者（被災病院における入院患者も含む）の療養をつなぐために、病院看護部は素早い決断とともにあらゆる行動をとっていた。この決断と行動を明らかにし、今後の看護連携システムを構築していきたいと考えている。

メッセージ

私たちが日々行っている看護の意味を裏付けるための研究、そして「組織は人なり」といわれているように、人が育つ組織の在り方を学生の皆さんとともに追究していきたい。

Profile

研究分野

看護管理学／看護教育学／教育学

所属学会

日本看護管理学会／教育目標評価学会
日本NP学会／日本看護科学学会
日本看護学教育学会

学歴・経歴

2018年 東京医療保健大学大学院看護学研究科 博士課程修了 博士(看護学)
2004年 国立病院機構金沢医療センター 副看護部長
2006年 厚生省医政局看護課看護研修研究センター
2010年 東京医療保健大学東が丘看護学部 准教授
2014年 石川県立看護大学 准教授

受賞

2018年 日本私立看護系大学協会 会長賞

論文

- 「診療看護師が抱いていた職務上の困難とその対応」『日本NP学会誌第3巻1号』(pp. 1-9) 2019年
- 「「退院後の療養場所に関する患者と家族との意向のずれ」に対する退院支援看護師の支援」『看護実践学会 第34巻第2号』(pp. 12-21) 2022年
- 「患者・家族への在宅療養移行支援における診療看護師 (NP) の役割」『日本NP学会誌第9巻2号』(pp. 1-10) 2025年

書籍等出版物

石川倫子著『ナースが症状をマネジメントする！症状別アセスメント、第1章 4. 症状アセスメントにおける患者へのアプローチ』メジカルフレンド社、2016年

講演・口頭発表等

「The role of nurse practitioners in providing assistance to patients and families to transition to home nursing」
『The 7th Annual Meeting of Japan Society of Nurse Practitioner』(pp. 111) 2021

競争的資金等の研究課題

- 2023-2025年、科学研究費事業基盤 (C) 研究代表者「診療看護師 (NP) が患者・家族の症状マネジメント力を高める教育支援モデルの開発」
- 2026-2029年、科学研究費事業基盤 (C) 研究代表者「過疎地域で地域ぐるみで創る持続可能な入院・外来・在宅継続看護提供体制の構築」

社会貢献活動

- 日本看護管理学会 評議員 専任査読委員
- 日本看護学教育学会 評議員 専任査読者
- 看護実践学会 理事 査読委員



基礎看護学講座

寺井 梨恵子 准教授

Rieko Terao
contact: riekote@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/read0153361>

研究キーワード

臨床判断／転倒／パフォーマンス評価／ルーブリック
SDGs／災害ボランティア

看護師の視覚情報に関する観察力と 臨床判断能力の向上を目指す

研究の概要

その道のプロは「観察眼」が違うと言われている。それは、看護の分野においても当てはまる。看護師は患者の情報について五感を用いて把握している。五感を用いた情報収集の中でも87%は視覚情報といわれており、視覚情報は看護実践の質を左右するものであるといっても過言ではない。看護師は、瞬間的に、この視覚情報もとに患者の状態を専門的知識に基づいて判断し、ケアの実践を行っていると考えられている。そのため、看護師がどのように視覚情報を得ているのかを明らかにすることは、より良い患者ケアを提供するために重要であるといえる。では、観察眼のある人との違いは何にあるか。『見ているもの』に違いがあるのか、『見ている時間』が違うのか。それとも、見ても知識と結びつかないのか。それらの疑問に対して、看護師や看護学生を対象に調査している。

研究の内容(大学院向け)

臨床判断能力を測定するルーブリックを開発し、 看護職の内省やメタ認知力を高めたい

医療事故のうち転倒・転落は療養上の世話の中で最も多く、看護学生が実習中に体験したヒヤリ・ハットにおいても最も多い。一般的に、転倒リスクアセスメントツールが用いられているが、患者の入院時や状態が変化した時に使用されているため、実際には五感を使った判断や行動が先行している現状が明らかになっている。五感のうち、視覚は87%を占めており、看護師は視覚情報を用いて臨床判断を繰り返している。看護師の臨床判断と眼球運動の関連を明らかにした研究では、臨床経験年数や場面によって特徴に矛盾があった。そのため、臨床判断能力の違いを属性ではなくパフォーマンス評価 (ルーブリック) を用いて評価したいと考えた。現在は、転倒リスク場面における看護師の臨床判断能力について明らかにし、臨床判断能力や場面の違いによる眼球運動との関連を明らかにすることを目的として研究に取り組んでいる。



図. 観察時における看護師の視線の軌跡

メッセージ

看護職一人ひとりが、人々に質の高い適切な医療・看護を提供し、専門職として活躍し続けるためには、生涯にわたり学び続け、自らの資質向上を図ることが求められます。大学では皆さんを「能動的な学び手」と捉え、他者との協働を通じた学びや、人間としての強みを活かした専門職になるための学びを重視していきます。

Profile

研究分野

転倒予防／看護教育／SDGs

所属学会

日本看護科学学会／日本看護研究学会
日本看護学教育学会／医療の質・安全学会
転倒予防学会／日本災害看護学会
看護実践学会

学歴・経歴

2019年 石川県立看護大学看護学研究科博士後期課程修了 博士(看護学)
2007年 石川県立看護大学成人看護学講座 助手
2014年 石川県立看護大学成人看護学講座 助教
2019年 石川県立看護大学基礎看護学講座 講師
2022年 石川県立看護大学基礎看護学講座 准教授

受賞

2017年 医療の質・安全学会 上原鳴夫記念若手研究奨励賞

論文

- 視覚情報に基づく転倒予防ケア決定までの臨床判断ルーブリックの作成 -信頼性・妥当性の検討- (2024) 医療の質・安全学会誌, 19(1), 14-25.
- 転倒リスク場面における看護師の視覚情報に基づくアセスメント (2015) 医療の質・安全学会誌, 10(1), 3-10.
- 転倒リスク場面観察時における新人看護師と熟練看護師の眼球運動の特徴 (2017) 看護人間工学研究誌, 17, 55-61.
- 看護場面における視線解析を用いた研究の動向と今後の課題 (2017) 石川看護雑誌, 14, 13-22.
- 看護師の転倒リスクマネジメント力の構成概念とその構造 (2009) 石川看護雑誌, 6, 99-106.

競争的資金等の研究課題

- 看護師の転倒リスク場面における視覚情報の取り込みと臨床判断 (2007-2008年度) 科学研究費助成金 若手研究 B 研究代表者
- 新人看護師の視覚情報に関する転倒リスクアセスメント教育プログラム (2015-2018年度) 科研費事業 若手研究 B 研究代表者
- パフォーマンス評価を用いた看護師の動作観察能力を高める教育プログラムの効果 (2019-2022年度) 科研費事業 研究活動スタート支援 研究代表者
- 復旧復興期のコミュニティ形成プロセスにおける看護学生と被災者の相互関係 (2026-2028年度) 科学研究費助成金 基盤研究 (C) 研究代表者

社会貢献活動

- 北陸大学薬学部非常勤講師 (2023年 -)
- 金城大学看護学部, 専攻科特別講義 (2020年 -)



基礎看護学講座

田村 幸恵 講師

Yukie Tamura
contact: tamura@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/read0074569>

研究キーワード

循環器看護／基礎看護技術

心不全パンデミック！75歳以上になると循環器疾患の死亡数はがんが多い

研究の概要

近年、心不全を含む循環器疾患での死亡数は増加し続けており、75歳以上においてはがんよりも多い。これは慢性心不全の罹患率が年齢と共に上がるためである。高齢化が進む我が国において2025年には高齢の心不全患者数が大幅に増加し「心不全パンデミック」に陥ると推測されている。慢性心不全は、一度発症すると根治は期待できず、病状の増悪を繰り返すことで生活の質と生命予後が悪化するため、まず心不全にならないこと、罹患しても急性増悪を繰り返さないことが重要となる。

心不全予防には、運動・食事など生活習慣の改善、症状マネジメント、看護師による観察などが重要であるが、高齢化する心不全患者の発症・増悪予防においては課題が多い。その課題と方策について探っている。

研究の内容(大学院向け)

心不全増悪を看護師がより早期に発見するための手立てを探る

心不全管理における看護師の役割は、問診と身体所見観察による心不全増悪の予防・早期発見と生活の自己管理指導であるが、特に高齢者は、自己管理を継続することや明確な自覚症状を聞き取ることが難しいことも多く、さらなる対策が必要である。その対策の1つとして、看護師が行う身体所見観察にポケットエコーを使用することに着眼している。今までも血圧計やパルスオキシメーターで身体内部の情報を得てきたように、ポケットエコーで身体内の水分量を直接そして簡単に観察することができないか。慢性心不全患者の生活の質を低下させないために、可能な限り早期に治療につなげられる手立てを探っている。



<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000039.000051346.html>

メッセージ

看護学を学ぶ上で学問や研究はとても大切です。それと同等に皆さん自身が患者さんと関わり、見て、聞いて、感じて学ぶことも大変大きな学びになります。人との関わりを通して「人って様々で興味深い！人と関わるっておもしろい！看護って奥深い！」こんな看護の面白みを共に学びたいと思います。

Profile

研究分野

循環器看護／基礎看護技術

所属学会

日本循環器看護学会／日本看護技術学会
日本看護教育学会 など

学歴・経歴

2015年 石川県立看護大学看護学研究科
博士前期課程修了 修士(看護学)

2001年 石川県立看護大学 助手

2010年 石川県立看護大学 助教

2021年 石川県立看護大学 講師

受賞

第16回日本循環器看護学会学術集会 優秀演題賞

論文

- 看護師のための携帯型エコーを使用した下大静脈径測定教育プログラム評価(2022)日本循環器看護学会誌17(2), 47-54
- Feasibility of Using Pocket-Sized Ultrasound Device to Measure the Inferior Vena Cava Diameter of Patients With Heart Failure in the Community Setting: A Pilot Study. (2020) J Prim Care Community Health.

講演・口頭発表等

- 看護師による携帯型エコーを使用した下大静脈径測定教育プログラム評価, 第16回日本循環器看護学会学術集会(2019)
- 看護学生によるポケット型エコーを使用した下大静脈径測定教育プログラム評価, 第15回日本循環器看護学会学術集会(2018)

競争的資金等の研究課題

- 在宅療養患者への看護師による携帯エコーを使用した心不全評価の臨床的意義(2020-2024) 科学研究費助成金 基盤(C)
- 慢性心不全の増悪時に看護師が携帯エコーで内頸静脈を測定することの有用性(2024-2027) 科学研究費助成金 基盤(C)

社会貢献活動

- 北陸大学薬学部 非常勤講師(2023年-)
- 第39回日本看護科学学会 実行委員



基礎看護学講座

石井 和美 准教授

Kazumi Ishii
contact: kazuisii@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/map30>

研究キーワード

看護技術／看護教育／清潔ケア

ケア技術の質向上、患者さんにとってより安全・安楽なケア方法の考案を目指す

研究の概要

清潔は人間の基本的欲求であり、日々の生活の中で当たり前に行っている生活行動の1つである。しかし、病気や手術など何らかの理由によって、自分で清潔を保持できなくなった場合は他者に清潔行動を委ねることになる。ケア実施者はその人に代わって、より安全で安楽で効果的な(質の高い)ケアを提供し、その人の清潔のニーズ(欲求)を満たす必要がある。近年では様々なケア用品が開発され、ケアを実施する場や人も多様になっており、このような現状においてもより質の高いケア技術を患者に提供するためには常にケア技術のエビデンスを検証し続ける必要がある。清潔ケアでは「洗う」、「拭く」といった基本的な技術がある。このような基本技術に着目し、誰がいつどのような場で何を用いても同じケアが提供できるよう、ケア技術の検討を行っている。

研究の内容(大学院向け)

新たな清拭素材を用いた清拭効果の検討

-得られたエビデンスを臨床での看護実践や教育に還元-

清拭は入浴やシャワー浴ができない対象にタオルを使って皮膚を清潔にする看護ケアである。その効果は皮膚の汚れを落とすだけでなく、温かさや爽快感などの気持ちよさやマッサージ効果、循環促進効果などの多くの効果があり、患者にとっては快の刺激を得られる数少ない看護ケアとなる。しかし、臨床現場では清拭の実施者が看護師から看護補助者に移行する傾向にあり、看護師が清拭を行う機会が減少することによってケア技術の低下が懸念されている。その一方で看護師が行う清拭が、術後や重症度の高い患者へのケアとなり、より高度な技術を求められる。さらに近年では、清拭に使用されるタオル素材の変化により従来の清拭のエビデンスに加え、新たなケア方法の検討が課題となっている。そこで、従来の清拭素材と新たな清拭素材による拭き取り効果の異なる違いを用いた臨床看護師の清拭圧を明らかにし、清拭圧と拭き取り効果の関係についての検討を行った。現在は清拭素材の違いによる皮膚のダメージについての検討を進めており、より安全・安楽で質の高いケア技術の考案を目指すとともに得られたエビデンスを臨床での看護実践や教育に還元していきたい。



メッセージ

清潔ケアは患者さんにとって快の刺激を与えることができる看護技術です。ケアによって、その人のもてる力を引き出すことのできるケア方法を考案し、臨床および教育に還元していきたいと思います。

Profile

研究分野

基礎看護学／看護技術

所属学会

日本看護技術学会／日本看護教育学会
日本看護科学学会／看護理工学会
日本看護シミュレーションラーニング学会
日本看護シミュレーション医療教育学会

学歴・経歴

2017年 石川県立看護大学大学院看護学研究科
博士前期課程看護デザイン分野 修了

2017年 金沢医科大学看護学部 助教

2021年 金沢医科大学看護学部 講師

2023年 石川県立看護大学大学院看護学研究科
博士後期課程コミュニティケア・看護デザイン科学分野 修了

2023年 石川県立看護大学 講師

論文

- 圧力測定フィルムを用いた清拭圧測定の有用性とその活用. 看護理工学会誌12 141-146, 2025.
- 圧力測定フィルムを用いた臨床看護師の清拭圧 健常皮膚に対する綿タオルとディスポーザブルタオル清拭の比較, 看護理工学会誌 10 37-43, 2022.
- ディスポーザブルタオルを用いた部分清拭が高齢者の皮膚に与える影響, 日本看護技術学会誌 18 17-25 2019.

講演・口頭発表等

異なる水温で作製したシャボンラッピング法が皮膚清浄度、皮膚温、皮膚水分量、快適性に及ぼす影響. 日本看護研究学会第51回学術集会, 2025.

競争的資金等の研究課題

科学研究費助成事業 基盤研究(C) 清拭による皮膚ダメージの可視化と皮膚を傷つけないケア技術の考案

社会貢献活動

- 看護実践学会 査読委員
- 日本看護シミュレーションラーニング学会 代議員



基礎看護学講座

瀬戸 清華 助教

Kiyoka Seto

contact: setokiyo@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/setokiyo>

研究キーワード

希少・難治性疾患／ALS／ピアサポート／当事者／自助・互助

希少・難治性疾患と生きている当事者の世界を知り、ピアサポートの支援へとつながる

研究の概要

近年、希少・難治性疾患の当事者間において、患者交流会やSNS等を通じて、病を生きるありのままの姿を示すことや、体験に基づく物語を語りなおすことを中心とした「支えあいの相互行動」が行われている。当事者たちは希少・難治性疾患と生きる過程での道しるべをピアサポートによって獲得し、そしてまた自身も新しい当事者に向けて光を灯す存在となっていく。

そこで、ALS療養者のピアサポートに着目し、患者交流会において当事者間でどのようなピアサポートが成されているのかを明らかにし、当事者視点でのピアサポートの支援へつなげることを目標に取り組んでいる。

学生とともに、希少・難治性疾患と生きる当事者の理解を深めたり、住み慣れた地域でより良く療養するための方法を考えたりできるように、研究と学生サークル活動をリンクさせた取組もはじめています。

研究の内容(大学院向け)

当事者の声や意思と向き合い、つながりを解明し、強化する

ALS療養者の患者交流会に継続して身を置くことで、少しずつ空間の雰囲気や、療養者の言わんとする声、揺れ動いたりぶれない意思に触れることができました。現在のALS患者交流会を当事者視点でさらによくするために、まず患者交流会の場にあるピアサポートのあり様を観察し、記述することを通して、実践を下支えする現状を把握することができると考えます。ALSで言えば、人と人、人と道具、人と支援者といったALSのピアサポートのために欠かせない連関、つながりの中にあるものを解明することで、ALS当事者に広がる世界に近づくことが必要です。

ALS当事者の世界に入り込んでこそ見えるものを基に、ピアサポートの支援プログラムの構築を目指します。



メッセージ

希少・難治性疾患と生きている当事者を支えたいと思っている者同士もつながり合いましょう。そして、希少・難治性疾患だからその体験の奥深さを一緒に語りましょう。

Profile

研究分野

基礎看護学／難病看護学

所属学会

日本看護科学学会／日本難病看護学会
看護実践学会／日本看護管理学会

学歴・経歴

2019年 石川県立看護大学看護学研究科
博士前期課程修了 修士(看護学)

2015年 石川県立看護大学 助手

2017年 石川県立看護大学 助教

論文

教育施設内における高頻度接触面の汚染度実態と次亜塩素酸水の拭き取りの影響. 石川看護雑誌, 第19巻, 41-49, 2021.

講演・口頭発表等

- Support for the continuation of education in a school affected by the 2024 Noto Peninsula Earthquake. The 8th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing
- 石川県南加賀保健センター管内 令和6年度小児慢性特定疾病児童等保護者交流会「つながる -発信しよう、誰かのために。受け取ろう、自分のために-」講演(2024.11)
- 石川中央保健福祉センター管内 令和6年度小児慢性特定疾病児童等の保護者交流会「慢性疾患をもつ子どもの子育ての工夫」講演(2025.2)

競争的資金等の研究課題

科学研究費助成事業(若手研究)(2020-2024年度延長) ALS患者・家族のピアサポートの様相とピアサポート支援プログラムの試案の作成

社会貢献活動

- かほく市介護認定審査会委員
- 宝達志水町介護認定審査会委員



基礎看護学講座

千田 明日香 助教

Asuka Senda

contact: sendaa06@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/sendaa06>

研究キーワード

看護師／看護補助者／タスクシフト・シェア／情報共有
調整行動／相互作用

質の高い援助を行う病棟看護師と看護補助者の協働のあり方を知る

研究の概要

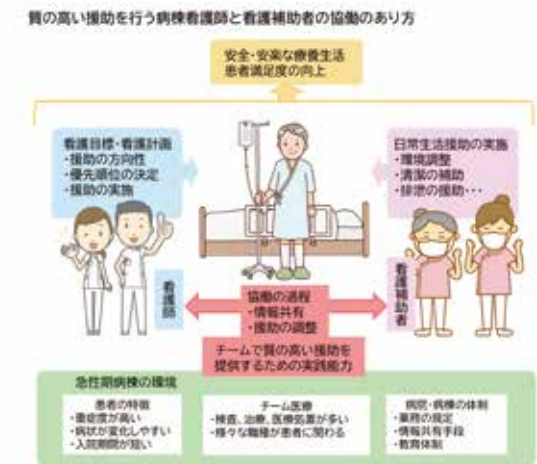
急性期病棟では看護師の業務負担軽減のため、患者の援助を看護補助者が行う機会が増えています。看護師と看護補助者がチームとして患者に質の高い援助を提供していこうとする中、特に患者の体調が変化しやすい急性期病棟では、看護師と看護補助者共に即座の判断や行動が求められます。この課題に対し、患者の援助を実施する看護師と看護補助者の情報共有や調整行動の視点から、両職種の協働のあり方を検討しています。

研究の内容(大学院向け)

急性期病棟における看護師と補助者の協働と実践能力を検討します

今までに、特別個室病棟に勤務する看護師特有の困難と対処について病棟の物理的、人的、文化的視点から調査を行いました。コロナ禍の時期には看護管理者がCOVID-19患者専用病棟を開設した時に配置転換する看護師をどのような基準で選出しようとしたか、また、配置後の評価内容について調査を行っています。

今後は、急性期病棟に入院する患者に対し、看護師と看護補助者がどのように協働して援助するのかを明らかにし、患者の援助をチームで行うために必要な看護師の実践能力を検討したいと考えています。



メッセージ

病棟で勤務する職員が専門性を発揮できる体制について、皆さんと考えていきたいです。

Profile

研究分野

看護管理学会

所属学会

日本看護研究学会／日本看護管理学会
日本医療・病院管理学会／日本看護学教育学会
日本看護科学学会／看護実践学会

学歴・経歴

2005年 石川県立看護大学看護学部 卒業

2018年 金沢医科大学大学院看護学研究科修了
修士(看護学)取得

2005年 金沢医科大学病院 看護師

2021年 金沢医科大学看護学部 助教

2022年 石川県立看護大学 助教

論文

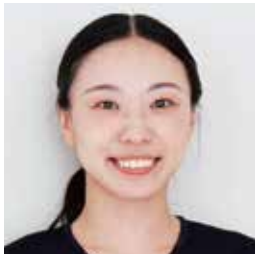
全室個室で複数診療科病棟勤務の看護師特有の困難と対処:病棟の物理的・人的・文化的環境の視点からの分析. 日本医療・病院管理学会誌. 58(3). 2021

講演・口頭発表等

COVID-19患者専用病棟に配置する看護師の選出において重視された基準および影響要因. 第43回日本看護科学学会学術集会(示説)

競争的資金等の研究課題

令和7年度科学研究費助成事業基盤研究(C), 課題番号25K13681, 看護師と看護補助者が情報共有のためにとる行動に影響する要因



基礎看護学講座

橋本 知奈 助手

China Hashimoto

contact: hashi12c@ishikawa-nu.ac.jp

研究キーワード

手術看護／看護技術／看護実践

手術を受ける患者さんの生命力の消耗を最小にする看護

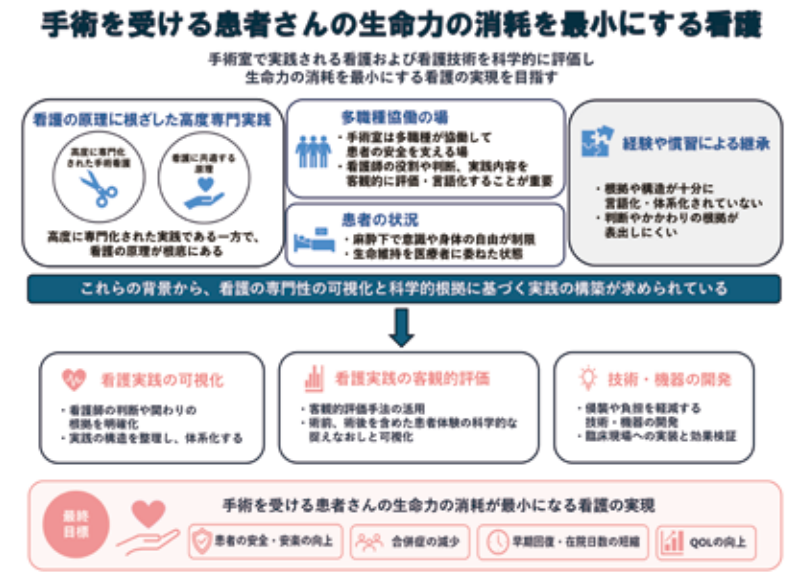
研究の概要

近年、医療技術の進歩に伴い、手術は高度化・複雑化し、術中管理の重要性はますます高まっている。手術は医師、看護師、臨床工学技士など多職種が協働して遂行される医療であり、手術看護もその中で実践されるものである。このような状況下で、手術を受ける患者さんは、意識の有無を問わず、自己の意思や身体

の自由が制限され、生命維持を医療者に委ねた状態にある。

私は手術室での臨床経験を通して、手術室看護師は単なる医師の介助者ではなく、手術を受ける患者さんの生命力の消耗を最小にする看護実践者であると実感するに至った。しかし、その看護実践や看護技術について十分に可視化・評価されているとは言い難い。

これらを踏まえ、手術室で実践される看護および看護技術について科学的に評価し、手術を受ける患者さんの生命力の消耗が最小になるような看護技術や機器を開発する研究に取り組みたいと考えている。



メッセージ

大学は学問を学ぶ場であり、その学問は研究によって発展していくものです。看護学にも研究活動が不可欠であると考えています。私自身も研究能力を身に着け、看護学の発展のため研究に取り組んでいきたいと思っています。

Profile

研究分野

基礎看護学

所属学会

日本手術看護学会

学歴・経歴

2017年 石川県立看護大学 卒業

2017年 金沢大学附属病院 看護師

2026年 石川県立看護大学 基礎看護学講座 助手



母性・小児看護学講座

亀田 幸枝 教授

Yukie Kameda

contact: ykameda@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/read0192830>

研究キーワード

妊娠前／健康教育／プレコンセプションケア／プログラム開発

あなたはプレコンセプションケアを知っていますか？ -将来の妊娠を見据えた自分たちの心身の健康管理-

研究の概要

プレコンセプションケアは、妊娠前の女性やカップルに適切な知識・情報を提供し、将来の妊娠に向けたヘルスクエアを行う取り組みである。このケアにより、ヘルスリテラシーが向上し、妊娠前の健康状態が改善される。その結果、より安全で安心な妊娠・出産が可能となり、結婚、妊娠、出産、子育て、仕事を含めた将来のライフデザインを描くことができるようになる。プレコンセプションケアの対象領域は、栄養状態、不妊、ワクチンで予防できる疾患、性感染症、若年妊娠や望まない妊娠、喫煙など多岐にわたる。しかし、これらの情報を得る機会には限られている。2023年度からは、HPV(ヒトパピローマウイルス)関連疾患(子宮頸がんや中咽頭がんなど)の予防に焦点を当て、若者のHPV感染予防行動を促進するための教育コンテンツの作成と啓発プログラムの開発に着手している。

研究の内容(大学院向け)

ピア(仲間)の力を活かした啓発活動と研究を

本学の助産師養成課程(助産看護学分野)では、妊娠中の女性やカップルに健康教育を行っている。プレコンセプションケアの考え方を取り入れ、妊婦やパートナーにとどまらず、妊娠前の女性やカップルなど若い世代の男女への健康教育や情報を発信し、研究を行う。若い世代に近い存在であるピア(仲間)の力を活用し、学部生や大学院生と教員で構成されるチームが共同で取り組んでいる。このアプローチにより、若者の健康意識の向上や効果的なプレコンセプションケア教育モデルの構築を目指している。



図1.生涯のうちのプレコンセプションケアの位置づけ (<https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/preconception/> より引用)

図2.HPVワクチンキャッチアップ接種事業対象学生とその母親への子宮頸がん予防啓発プログラム資料から一部抜粋

メッセージ

現代は結婚、妊娠、出産、子育てに対する価値観はさまざまであり、ライフプランの選択肢も人それぞれです。助産師の立場から妊娠を見据えて述べている部分もありますが、妊娠を選択しないことをネガティブにとらえているわけではありません。ただ、知らなかったことによって選択肢が狭まらないようにと願っています。みなさまも、これを自分ごととして捉え、啓発活動や研究と一緒に取り組んでいきませんか。

Profile

研究分野

助産学／母性看護学／思春期学

所属学会

日本助産学会／日本看護科学学会

日本母性衛生学会／日本思春期学会

日本看護研究学会

学歴・経歴

1999年 金沢大学医学部保健学科 助手

2007年 金沢大学医学系研究科 助教

2008年 金沢大学大学院修了 博士(保健学)

2011年 金沢大学医薬保健研究域保健学系 准教授

2017年 石川県立看護大学 教授

受賞

2007年 日本助産学会 学術賞

論文

- 日本における若年女性の子宮頸がん予防行動を促すための母親への介入：スコーピングレビュー 亀田幸枝, 今井美和, 他2名, 日本看護科学会誌, 45, 373-383,2025年.
- 若年成人の娘とともに参加した子宮頸がん予防プログラムが母親のHPVワクチン接種推奨意向・行動に与える影響 丹後京香, 亀田幸枝, 他1名, 母性衛生, 66(4), 623-636,2026年.
- 女子大学生を対象とした子宮頸がん予防啓発プログラムのHPVワクチン接種促進効果と母親参加の影響：パイロットスタディ 西谷音々, 亀田幸枝, 他1名, 思春期学, 44(1), 250-261,2026年
- 周産期のシミュレーション教育で使用するルーブリックの作成と教育実践報告, 亀田幸枝, 他6名, 石川看護雑誌, Vol.22, 15-22,2025年.

書籍等出版物

- 今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程 改訂第4版, 第2章 妊娠期の助産診断 妊娠時合併症を有する診断, 南江堂(東京), 全1216頁(p. 244-279), 2019年
- 助産師教育に活かすパフォーマンス評価ワークブック 導入のための初めの一歩, 第II部 事例編 2-2 分娩介助実習のルーブリックの事例, 全200頁(p53-61), 2024年

講演・口頭発表等

- 思春期男子のHPVワクチン接種行動を促すための親への介入：スコーピングレビュー 田中陽, 亀田幸枝, 他3名, 第41回 石川県母性衛生学会総会・学術講演会, 2025年
- HPVワクチン未接種者のキャッチアップ接種意向に関連する要因および接種者の反応, 大西李来, 亀田幸枝, 他1名, 第51回 日本看護研究学会学術集会, 2025年
- 日本における思春期男子のHPVワクチン接種に対する父親の意向と特徴 山本紀子, 亀田幸枝, 他2名, 第51回 日本看護研究学会学術集会, 2025年

競争的資金等の研究課題

HPVワクチン接種のジェンダーイコール実現に向けた親への教育コンテンツの開発, 亀田幸枝, 他3名, 科学研究費補助金基盤研究(C), 2024-2027年度



母性・小児看護学講座

米田 昌代 教授

Masayo Yoneda

contact: masayo@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/read0063361>



研究キーワード

グリーフケア／流産・死産・新生児死亡／セルフヘルプグループ支援

あかちゃんを亡くされた方を地域全体で支えるシステム作りをめざして

研究の概要

グリーフケアとは様々な喪失体験にうちひしがれる人々に寄り添い続けることによって、哀しみを抱えながらも、その人らしく生きられるように支援することである。特に周産期喪失は、通常は喜びにあふれた妊娠・出産の中で起こる突然の出来事であり、母親にとって深い傷を負う体験となる。このような体験は、悲嘆が複雑化しやすく、様々な健康障害を生じたり、残されたきょうだいに対する不適当な養育につながる事が明らかになっている。このようなことから、周産期喪失時にグリーフケアは重要である。本研究では多職種、セルフヘルプグループが連携してその対象にあったグリーフケアを提供できるように、また、対象自らが選択できるような施設から地域へのシステム作りをめざしている。

研究の内容(大学院向け)

これまで、医療施設での周産期のグリーフケアの実態、医療施設、行政、セルフヘルプグループでの周産期の死を経験した母親・家族に対する退院後のグリーフケアと地域連携の現状・課題を調査し、そこから「退院後の周産期のグリーフケアと地域連携システムモデル試案」(右図)を提案した。その後、モデル試案の妥当性を支援関係者に対してデルファイ法を用いて検討した結果、高い同意率を得ている。モデル実現に向けて、医療施設・行政・自助グループと連携し、活動しつつ(右記ちらし参照)、現在、院生とともに、行政と自助グループの連携促進に関する研究、音楽療法を活用したグリーフケアプログラムの開発に取り組んでいる。加えて、グリーフケアに関わる支援者のメンタルヘルスケアにも着目し、セルフコンパッションを活用したセルフケア、病棟でのディカンファレンスの充実のための研究にも取り組んでいる。



退院後の周産期のグリーフケアと地域連携システムモデル試案



自助グループ支援・当事者支援



ペリネイタル・グリーフケア検討会 (年2回 7月・2月開催)

メッセージ

健康に生まれてくるということはあたりまえのことではありません。奇跡の連続といってもよいかもしれません。生命の神秘について、生命の誕生のすばらしさについて学び、生と死について一緒に深く考えてみませんか？

Profile

研究分野

ライフサイエンス／臨床看護学
母性・助産・女性看護学

所属学会

日本助産学会／日本母性衛生学会／日本母性看護学会／小児保健学会／日本子ども虐待防止学会／日本女性医学学会／日本ヒューマン・ケア心理学会／日本看護科学学会／日本看護研究学会／日本看護学教育学会／看護理工学会／看護実践学会

学歴・経歴

2000年 石川県立看護大学基礎看護学講座 助手
2002年 石川県立看護大学母性・小児看護学講座 助手
2005年 金沢大学大学院医学系研究科博士前期課程 保健学専攻看護学領域母子看護学分野 修了
2007年 石川県立看護大学母性・小児看護学講座 助教
2008年 石川県立看護大学母性・小児看護学講座 講師
2015年 金沢大学大学院医学系研究科博士後期課程 保健学専攻看護学領域母子看護学分野 修了
2017年 石川県立看護大学母性・小児看護学講座 准教授
2020年 石川県立看護大学母性・小児看護学講座 教授

受賞

2023年 日本助産師会会長表彰

論文

- Yoneda M, S, Shimada Y: Validity on tentative design of a regional cooperation system for postdischarge perinatal grief care by the Delphi method. Journal of the Tsuruma Health Science Society Kanazawa University 40(1): 21-33, 2016
- Yoneda M, Yoshida K, Soyama S, Shimada Y: Post-discharge perinatal grief care and tentative design of a regional cooperation system. Journal of the Tsuruma Health Science Society Kanazawa University 39(2): 103-112, 2016
- 米田昌代, 吉田和枝, 曾山小織, 島田啓子: 周産期のグリーフケアに取り組む看護者の原動力. 石川看護雑誌, 12, 35-44, 2015.3

書籍等出版物

エンドオブライフケア看護学-基礎と実践-.小笠原知枝(編著),ヌーヴェルヒロカワ 第12章 エンドオブライフケアの事例,223-226,2018米田昌代,桶作梢(分担執筆)

講演・口頭発表等

- SNS・オンラインを活用した周産期喪失を経験した家族のセルフヘルプグループ・サポートグループの活動の実態と課題,第38回日本助産学会学術集会,2024.
- 講演:石川県内保健福祉センター,日本助産師会等:「周産期のグリーフケア」

競争的資金等の研究課題

科研費基盤(C) ペリネイタル・ロスに関わる支援者へのメンタルヘルスサポートシステムの開発(令和7-10年)

社会貢献活動

- 天使のゆりかご(自助グループ支援)
- ペリネイタル・グリーフケア検討会(左記参照)



母性・小児看護学講座

曾山 小織 講師

Saori Soyama

contact: takanosa@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/read0152810>



研究キーワード

プレコンセプションケア／ヘルスリテラシー／身体活動
医療コミュニケーション／保健行動

プレコンセプションから産後まで:継続した支援で健やかな親子関係の土台を作る

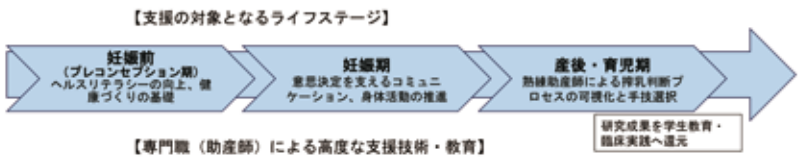
研究の概要

妊婦さんが健康に過ごすことは、妊娠期間中や出産時の異常を予防することにつながります。妊娠中に子宮内環境を良好に保つことは、胎児の発育・発達をよくするだけではなく、子どもの将来の成人病予防にもつながります。医療専門職が定期的に妊婦さんを診察して、健康について話し合う機会は妊婦健康診査において他にはありません。妊婦さんが健康行動をとるために、医療専門職はどのように情報を伝えるとよいか、医療コミュニケーションの研究をしています。例えば、妊婦さんに身体活動(運動)を勧める場合、妊婦さんと日頃の生活について話し合い、どのような運動をどのくらい実施するか、妊婦さん自身が決めて実践できるように話を展開しています。研究では、妊婦さんと医療専門職が話し合っているところを観察して、会話を分析しています。分析から得られた結果は、看護師及び助産師の教育や医療現場に役立てようと考えて取り組んでいます。現在はさらに、産後の母乳育児支援の核となる『助産師の搾乳技術』に着目しています。助産師が何を観察し、どのように判断して手技を選択しているのか、その熟練した思考プロセスを可視化することで、支援の質の向上と、最終的にはすべてのお母さんへのより良いケアの還元を目指しています。

研究の内容(大学院向け)

専門職による高度な支援技術の探求:教育と実践への応用

妊娠前の時期は、健康教育の空白の時期です。子どもをもつこと、もたないことを考えて決めるまでの時期は、女性だけではなく男性にとっても健康づくりの基礎となる時期です。妊娠前の男女のヘルスリテラシーが向上するように、行動変容モデルを使って実態を調査して、最適な支援(アプローチ)方法を考えるための研究を行っています。これらの研究成果を、将来の母性看護を担う学生や、臨床で活躍する専門職の教育プログラムへと還元していくことを目指しています。



メッセージ

妊娠や出産は人類が誕生したときから繰り返されていますが、まだ解明されていないことが沢山あります。また、妊婦さんや産婦さんへのケアは、日進月歩していますが、安全や安楽を追求すれば改善するところが見つけません。いろいろな考えを話し合うことで新しい発見があり、解決するためのアイデアが浮かびます。疑問を解決するためのプロセスを体験してみませんか。

Profile

研究分野

母性看護学／助産学／女性看護学

所属学会

日本助産学会／日本母性衛生学会
日本母性看護学会／日本看護研究学会
日本小児保健協会／看護理工学会 など

学歴・経歴

2005年 佛教大学社会学部(社会学士)
2005年 石川県立看護大学 助手
2011年 石川県立看護大学 助教
2013年 University of Melbourne, Master of Women's Health
2018年 石川県立看護大学 講師
2023年 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 博士(保健学)

論文

- 石川県における助産師の専門的ケア実践の現状
- 祖母の子育て経験と孫育てに対する意識との関連
- 妊婦の身体活動に対する保健指導の縦断的観察
- Factors related to taking folic acid supplements before next pregnancy in parous women
- 葉酸の補足と妊娠間隔に関する産科医療者からの産後の保健指導の実態と女性の意識
- 受胎以前の葉酸サプリメント摂取促進

講演・口頭発表等

- 完全母乳栄養児の生後4日目までの生理的体重変化に影響する要因
- Interaction between medical workers and pregnant women in prenatal checkup
- Midwifely care promoting health-related behaviors among pregnant women
- 特別養子縁組をした養親が子育てしやすい環境を整える過程-複線経路等至性モデリングによる一事例の分析-
- 特別養子縁組をした養親が夫婦で協同して子への真実告知を行う過程-複線経路等至性モデリングによる一事例の分析-

競争的資金等の研究課題

- 挑戦的萌芽研究:妊婦のセルフケア行動を促進する要因の検討とガイドラインの作成
- 基盤研究(C):神経管閉鎖不全の発生リスク低減のための葉酸サプリメント摂取に関する女性の認識
- 基盤研究(C):熟練助産師の搾乳における観察・情報統合・判断から手技選択に至るプロセスの解明



母性・小児看護学講座

桶作 梢 講師

Kozue Okesaku

contact: okesaku@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/kozueokesaku>

研究キーワード

ユース／ユースクリニック／性と生殖の健康(SRH)ヘルスケア／教育

ユース世代の「自分らしく生きる」を、性を含む心身の健康の観点から支える

研究の概要

思春期・若年成人期(ユース世代)は、性を含む心身の健康、将来設計に関する多様な課題に直面する一方で、正しい情報や適切な支援にアクセスしにくい現状がある。本研究は、ヘルスケア(性を含む心身の健康)の観点から若者支援のあり方を検討するものである。大学内外で展開する石川県初のユースクリニック「ふらっとマチナカ保健室」の実践を基盤に、若者のニーズや支援利用の実態を明らかにする。さらに、より支援ニーズの高い対象としてがんを経験した若者への支援にも着目し、医療・生活・心理面を包括的に支える体制のあり方を検討する。加えて、ユースヘルスケアに関する教材開発やピアサポーターの養成など教育的アプローチを取り入れ、地域に根ざした支援モデルの構築を目指す。

研究の内容(大学院向け)

同世代の若者が学び合い、支え合う教育プログラムの開発

本研究では、「ふらっとマチナカ保健室」の利用者、ならびに地域の若者や若年がん経験者を対象に、量的・質的手法を組み合わせた混合研究法を用いる。質問紙調査により、性や心身の健康に関する知識、リスク認識、相談行動、医療アクセス、療養生活における困難等を把握し、関連要因を統計学的に分析する。さらにインタビュー調査を通して、支援の受け止め方や利用に至るプロセス、がん経験がライフプランに与える影響を明らかにする。加えて、ユースヘルスケアに関する教材開発およびピアサポーター養成プログラムを設計・実施し、その教育効果や行動変容への影響を評価する。



石川県立看護大学附属地域ケア総合センター事業「ふらっとマチナカ保健室」の活動の様子



メッセージ

性を含む心身の健康は、すべての若者が「自分らしく生きる」ために大切なものです。同世代の疑問や悩みに寄り添い、大学生だからこそできる支援の形を一緒に創りましょう！

Profile

研究分野

母性看護学／女性看護学／生涯発達看護学

所属学会

日本看護科学学会／日本母性衛生学会
日本がん看護学会／日本助産学会

学歴・経歴

- 2000年 富山医科薬科大学医学部看護学科 卒業
- 2016年 金城大学看護学部 助手
- 2017年 石川県立看護大学 母性看護学 助手
- 2018年 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 修了 修士(保健学)
- 2018年 石川県立看護大学 母性看護学 助教
- 2023年 石川県立看護大学大学院看護学研究科 修了 博士(看護学)
- 2024年 石川県立看護大学 母性看護学 講師

論文

- 桶作梢, 田淵紀子(2019): 乳がんサバイバーが子どもに母乳を与える体験. 母性衛生, 60巻2号, 320-328.
- 桶作梢, 米田昌代, 濱耕子(2023): がん治療のために妊娠中絶を余儀なくされたAYA世代女性がんサバイバーの次子妊娠への思いと契機. 母性衛生, 63巻4号, 968-976.
- 桶作梢, 濱耕子, 米田昌代(2023): AYA世代がんサバイバーのセクシュアリティにまつわる経験. 看護科学会誌, 43巻, 1-10.
- Okesaku K, Hama K, Yoneda M, Doorenbos A, Tobe H.: Development and testing of an information-sharing questionnaire on the sexuality of adolescent and young adult cancer survivors. Journal of AYA Oncology Alliance, 5(2), 27-37, 2025.

書籍等出版物

- エンドオブライフケア看護学-基礎と実践-, 小笠原知枝(編著), ヌーヴェルヒロカワ 第12章 エンドオブライフケアの事例, 223-226, 2018. 米田昌代, 桶作梢(分担執筆)
- ベリネイタルケア8月号: 助産師のための「聞く力」「伝える力」「進める力」. 44(8), 18-24, 2025. 桶作梢(分担執筆)

講演・口頭発表等

Okesaku K, Hama K, Yoneda M: Evaluate of the content validity of an information-sharing tool on the sexuality of adolescent and young adult cancer survivors, 27th East Asia Forum of Nursing Scholars, Hong Kong, 2024.

競争的資金等の研究課題

- 2019年度(2019年度-2022年度) 科学研究費助成事業 若手研究: 治療後に出産するAYA世代がんサバイバーの周産期ケアモデル構築のための研究
- 2025年度(2025年度-2029年度) 科学研究費助成事業 若手研究: AYA世代がん患者が対話を通じて性と生殖の課題に向き合うための支援方法の検討

社会貢献活動

石川県立看護大学附属地域ケア総合センター事業「ふらっとマチナカ保健室」(2025-)



母性・小児看護学講座

河合 美佳 助教

Mika Kawai

contact: mikawai@ishikawa-nu.ac.jp

研究キーワード

尿失禁／女性／産後

産後の女性の体の回復を考える -女性の将来的な健康も見据えた支援を目指して-

研究の概要

女性の尿失禁は妊娠や出産が契機となり発症することが多く、加齢とともに増加し、尿失禁がQOLに影響するという点では妊娠や出産時に関わる看護者は女性の生涯を通して考えなくてはならない問題です。産後に尿失禁が起こる原因としては、骨盤底筋群の弛緩により膀胱が下降することや、妊娠中に子宮と癒着した膀胱が産後の子宮復古とともに下降するためと考えられていることから、膀胱底の位置と骨盤底筋群の筋力の変化をエコーを用いて測定し尿失禁との関連を検証することを検討しています。

研究の内容(大学院向け)

産後の女性の体の回復を考える -女性の将来的な健康も見据えた支援を目指して-

女性は解剖学的に男性より尿道が短いことにより尿失禁を起こしやすいと言われており、尿失禁を有する女性の約半数が、知られたいくないなどの社会的ストレスを感じているとの報告もあることから、尿失禁がQOLに影響するという点では女性の生涯を通して考えなくてはならない問題です。女性の尿失禁の関連要因として出産経験があり、実際に妊娠中から産後にかけて1度でも尿失禁症状のある者は5～6割であるといわれており、また、妊娠・産褥期に尿失禁のあった者はなかった者に比べて後に高率に尿失禁を発症していたという報告もあります。そのため、妊娠・産褥期に関わる看護職は尿失禁予防・緩和に対する認識を高め、女性の将来的な尿失禁の問題も見据えて介入を行っていくことが重要であり、そのための支援・介入方法について研究を行っています。



メッセージ

母性看護学は妊娠、出産、育児を中心に、女性の一生を通じた支援を学びます。女性にとってどのような支援が必要なのか、一緒に考えてみませんか。みなさんと一緒に学べることを楽しみにしています。

Profile

研究分野

女性看護学／母性看護学

所属学会

日本母性衛生学会

学歴・経歴

- 2005年 独立行政法人国立病院機構 京都医療センター 助産師
- 2011年 独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター 助産師
- 2018年 石川県立看護大学 助手
- 2021年 石川県立看護大学大学院看護学研究科 修士(看護学)
- 2021年 石川県立看護大学 助教

論文

河合美佳, 西村真実子, 井上ひとみ, 田屋明子. 子どもを虐待する母親に抱く感情と態度-地域住民への効果的な啓発のあり方を考える-. 小児保健いしかわ. 2005, 17, 10-15.

講演・口頭発表等

河合美佳, 濱耕子. 尿失禁予防・緩和に関する看護職の認識と妊娠・産褥期への保健指導の実態. 第62回日本母性衛生学会総会・学術集会, 2021, 10.

社会貢献活動

- ベリネイタル・グリーフケア検討会
- 新人助産師のスキルアップ支援



母性・小児看護学講座

野沢 ゆり乃 助教

Yurino Nozawa

contact: yu0223@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/yurino>

研究キーワード

妊産婦／妊婦歯科健診／育児不安

妊産婦、新生児が安心して過ごせるための助産ケアを考える

研究の概要

妊娠・出産・子育ては女性だけではなく家族にとって大きな変化である。少子化が進む中で子どもは大切な存在であり、その子を育てていく周囲の環境の重要さもコロナ禍を経てさらに大きくなってきた。母親には人生においてかけがえないイベントである妊娠、分娩、産褥期を楽しく、安心できる環境で過ごしてほしいと考えている。妊産婦、新生児が安心して過ごしていくための必要な支援は何か、支援をしていくために何が必要かを明らかにし、実践できるケアを検討したい。

研究の内容(大学院向け)

妊婦歯科健診の受診率向上を目指した取り組み

近年、口腔の健康が全身の健康に密接に関係していることが明らかとなっており、周産期においても口腔内からの感染・慢性炎症巣としての歯周病が早産や低出生体重児出産などを引き起こす可能性があるという報告がある。妊婦は歯周病に罹患しやすく、歯周病は周産期有害事象と関連があると言われているにも関わらず、妊婦歯科健診の無償化が開始して以降、現在まで妊婦歯科健診の受診率が低い現状にあることに問題を感じている。普段健診に行くことが出来ない人も妊娠を機会に継続的な受診行動の一步になるのではと考え、そのために妊婦歯科健診受診率向上を目指した支援方法を見出すための研究に取り組んでいる。



厚生労働省公益社団法人日本医師会「妊産婦における口腔健康管理の重要性」
(<https://www.mhlw.go.jp/content/12401000/000488879.pdf>) (アクセス2023年2月16日)

メッセージ

少子化が進む中で産科医療は大きく変化し、助産師が担う役割への期待も大きくなっています。母親が安心して妊娠・出産・子育てしていくために私たちに出来ることを学生の皆様と一緒に考えていきたいと思っています。

Profile

研究分野
母性看護学

所属学会
日本母性衛生学会／日本助産学会

学歴・経歴
2017年 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科看護科学領域博士前期課程健康発達看護学分野助産学専攻 修了
2017年 都立広尾病院 助産師
2021年 石川県立看護大学 助教

論文
● 妊婦と医療者の口腔衛生に対する意識と保健指導の実践に関する文献検討 2016年
● 産後1ヵ月健診時に抱く母親の育児不安の実態 2023年

講演・口頭発表等
● 妊婦と医療者の口腔衛生に対する意識と保健指導の実践に関する文献検討 第32回石川県母性衛生学会学術総会 第30回北陸母性衛生学会学術総会
● 産後1ヵ月健診までに抱く母親の育児不安の実態 第62回日本母性衛生学会総会

社会貢献活動
● ペリネイタル・グリーフケア検討会
● 新人助産師のスキルアップ支援



母性・小児看護学講座

原 真佑子 助教

Mayuko Hara

contact: hara61@ishikawa-nu.ac.jp

研究キーワード

出生前検査／NIPT／意思決定支援

自律した意思決定に寄り添う看護：出生前検査を巡る看護職の実践知を探る

研究の概要

出生前検査を取り巻く環境が変化し、情報へのアクセスが容易になる中で、検査を受けるか迷う妊婦や家族への意思決定支援の重要性が急速に高まっています。しかし、医療現場の多忙さや体制的な課題から、最も身近な存在である看護職が支援に十分に関与しにくい現状があります。特に、家族の意思を尊重し寄り添う「遺伝カウンセリングマインド」に基づいた対応は、個々の看護職の意識や経験に委ねられている面が大きく、その具体的な実態は十分に把握されていません。そこで本研究では、看護職の認識と対応のリアルな実態を明らかにすることで、現場の課題を解決し、家族が安心して選択に向き合える体制づくりに貢献することを目指します。

研究の内容(大学院向け)

出生前検査に関わる看護職の支援の認識と実践知を明らかにし、支援の在り方を探る

日常的に妊婦や家族と接し、出生前検査の相談やケアが行われる周産期医療の現場において、看護職が「家族に寄り添う姿勢」をどのように捉え、日々のケアで実践しているかは、それぞれの勤務環境や経験によって差異が生じていると考えられます。臨床現場の看護職が、目の前の家族に対してどのような思考や判断で対応しているのかという、言葉にされにくい「経験に基づく知識や工夫(実践知)」を明らかにすることで、看護職自身が必要としている支援ニーズを明確にします。このように、現場に埋もれがちな実践の工夫を可視化して共有可能にすることで、看護職全体のケアの質の向上を促し、すべての妊婦と家族がどの医療機関でも一貫したよりよい支援を受けられる仕組みを探索します。

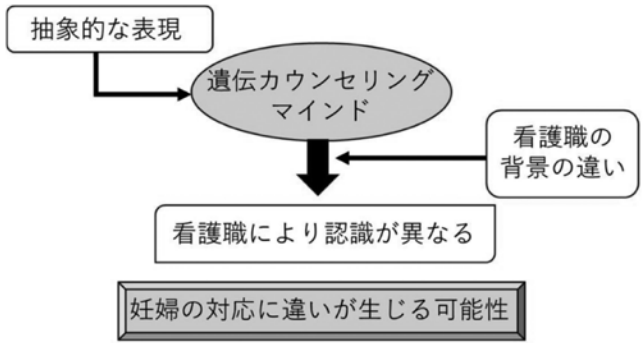


図1. 出生前検査における意思決定支援の課題

メッセージ

妊婦さんとそのご家族の自律した意思決定に寄り添い、日々模索し続ける看護職の「実践知」を大切にしたいと考えています。一人ひとりの背景にある認識や対応を丁寧に紐解き、臨床の皆さんと共によりよい支援の在り方を探っていきたいです。

Profile

研究分野
母性看護／遺伝看護

所属学会
日本人類遺伝学会／日本遺伝カウンセリング学会
日本遺伝看護学会／看護実践学会

学歴・経歴
● 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科修士(医科学)
● 石川県立看護大学 助教

論文
原真佑子、楠作梢、野沢ゆり乃、河合美佳、曾山小織、濱耕子、米田昌代：母性看護学における沐浴実践能力評価表の開発．看護実践学会誌37(1),42-52,2025

競争的資金等の研究課題
基盤研究 (C)「出生前検査に関わる看護職の遺伝カウンセリングマインドの認識と対応の探求」(代表/科研費事業2026-2029年度)

社会貢献活動
日本看護研究学会第51回学術集会 実行委員



母性・小児看護学講座

戸部 浩美 教授

Hiromi Tobe

contact: tobejc@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ https://researchmap.jp/hiromi_tobe

研究キーワード

家族のレジリエンス／養育態度／感情調整／愛着形成・修復
マインドフルネス／家族学

子育て・夫婦のピンチを、自身への思いやりを深め 家族の絆を強めるチャンスに変える！

研究の概要

育児は誰にとっても大きなチャレンジであり、育児ストレスにより怒りを言葉で子どもにぶつける等のマルトリートメントは広く一般的に見られ、子どもに長期的で深刻な悪影響を及ぼすだけでなく、夫婦の危機や自尊心・自己効力感の低下にもつながる。そこで、適切な育児法だけでなく、親が自身の感情と向き合い、レジリエンス(精神的回復力)を高められるように学び、訓練するプログラムを開発し、ランダム化比較試験で検証し、レジリエンス、怒りのコントロール、自尊心、問題焦点対処、夫婦コミュニケーション関係が改善した。

養育態度と子どもの特性の関連やマインドフルネスを取り入れた育児についても検討し、これまでのポピュレーションアプローチに加えて、被虐待経験、発達障害、不登校、養子縁組・里親など、育児により困難を抱える対象のニーズや支援についても調べ、より効果的な支援を導き出せるよう研究を重ねている。

研究の内容(大学院向け)

人のウェルビーイングの基礎となる愛着形成や修復について、 すべての人が学び、訓練し、支援し合える社会実現に向け、 看護の視点を取り入れた「家族学」を構築

子どものウェルビーイングには、親あるいは重要他者との情緒的な絆である愛着が不可欠だが、親自身がその親との愛着を築けていない場合も多い。親に寄り添い、親子関係や夫婦関係を改善できるよう支援する中で、そのプロセスが、自身の愛着の修復や傷の癒しのプロセスにもなり得る。レジリエンスは、Ordinary Magic(当たり前の魔法)とも呼ばれ、ごく簡単な方法で、親が変わり、子どもが変わり、家族が変わる奇跡を多く見てきた。痛感するのは予防の大切さである。家族を築くのに必要な知識やスキルを子どもから大人まで学び、訓練し、実践するための「家族学」を日本のコンテキストに合わせた形で構築し広めることで、多くの問題を未然に防ぎたい。

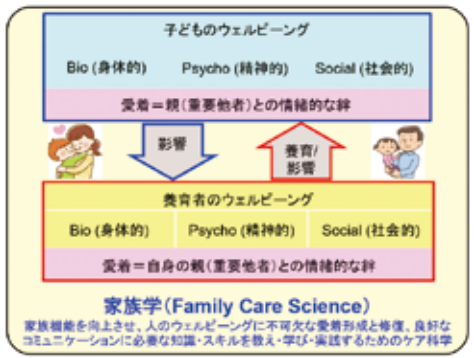


図.看護学・心理学・社会学・教育学など異分野融合による新学問領域「家族学」の構築

メッセージ

「無理・無駄・無謀と言われても、四の五の言わずにやってみる」私自身、新しい扉を叩いて看護学を学び始め、こうつぶやきながら研究を続けてきました。今、何をしたらよいかわからなくても、自分に何ができるか見えなくても大丈夫。扉を叩けば道は開かれ、一步踏み出せば驚くような景色が広がります。

Profile

研究分野

生涯発達看護学／小児看護

所属学会

日本小児看護学会／日本家族看護学会／日本子ども虐待防止学会／日本家族療学会／日本周産期メンタルヘルス学会／日本看護科学学会／看護理工学会／日本母性衛生学会／日本マインドフルネス学会

学歴・経歴

1990年 東京外国語大学ロシア語科 学士
2015年 筑波大学大学院 修士(看護科学)
2018年 東京大学大学院 博士(保健学)
2018年 東京大学大学院医学研究科附属グローバルナースングリサーチセンター 特任助教
2022年 同上 特任講師
2023年 石川県立看護大学小児看護学 教授
2025年 米国プリガム・ヤング大学 招聘教授

論文

- Tobe H, Watson AL, Marquez G, & Detrick R. Emerging Workforce Nurse Resilience - Enhancement Program: A Qualitative Descriptive Phenomenological Study. Journal of Advanced Nursing. 2026.
- Tobe H, Sakka M, Kita S, Ikeda M, Kamibeppu K. The efficacy of a resilience-enhancement program for mothers in Japan based on emotion regulation: a randomized controlled trial. Int. J. Environ. Res. Public Health. 2022. 19,14953.

書籍等出版物

- 戸部浩美. 看護職・子育て支援者のための家族のレジリエンスを高めるワークショップ実践ガイド. 医学書院. 2025.
- 戸部浩美 訳. マインドフルペアレンティング 忙しいママとパパのためのマインドフルネス. 北大路書房, 2020.

講演・口頭発表等

- 戸部浩美.「マインドフルペアレンティングー自分自身の親になる」招待講演. 日本マインドフルネス学会第13回大会. 2026年11月. 東京.
- Tobe H, Craig H. Measuring Japanese Parenting: Latent Profile Implications for Family Nursing Education International Family Nursing Conference (IFNA). June 2025, Perth, Australia.

競争的資金等の研究課題

- 「家族のレジリエンスを高める社会実装研究」(代表/日本生命財団2026年度児童・少年の健全育成実践的研究助成)
- 若手研究「ADHDを持つ子どもとその親向けのマインドフルネスプログラムの日本語版開発と効果検証」(代表/科研費事業:2023-2025年度)
- 若手研究「養育態度尺度日本語版開発と親の適切な養育を支援するコミュニティベース参加型研究」(代表/科研費事業:2020-2022年度)

社会貢献活動

親のレジリエンスを高めるプログラムの研究結果を元にワークショップを親・専門職者を対象に全国各地で開催



母性・小児看護学講座

千原 裕香 准教授

Yuka Chihara

contact: chihayu@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/yukachihara>

研究キーワード

子ども虐待予防／親になること／子育て／次世代育成教育
DX(Digital Transformation)

子ども虐待予防をめざして 親になる前の若者への支援アプローチを探る

研究の概要

子ども虐待は子どもの発達に広範囲で深刻な衝撃を及ぼすことが明らかとなっており、発生の未然防止が極めて重要である。様々な社会の変化により子どもと関わる機会が少なくなり、「親になること」について考えたり、子育てについて学んだりする機会がないまま親になり、育児不安や不適切な養育につながってしまうことが指摘されている。そこで、親になる前の若者にアプローチする子ども虐待予防支援プログラムの開発をめざし検討を重ねている。

研究の内容(大学院向け)

親になる前から始める 子ども虐待の世代間伝達防止支援プログラムの開発

子ども虐待予防支援プログラムとして、高校生が乳幼児とその親たちと交流する「親子交流を通して親になることを考えるプログラム」を開発してきた(図1)。これは、学校教育カリキュラムの中で実施できるように、いしかわ結婚・子育て支援財団・高校・NPO 法人などの子育て支援団体と共同開発している。これまでの研究で、高校生の親世代になることに対する意識向上や自己肯定感向上の効果を確認し有効性が示された。子育て初心者である親になる前の若者たちにとって、本プログラムのように「親になることを考える」機会を持つことに加えて、基本的な子育てスキルを知ることが必要と考えている。子育ては経験者からの伝聞に基づいてなされることが多く、様々な子育てスキルは経験や感性に大きく影響される。今後は、親になる前からトレーニングするべき科学的根拠に基づいた子育てスキル(Evidence-based Parenting Skill)を解明する研究も進めていきたい。



図1.親子交流を通して親になることを考えるプログラムの概要

メッセージ

子どもの成長発達を理解すると、大人とは違う子どもの世界が見えてきます。子どもは純粋でまっすぐ、だからこそ大人たちの関わり方でいろいろなカラーになる。子どもたちが健やかに成長できる社会の実現を目指して一緒に取り組みましょう。

Profile

研究分野

生涯発達看護学／小児看護／家族看護学

所属学会

日本小児保健協会／日本小児看護学会／日本子ども虐待防止学会／日本乳幼児精神保健学会／母性衛生学会／日本看護科学学会／日本看護研究学会／日本公衆衛生学会／看護理工学会

学歴・経歴

2021年 石川県立看護大学大学院看護学研究科 博士後期課程修了 博士(看護学)
2002年 金沢大学附属病院
2014年 石川県立看護大学小児看護学 助手
2017年 石川県立看護大学小児看護学 助教
2023年 石川県立看護大学小児看護学 講師
2025年 石川県立看護大学小児看護学 准教授

論文

- 青年期前期における「親世代になることに対する意識尺度」の作成と信頼性・妥当性の検討, 日本看護科学会誌 Vol.39, pp. 211-220, 2019
- 高校生のための「親子交流を通して親になることを考えるプログラム」の効果, 小児保健研究 Vol.81, 4号, pp. 351-358, 2022
- 高校生のための「親子交流を通して親になることを考える」プログラムの効果に関連する要因の検討, 看護実践学会誌, Vol.35, 1号, 2023
- 高校生のための改良版「親子交流を通して親になることを考える」プログラムの評価. 子どもの虐待とネグレクト. Vol.25(1) pp.191-201,2023
- Think about Being a Parent Program: Text Mining Analysis of High School Students' Thoughts on Parenting. Journal of Nursing Science and Engineering. Vol.12, 2025

書籍等出版物

NiCE 地域・在宅看護論Ⅰ(在宅看護論 改訂第3版), 第Ⅲ章第2節F(6)「子ども虐待予防」(分担執筆), 南江堂, 2023

講演・口頭発表等

- High School Students' Thoughts on "Being a Parent Yourself" After Participating in the "Think About Becoming a Parent Program. 27th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS). 2024; Hong Kong.
- High School Students' Thoughts on "Being a Parent Yourself" after Participating in the "Think about Being a Parent Program (TBPP)": A Text Mining Analysis. International Society for the Prevention of Child Abuse and Neglect (ISPAN) Congress Sweden. 2024; Sweden.

競争的資金等の研究課題

- 基盤研究(C)「親になる前から始める子ども虐待の世代間伝達防止支援プログラムの開発」(代表/科研費事業:2019-2022年度)
- 基盤研究(C)「VRによる多様な子育て疑似体験を活用した子ども虐待防止支援プログラムの開発」(代表/科研費事業:2023-2026年度)

社会貢献活動

- かほく市子育て支援事業乳児 NP(Nobody's Perfect/完璧な親なんていない) プログラム ファシリテーター
- 石川県意見表明等支援事業 意見表明等支援員



母性・小児看護学講座

後藤 亜希

助教

Aki Goto

contact: agotou@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/gotoaki>

研究キーワード

子育て支援／育児困難／母親／完全主義

child-rearing support, feelings of difficulty with child rearing, mothers, perfectionism

子ども虐待防止をめざした 育児困難を抱える母親支援を探る

研究の概要

育児困難の要因の一つとして、子育て支援場面においてよく指摘される、母親の「子育てをきちんとしたい」という強い思いや「頑張るすぎる」傾向の「完全主義」に注目した。子どもが日常生活でうまくできないことがあると、母親はすぐに苛立ち、子どもをたたいたり叱責をしてしまう。母親は子どもに八つ当たりをした自分を反省し、落ち込んでしまう。子どもは失敗を繰り返すため、母親は子どもに苛立ってしまう。この過程の繰り返しにより母親は疲弊し、育児困難感が強まっていく。育児困難に陥る要因の一つに完全主義が関係しているのではないかと考える。完全主義傾向の強い母親が育児困難に陥っているときに、「不完全な自分でもよい」と感じることは育児困難感が軽減されるのではないかと考える。このためには、母親自身が他者に認められ、エンパワーされることが重要であると考え。完全主義の強い母親が、過度に完璧さを求めることを軽減すためには、「安心できる関係性」を築いた人たちの存在と、その人たちとの間での「エンパワーされた経験」が必要であると考えた。支援者と母親同士の信頼関係を育てながら、仲間づくりの場の中で継続的に母親を支援していく方法を探る。

研究の内容(大学院向け)

多様化する現代社会に合った子ども虐待予防支援システムを探る

近年 COVID-19 の蔓延により母親が対面での支援に不安を抱き、参加を抑えることがあった。そこで、対面では無い支援ができないかと考えた。母親が児の理解にもつながるような子育て支援を多様化する現代社会に合った支援システムを探る。



メッセージ

子どもが健やかに成長するには、親も健やかであることが大切です。はじめから完璧な親や子どもなどは存在しません。“これで大丈夫”という気持ちで子育てにベストを尽くせるお手伝いをしていきたいと思っています。子どもと家族を支える看護と一緒に学びましょう。

Profile

研究分野
小児看護学

所属学会
日本子ども虐待防止学会
日本乳幼児精神保健学会／日本小児保健協会
日本小児看護学会／日本看護科学学会

学歴・経歴
2010年 石川県立看護大学大学院看護学研究学科 修士(看護学)
2019年 石川県立看護大学 臨時助教
2020年 石川県立看護大学 助教

論文
母親の完全主義と育児困難・エンパワーされた経験の関係 石川看護雑誌, 2020年, 第17巻, p. 23-36.

講演・口頭発表等
● 母親の完全主義とエンパワーされた経験の関係 - 完全主義がもたらす育児困難に注目して - 日本子ども虐待防止学会第16回学術集会くまもと大会プログラム抄録集, 2010年, p. 174.
● 理想の母親像との不一致感と自己注目傾向が育児不安に及ぼす影響 第19回石川県小児保健学会小児保健いしかわ, 2009年, 21巻, p. 6.

社会貢献活動
● かほく市子育て支援事業 幼児 NP (Nobody's Perfect / 完璧な親なんていない) 親支援プログラム ファシリテーター (2020～)
● 石川県立看護大学同窓会「さくら会」副会長 (2022～)



母性・小児看護学講座

西 真理子

助教

Mariko Nishi

contact: n.mariko@ishikawa-nu.ac.jp

研究キーワード

特別養子縁組／実母支援／自立支援／虐待予防／予期しない妊娠

子どもを特別養子縁組に託す 実母への支援を確立し、傷ついた女性を支援する

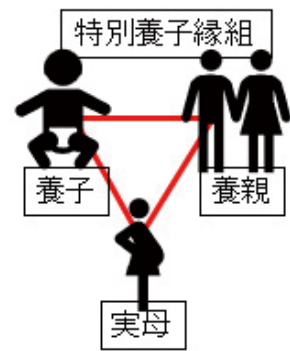
研究の概要

虐待や貧困等により親から養育を受けられない子どもの養子縁組や里親等による家庭での養育率は非常に低く、文化社会的背景を考慮したうえで認知や受容を変革していく必要がある。そのような中、特別養子縁組に子どもを託す実母への支援はほぼなく、予期しない妊娠を経て出産後すぐに子どもを託すという人生の劇的な変化と、深い傷つきや不安を経験した女性への心理教育を含めた長期的な自立支援を目指し研究に取り組んでいる。

研究の内容(大学院向け)

子どもを特別養子縁組に託す実母への支援プログラムを開発し、世論や意識を変容する

予期しない妊娠をした女性に対する支援は少なく、一人ひとりが自助の中で対応するしかない。その選択は人工妊娠中絶、赤ちゃんポストへの預け入れ、特別養子縁組に子どもを託す、最悪の結果が0歳0日死亡である。特別養子縁組に子どもを託した実母と、長年その支援に携わってきた専門家からの質的データを基に、各国の文化社会的背景を考慮しながら支援プログラムを開発し、効果を検証することを目指している。



メッセージ

研究を通じて、自分の興味を深く掘り下げ、知識の領域を広げることができ、新たな発見をする喜びがあります。虐待の加害者、被害者を作らない、優しい社会の実現を目指して一緒に取り組みましょう。

Profile

研究分野
女性看護学／家族看護学

所属学会
看護実践学会／日本母性衛生学会
日本子ども虐待防止学会／日本小児保健協会
看護理工学会

学歴・経歴
2023年 石川県立看護大学 助手
2024年 石川県立看護大学 助教

論文
病産院の助産師が産後健診に行っている母親のメンタルヘルスクリーニングの実践・看護実践学会, 40-49, 35(3), 2024.3

講演・口頭発表等
● 西真理子, 千原裕香, 戸部浩美: 予期せぬ妊娠に直面した女性への支援のあり方 - 日韓の視察(さめじまボンディングクリニック・baby Box・愛蘭院)を通して -, 石川看護雑誌, 23, 25-30, 2026.3
● 西真理子, 米田昌代: 産院の助産師が行う2週間健診を中心とした産後健診における母親へのメンタルヘルスクエアの実践 - メンタルヘルスクリーニングに焦点を当てて -, 第39回石川県母性衛生学会, 2023.6, 第39回石川県母性衛生学会抄録集, 13, 2023
● Mariko Nishi, Hiromi Tobe, Yuka Chihara: Behind the Scenes of Japanese Special Adoption: The Reality of Supporting Birthmothers by Removing Invisible Barriers, 15th International Nursing Conference (INC) & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), 2025, Korea

社会貢献活動
● ラジオ出演, FM かほく (月曜なるほどインタビュー), 2025.8
● 学童期・思春期のお子様がいるママのための子育て「Aka'aka サロン」ファシリテーター, かほく市総合センターおひさま (かほく市), 2023.8～12

競争的資金等の研究課題
基盤研究 (C) 「養子縁組に子どもを託す実母支援調査と地域参加型研究による支援プログラムの開発」 (代表 / 科研費事業: 2025-2027年度)



成人・老年看護学講座

紺家 千津子 教授

Chizuko Konya

contact: ckonya@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ https://researchmap.jp/c_konya

研究キーワード

傷(きず)ケア／スキンケア／リモート支援／災害看護

どこでも、すべての人たちの皮膚を健康に保つ 最良なケアを実現

研究の概要

高齢者の皮膚は、加齢により薄くなり、生理的な機能の低下により皮膚が乾燥し、傷もできやすくなります。傷ができると、痛みが起こり、日常生活にも支障がでます。この傷の例として、寝て過ごす時間の多い方に起こりやすい褥瘡(じょくそう)や、腕の紫斑部に家具などに擦れただけで起こるスキン-テア(皮膚裂傷)があります。これらの傷は、痛みだけでなく、感染すると生命にもかかわります。そのため、これらの皮膚障害を予防するために、誰もが、いつまでも健康な皮膚であり続けられるよう研究に取り組んでいます。

研究の内容(大学院向け)

プロフェッショナルなスキンケア開発とDX化

皮膚を健康に保つためには、皮膚障害のリスクをアセスメントし、そのリスクを改善させるケア計画を立案し実施する必要があります。これらは、どの年代にも必要な基本的な看護技術です。しかし、皮膚が乾燥しているから保湿剤を塗るケアを例にすると、時間をかけて保湿剤を毎日塗布するケアを行っていても効果は十分には期待できません。その対象となる方の皮膚の状態を見極め、さらにどのような保湿成分が必要か、クリームか、ローションか、あるいはゲルかなど基材も検討する必要があります。日々のスキンケアを科学的根拠のあるケアに変え、病院や介護施設、ご自宅の療養者にとっても幸せでいられるケアを開発し、さらにICTも活用して広めていく研究をしています。



メッセージ

健康な皮膚を保つケアは、看護職者であれば誰もが求められるケアです。しかし、誰もが最良のケアを提供できてはいません。よりよいスキンケア方法に関する研究結果は、論文を通して海外に発信すると世界の人たちのスキンケアも今よりも良いケアに変わります。この素敵な体験と一緒にしましょう！

Profile

研究分野

創傷看護学／看護理工学

所属学会

日本創傷・オストミー・失禁管理学会
日本褥瘡学会／看護理工学会
日本創傷治癒学会／日本看護科学学会 など

学歴・経歴

1997年 創傷・オストミー・失禁看護(現 皮膚・排泄ケア) 認定看護師
2005年 金沢大学大学院 医学系研究科修了 博士(保健学)
2006年 金沢大学大学院医学系研究科 助教授
2010年 金沢医科大学看護学部 教授
2019年 石川県立看護大学看護学部 教授

受賞

2016年度 看護理工学会 学会賞

論文

- Nationwide time-series surveys of pressure ulcer prevalence in Japan. J Wound Care, 2022
- 皮膚・排泄ケア認定看護師による病院外施設のストーマ周囲皮膚障害保有者に対する遠隔看護師支援の効果検証. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 23(2), 2019

書籍等出版物

- ストーマケアガイドブック. 照林社, 2024
- 改定 DESIGN-R® 2020 コンセンサス・ドキュメント. 照林社, 2020
- ベストプラクティス スキン-テア(皮膚裂傷)の予防と管理. 照林社, 2015

講演・口頭発表等

- ABCD-Stoma®ケア:共通言語で語ろう「ストーマ周囲皮膚障害とそのケア(特別講演)'. 中国天津WOC 総会
- 令和6年能登半島地震:褥瘡ケア支援システムの構築と運営. 第12回看護理工学会学術集会
- 子どもから高齢者まで、みんなが幸せになる皮膚の健康管理. 北國健康生きがい支援事業

競争的資金等の研究課題

- 科研費基盤研究(B) 介護保険施設のリモート支援による最良な皮膚障害予防・管理実装モデルの構築
- 厚生労働行政推進調査事業費補助金 特定行為にかかる評価指標を用いた活動実態調査研究

社会貢献活動

- 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 監事
- 日本創傷治癒学会 理事
- 令和6年能登半島地震 能登北部褥瘡ケア支援
- 第56回 日本創傷治癒学会 大会長 など



成人・老年看護学講座

峰松 健夫 教授

Takeo Minematsu

contact: takeom@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/skincare>

研究キーワード

看護理工学／スキンケア／創傷治癒／慢性脱水／認知症

皮膚を^みる、皮膚を^も護る、そして皮膚から^きずる

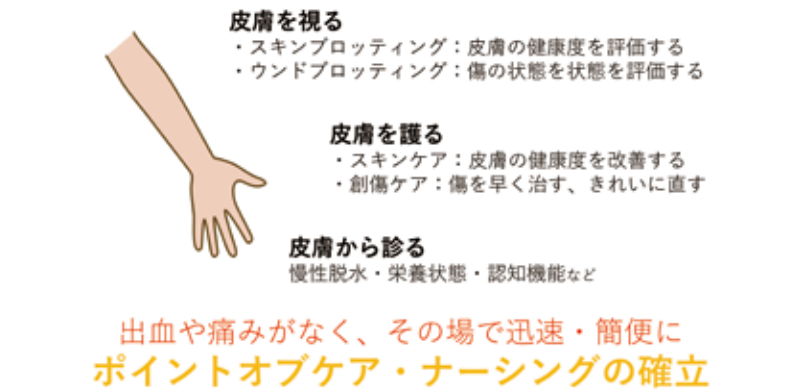
研究の概要

身体の外最層をおおう皮膚は、体内と体外を隔て生命を維持する臓器です。皮膚には痛みやかゆみを感じる神経末端が多く分布しており、かつ人目にさらされる部位であるため、皮膚の異常は生命を脅かすのみならず、強い不快感により生活の質(QoL)を低下させ、さらにボディイメージなどを損なうことで精神的苦痛にも直結します。そこで、誰もが簡便に、出血や痛みもなく皮膚や創傷の状態を検査できる「スキンプロッティング」「ウンドプロットティング」を開発してきました。これまでスキンプロッティングを皮膚バリア機能の評価や褥瘡(いわずれ)の発生予測、ウンドプロットティングを褥瘡の治癒予測などに応用してきました。さらに近年は、スキンプロッティングを全身状態の評価にも応用できることを見出し、慢性脱水の評価や認知症の予測にも取り組んでいます。

研究の内容(大学院向け)

ポイントオブケア・ナースィングで新たな価値を創造する

ポイントオブケア・ナースィングとは、看護師が臨床現場で簡便かつ非侵襲的に検査を行い、その場で得られた結果に基づいてケアを提供する看護のことです。また、患者自身による自己検査とその結果に基づくセルフケアのシステムも含まれます。スキンプロッティングは、ポイントオブケア・ナースィングを実現するために最適な技術であると考えられます。これを実現するためには、何を(バイオマーカー)何のために(疾患、症状など)検査するのか、その精度は如何ほどかを明らかにする必要があります。また、検査で明らかになった問題の本質を解決する新しいケア技術として、高機能皮膚洗浄剤などの開発にも取り組んでいます。さらに、看護理工学のフレームワークを用いた産学連携で、それらの実用化と普及にも取り組んでいます。



メッセージ

看護大学を卒業した後の進路には、看護師だけではなく、看護学研究者という選択肢もあります。私たちと一緒に、少子高齢化社会を支える看護の未来を創っていきませんか。

Profile

研究分野

看護理工学／創傷看護学／スキンケアサイエンス

所属学会

看護理工学会／日本創傷治癒学会／日本褥瘡学会
日本創傷・オストミー・失禁管理学会 など

学歴・経歴

1995年 筑波大学第二学群農林学類 卒業
1995年 青年海外協力隊(ネパール, 家畜飼育)
2004年 筑波大学大学院農学研究科修了 博士(農学)
2017年 東京大学大学院医学系研究科 特任准教授
2022年 石川県立看護大学 教授

受賞

2014年 Rye Pharmaceuticals New Investigator Award (Science & Technology)
2019年 APETNA2019 Best Moderated Poster Award

論文

- Skin blotting: A noninvasive technique for evaluating physiological skin status. Adv Skin Wound Care. 2014.
- Development and reliability assessment of a liquid-phase measurement for skin taurine using skin blotting. Drug Discov Ther, 2025.

書籍等出版物

- 看護学における生物学的アプローチ. 看護理工学, 東京大学出版会, 2015.
- スキンプロッティング: 新たなポイントオブケア・スキンアセスメント手法. 進化する皮膚研究最前線. エヌ・ティー・エス, 2021.

講演・口頭発表等

- ソホロファインバブルを用いて洗浄したクリティカルコロナイゼーション創における細菌の組織内分布. 第54回日本創傷治癒学会. 2024/12/5-6
- スキンプロッティングによる脱水アセスメント法開発における産学連携の取り組み. 第41回日本栄養治療学会学術集会, 2026/2/13-14

競争的資金等の研究課題

科研費基盤研究(B) 車いすアスリートにおける深部損傷褥瘡(DTI)の早期同定法の確立

特許

軽度認知障害検出マーカー及びその使用. 特願 2024-181346

社会貢献活動

- 看護理工学会 常任理事, 編集委員長
- 日本創傷治癒学会 理事 など



成人・老年看護学講座

臺 美佐子 教授

Misako Dai

contact: daim000@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/misakodai>

研究キーワード

がん／リンパ浮腫／スキンケア／エコー／遠隔

がんと浮腫と共に 健やかに暮らす 未来を創る

研究の概要

目指す未来は、がんや浮腫の方々が安全・安心・快適に暮らすことができる社会の実現である。特に、がん治療後のリンパ浮腫と、それに伴うリンパ漏・蜂窩織炎は重要な臨床課題で、適切なアセスメントやケアが不十分のために重症化し、身体・心理・社会的影響をもたらすことが多い。この解決には、アセスメントやケア方法の革新的変化が必要で、かつ医療者・患者教育の充実化、そして、地域格差の均霑化が求められている。

そこで、石川県のどの地域でも、全国のどの施設でも、世界中のどの国でも、質の高いケアを受けられるシステムを開発するべく、看護理工学の手法を用いた異分野融合・多施設共同・国際共同で研究を行っている。特に、超音波技術(エコー)を用いたリンパ浮腫のアセスメントは世界をリードした革新的方法であり、今後、リンパ浮腫エコーアセスメントとそれに基づくケア方法の体系化、医療者や患者への教育方法の確立、実装への研究を行う。

研究の内容(大学院向け)

臨床実践で生じる素朴な疑問を大切にしたい あなたの疑問が看護を変える力に

リンパ浮腫のケアは、視診や触診による外観評価に基づきケアが選択される。しかし、臨床で、外観評価と重症度が一致せず、ケア選択に悩み、浮腫管理に難渋する経験が多々あった。そこで、病態の可視化に着目し、エコーを用いた真皮・皮下組織の観察研究により、症状との関連性やケア前後での特徴的な所見を明らかにしてきた。今後は、これらの知見を体系化し、画像評価の自動化や遠隔化システム構築を図ることで、様々な地域や国への実装を目指していく。

なお、本研究は、この臨床疑問に賛同し、浮腫ケアの質向上という夢を共に描いた看護学・医学・理工学等の研究者・医療者らと研究チームを構成し実施している。



メッセージ

思えばいつでも、私のまわりには“臨床課題”を大切に研究に励む仲間がいました。石川県立看護大学には、看護の未来へ夢を描く教員や学生がたくさんいます。看護の発展に向けて、一緒に夢をもって“臨床課題”解決への研究的思考を磨いてみませんか。

Profile

研究分野

成人看護学／がん看護学／看護理工学

所属学会

日本看護科学学会／国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会／日本リンパ浮腫治療学会／看護理工学会／日本がん看護学会 など

学歴・経歴

- 群馬大学医学部保健学科看護学専攻 卒業
- 金沢大学大学院医学系研究科修了 博士(保健学)
- 慶應義塾大学病院脳神経外科病棟 看護師
- 金沢大学医薬保健研究域看護科学領域 助教
- 東京大学大学院医学系研究科 特任講師
- 藤田医科大学社会実装看護創成研究センター 准教授
- 石川県立看護大学成人看護学 教授

受賞

- Journal of Wound Care Awards 2025, Gold受賞, Compression Therapy for Venous and Lymphatic Disorders部門, 2025
- British Journal of Nursing Award 2024, Chronic oedema Nurse of the year 受賞, 2024
- 優秀演題賞, 第6回日本リンパ浮腫治療学会, 2022

論文

- Dai M et.al. Multidisciplinary approach for successfully managing lymphorrhoea and epidermolysis in lymphoedema patient with Klippel-Trenaunay syndrome: A case study, BJN, 33, 104-108, 2024
- Dai M et.al. Association of Dermal Hypoechoogenicity and Cellulitis History in Patients with Lower Extremity Lymphedema: A Cross-Sectional Observational Study. Lymphat Res Biol, 20, 376-381, 2021.

書籍等出版物

リンパ浮腫エコー, がん看護に生かす画像の見かた読みかた 見るみるわかるBOOK, 252-255, メディカ出版, 2024

講演・口頭発表等

Misako Dai. Ultrasonography for lymphoedema. Invited lecture, 10th International Lymphoedema Framework Conference, UK, 2023

競争的資金等の研究課題

- 科研費基盤研究(B)代表:リンパ浮腫ケア選定のための超音波検査技術アセスメントと遠隔システムの確立, 2023年度 -2027年度
- 科研費挑戦的研究(萌芽)代表:リンパ浮腫の蜂窩織炎再発予防に向けたアドバンストスキンケア方法の開発, 2023年度 -2025年度

社会貢献活動

- 第12回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会大会会長(石川県立看護大学, 2023.9.17)
- 浮腫ケア相談室, 石川県立看護大学地域ケア事業, 2024年度 -



成人・老年看護学講座

南條 裕子 講師

Yuko Nanjo

contact: nanjoy@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ https://researchmap.jp/Yuko_Nanjo

研究キーワード

クリティカルケア／重症化予防／看護の質改善
EBP: Evidence-Based Practice

“重篤な病気を乗り越えた先”に、 「頑張って良かった」の笑顔を目指す

研究の概要

集中治療領域の発展により、重症患者の生存率は上昇したが、その一方で、長期予後の悪化やQOL低下が問題視されるようになった。集中治療後の運動機能・認知機能・メンタルヘルスの障害はPost intensive care syndrome: PICSと言われ、患者とその家族の退院後のQOL低下の一因とされている。特に、超高齢化社会においては、患者の多くが高齢者であることからPICS発症のリスクは高く、一旦退院しても再入院を繰り返すなどにより、患者やその家族だけでなく、医療経済への負担は大きいものとなっている。

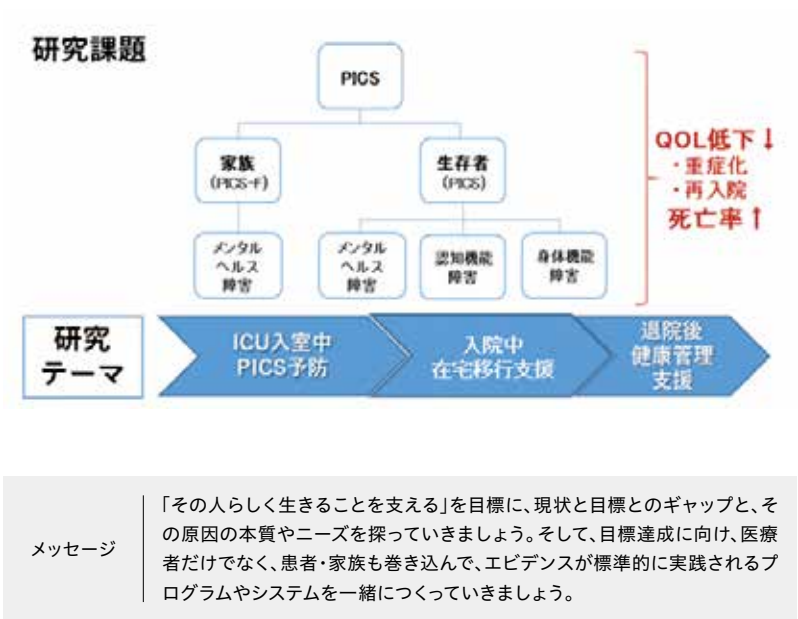
そのため、重篤な病態を乗り越えた患者とその家族が、退院後に自律して生活できること(自助力を活かした在宅療法への移行支援、心身のリハビリの継続、異常の早期発見による重症化前の対応=再入院予防)を目標に、プログラムやシステムの開発に関する研究に取り組んでいる。

- 1) ICU入室中～入院中のアプローチ
- 2) 退院後のアプローチ

研究の内容(大学院向け)

質の高い看護ケアの提供の実現に向けて 一緒に研究していきましょう。

- 1) ICU入室中～入院中のアプローチ:PICS予防・在宅移行支援
- 2) 退院後のアプローチ:健康管理支援



Profile

研究分野

クリティカルケア／看護管理

所属学会

日本集中治療医学会／日本看護管理学会
日本看護科学学会／看護理工学会
日本クリティカルケア看護学会
日本看護シミュレーションラーニング学会

学歴・経歴

大学医学部附属病院 看護師, 看護師長を経て
2023年より 石川県立看護大学 講師
2000年 集中ケア認定看護師 取得
2010年 東京大学大学院医学系研究科 修士課程(保健学)
2021年 聖路加国際大学看護学研究科 博士課程(看護学)

受賞

2013年, 2021年 東京大学医学部附属病院リスク
マネジメント研究課題 病院長賞
2021年 日本看護科学学会 優秀口演賞

論文

- 生体情報モニタ使用時のリスクテイキングと影響要因-看護師の実態調査から- Clinical Engineering 22(9); 851-858, 2011年
- Relationship Between Morphological Characteristics and Etiology of Pressure Ulcers in Intensive Care Unit Patients. J Wound Ostomy Continence Nurs. 38(4); 404-12, 2011年
- 急性期病院一般病棟における終末期医療を含む Early Warning System の開発と実装. 看護理工学会誌 10(0), 44-55, 2022年

書籍等出版物

ICUナースポケットブック改訂第2版 学研2022年

講演・口頭発表等

2020年 クリティカルケア看護学会プラクティスセミナー:重症患者の褥瘡予防-今,まさにEBPが求められる-

2021年 日本看護科学学会優秀口演:急性期病院一般病棟におけるEarly Warning Systemの実装に関する研究

競争的資金等の研究課題

2012年, 2013年 生体情報モニターアラームの無駄なり低減の検討

2020年 がん患者を対象としたEarly Warning Systemの実装に関する研究

2024年 集中治療後の移行期ケアガイドの開発(科学研究費助成事業 若手研究)

社会貢献活動

- 日本集中治療医学会評議員
- かほく市との包括的連携事業 石川県立大学救急ボランティアチーム顧問



成人・老年看護学講座

瀧澤 理穂 助教

Riho Takizawa

contact: takizawa@ishikawanu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/rtakizawa>

研究キーワード

がん／意思決定／対話／Cancer, Decision making, Dialogue

がん体験者の悩みの核心や意思決定の背景をとともに探る

研究の概要

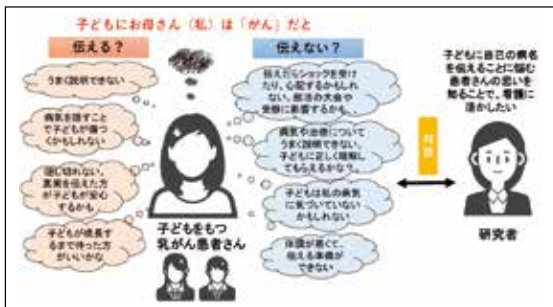
医療の進歩により、がんの生存率は向上している。がん体験者が定期的な通院、仕事や家事を調整し、病気に伴う生活の変化にうまく対処していくためには、他者からのサポートを得ることが重要となる。その前段階として、がん体験者であることを家族や周囲にいつ、どこまで、どのように伝えるかという悩みが生じている。そういったがん体験者の意思決定に関する思いや体験を明らかにし、がん体験者を支援することを目的に研究に取り組んでいる。

研究の内容(大学院向け)

子どもや家族、周囲に自己の病名を伝えることに悩むがん患者、その患者を支援する看護師の世界を知る

子どもをもつ乳がん患者にとっては、子どもに自分の病名を伝えるべきか否かは悩みの一つであるといわれている。その悩みは、たとえ同じ病期で同じ年齢の子どもを養育していても、患者の病状の受け止め方、患者や子どもの特性、これまでの家族の歴史、周囲との協力体制などそれぞれの社会背景や考え方などによって異なる。

患者が子どもに自分の病名を伝えない要因としては、母親自身の負担になることや、子どもに精神的負担を与えたくないなどがあるといわれている。しかし、子どもに病名を伝えることに悩む患者の体験や、その患者を支援する看護師の主観的経験を明らかにした研究は少なく、伝えられない患者への支援がすすんでいない現状である。そのため、対話を通して子どもに自己の病名を伝えることに悩む乳がん患者の体験を明らかにし、がん患者への看護支援の在り方を検討したいと考えている。



図．研究の概要

メッセージ

石川県立看護大学では、看護師に必要な根拠のある知識や技術を学ぶだけではなく、皆さんが高度で多様な医療に対応できる判断力・思考力を身に付けられるよう教職員一同がサポートしています。卒業後の進路は病院だけではなく地域や教育・研究機関企業と幅広く、進学してさらなるスキルアップを目指すこともできます。本学はあなたの夢を全力で応援しています。

Profile

研究分野

がん看護／慢性期看護

所属学会

日本看護科学学会／日本がん看護学会
日本緩和医療学会／日本看護研究学会

学歴・経歴

- 石川県立看護大学看護学部看護学科(看護学)
- 石川県立看護大学大学院 博士前期課程実践看護学領域成人看護学分野がん看護 CNS コース 修士(看護学)
- 石川県立看護大学大学院 博士後期課程(看護学)

受賞

瀧澤理穂, 牧野智恵:第27回日本緩和医療学会.
2022年.(優秀演題)

論文

- 瀧澤理穂, 牧野智恵:乳がん患者が子どもに病名を伝える苦悩を乗り越える体験 - M.Newman 理論に基づく対話から -. 日本がん看護学会誌,31,172-180,2020年.
- 瀧澤理穂, 牧野智恵:がん体験者が身近な人に病名を伝える上での悩み. 石川看護雑誌,7,63-68,2020年.

講演・口頭発表等

- 瀧澤理穂, 牧野智恵:県民における緩和ケア・在宅療養に関する意識調査-2010年の調査と比較して-. 第35回日本がん看護学会学術集会,2021年.
- 瀧澤理穂, 牧野智恵:乳がん患者が子どもに病名を伝えることへの看護介入の困難感に関するアンケート調査. 第27回日本緩和医療学会,2022年
- Riho Takizawa, Tomoe Makino: Experiences of breast cancer patients who worry about telling their children about the disease. East Asian Forum of Nursing Scholars, 2023年.

競争的資金等の研究課題

瀧澤理穂:乳がん患者が子どもに病名を伝える苦悩の体験,R2～R5年,科学研究費助成事業 若手研究

社会貢献活動

- 石川県立看護大学地域ケア総合センター事業企画責任者
- 一人で悩まないで乳がんサバイバー同士で語り合おう(2020年～)
- 終末期実践の悩みを語り心も体もリフレッシュ(2020年～)
- 看護研究に活かせる現象学を楽しく学ぼう(2023年～)



成人・老年看護学講座

星野 真実 助教

Makoto Hoshino

contact: hoshinom@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/hoshinom>

研究キーワード

看護理工学／生体シミュレーション／バイオメカニクス／異分野融合

シミュレーションで非侵襲的に体内を観察し、看護理工学による新たなケア・機器開発へ

研究の概要

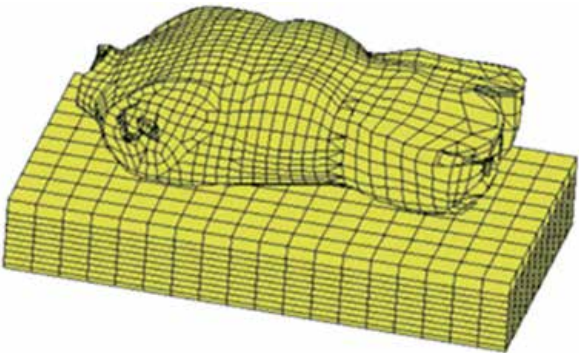
わが国において、高齢化や医療の高度化により看護はより社会的に重要なものとなり、その技術の発展が望まれている。私はその中でもシミュレーション技術を用いた工学的手法を用いて看護学の研究を行っている。シミュレーション技術を用いることでコンピュータ上で身体モデルを再現し、非侵襲的に身体内部に加わる力の予測などが行える。この技術を用いて褥瘡(じよくそう)予防のためにベッドに寝たときに身体内部にどのような力が加わっているのか予測できるモデルの開発(下図)やリンパ浮腫の圧迫療法における身体内部への影響を予測できるモデルの開発などに取り組んでいる。

更に既存の枠組みにとらわれず看護学と異分野融合をした研究に取り組むことを目指している。

研究の内容(大学院向け)

看護学と工学の学際的研究により、身体内部に加わる力を観察することで新たなケアへ

有限要素法という技術を使用し、生体のシミュレーションを行うことで身体内部に加わる力を予測する研究を行っている。臨床の看護師において褥瘡の発生やリンパ浮腫の圧迫療法、弾性ストッキングの使用など表面だけではなく身体内部の力学的影響が関係する場面は多数存在する。しかしその力を非侵襲的に測定するのは難しい。そこでコンピュータ上で力を加えたときに身体内部に影響する力を予測することでどのような方法が効果があるのか評価し、新たなケアや機器開発につなげていく。



図．褥瘡予測のための有限要素モデル

メッセージ

看護学の研究ではその成果をどのように社会に還元していくかが特に重要だと考えています。そのためには看護学を中心に学際的な研究を行ってきたいと考えています。ぜひ一緒に新たな看護学の発展をめざしましょう！

Profile

研究分野

看護理工学／創傷看護学／バイオメカニクス

所属学会

看護理工学会／日本褥瘡学会／日本機械学会
国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会
日本創傷・オストミー・失禁管理学会
日本看護技術学会／日本看護研究学会
看護人間工学会／日本転倒予防学会

学歴・経歴

- 2019年 静岡県立大学看護学部 卒業 看護師・保健師
- 2019年 菊川市立総合病院 看護師
- 2025年 金沢大学大学院新学術創成研究科融合科学共同専攻 博士前期課程 修了 修士(融合科学)
- 2025年 金沢大学大学院新学術創成研究科融合科学共同専攻 博士後期課程 入学
- 2025年 石川県立看護大学 成人・老年看護学講座 助教

論文

星野真実, 坂本二郎, 茅原崇徳, 腰部有限要素モデルを用いた側臥位における体圧分散マットレスの力学的評価, 看護理工学会誌, 2025;12:119-135.

講演・口頭発表等

- 星野真実, 勝森琢朗, 池田舜亮, 坂本二郎, 大野直樹, 大桑麻由美, 大江真琴, 茅原崇徳, 三浦真揮, 松田英明, 林修巳, 身体内部のせん断応力を含めた褥瘡予防に有効なウレタンマットレスの検討—実験と有限要素解析を通して—, 第19回日本褥瘡学会中部地方会学術集会, (2024)
- 星野真実, 勝森琢朗, 坂本二郎, 大野直樹, 大桑麻由美, 大江真琴, 茅原崇徳, 三浦真揮, 松田英明, 林修巳, 体圧分散寝具のバイオメカニクス的評価のための個別別有限要素モデルの開発, 第12回看護理工学会学術集会, (2024) (示説)

社会貢献活動

- がんところと看護の力. 石川県立看護大学リカレント教育事業開催・運営. 石川, 2025
- リンパ浮腫ケア選定をアシストするエコーアセスメント, 第9回日本リンパ浮腫治療学会学術集会ハンズオンセミナー, 浜松, 2025
- がん看護分野のアドバンスケアワイヤレスエコーで実践するリンパ浮腫エコーアセスメントー, 第40回日本がん看護学会学術集会交流集会, 大阪. 2025



成人・老年看護学講座

北村 言 教授

Aya Kitamura

contact: kitamura@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/akitamura>

研究キーワード

高齢者／褥瘡／在宅／遠隔

高齢者が「今が幸せ」と思える生活を支える新たな看護技術の開発

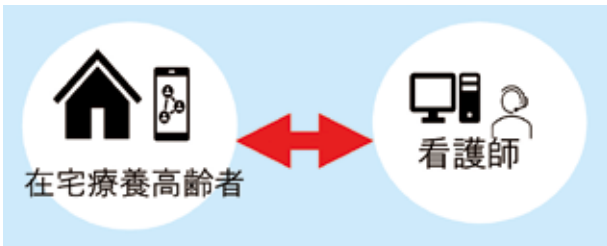
研究の概要

高齢化率が上昇する中、これまでと同じケア方法では、同等あるいはより質の高いケアを全ての高齢者に提供することは難しくなります。その課題を解決するには、看護ケアも変化していかななくてはなりません。世の中の変化とともに、高齢者を取り巻く環境も大きく変化し、様々なテクノロジーが身近なものになってきています。現在、そして未来の高齢者の生活を支えるため、それらのテクノロジーを活用し、新たな看護技術の開発に取り組んでいます。

研究の内容(大学院向け)

褥瘡のアセスメントおよびケア技術に関する研究、高齢者の在宅療養支援に関する研究

在宅療養高齢者は今後ますます増加することが予想されます。彼らの生活を支えるため、高齢者がどこに住んでいても、いつでも、最良のケアを受けられるようにするには、従来の対面でのケアだけでなく、遠隔でのケア提供も組み合わせることが必要となっていくと考えられます。これまで褥瘡を研究テーマに、遠隔看護の研究にも取り組んできました。在宅での褥瘡ケアでは、訪問看護師が日々の褥瘡ケアを実施していることが多いです。訪問看護師が利用者宅で褥瘡ケアを実施する際に、創傷の専門家である皮膚・排泄ケア認定看護師の助言を遠隔で受けられるようにすることで、褥瘡の治癒が促進されることを報告しました。在宅療養高齢者の遠隔での生活支援という視点で研究を広げていきたいと思っています。



現在取り組んでいる大学院生の研究テーマ

- ・高齢者施設における排便管理に関する研究
- ・車椅子を使用する高齢者の褥瘡予防に関する研究
- ・高齢者を対象とした、手術室看護に関する研究

メッセージ

高齢者が「今が幸せ」と思える生活を看護の力で支えていきたいと思いが、研究に取り組んでいます。新しい看護技術・システムと一緒に作っていきませんか。

Profile

研究分野

老年看護学／創傷看護学／看護理工学

所属学会

日本褥瘡学会／日本創傷・オストミー・失禁管理学会／日本看護科学学会／日本創傷治癒学会／看護理工学会／日本看護管理学会 など

学歴・経歴

- 2006年 名古屋大学 卒業
- 2006年 三重大学医学部附属病院 看護師
- 2011年 名古屋大学医学部保健学科 助教
- 2014年 東京大学大学院医学系研究科健康科学／看護学専攻 修士課程 修了
- 2017年 東京大学大学院医学系研究科健康科学／看護学専攻 博士課程 修了
- 2017年 東京大学大学院医学系研究科健康科学／看護学専攻 助教
- 2022年 東京大学大学院医学系研究科健康科学／看護学専攻 准教授
- 2024年 石川県立看護大学 教授

論文

- Kitamura A, Nakagami G, Okabe M, Muto S, Abe T, Doorenbos A, Sanada H. An application for real-time, remote consultations for wound care at home with Wound, Ostomy, and Continence Nurses: A case study. Wound Practice and Research. 2022;30(3):158-162.
- Kitamura A, Nakagami G, Minematsu T, Kunimitsu M, Sanada H. Establishment of an infected wound model by bacterial inoculation on wound surface in rats. J Nurs Sci Eng. 2021;9:1-8.
- Kitamura A, Nakagami G, Matsumoto M, Hayashi C, Kawasaki A, Sanada H. Effectiveness of a robotic mattress with automatic inner-air cell adjustment and continuous pressure mapping on prevention of pressure ulcer deterioration in a critically ill patient with a pressure ulcer in the sacrum. J Jpn WOCN. 2021;25(4):689-696. など

講演・口頭発表等

- 北村言. DESIGN-R®2020:褥瘡アセスメントの発展と活用. 日本褥瘡学会誌. (第27回日本褥瘡学会学術集会, 教育講演11., 横浜, 2025年8月30日)
- 北村言, 松本勝, 高橋聡明, 麦田裕子, 島田宗太郎, 平岡桃重, 仲上豪二郎, 真田弘美. エコーによる膀胱内尿量計測の新卒訪問看護師へのVRを用いた教育. (第12回看護理工学会学術集会, 石川県立看護大学, 石川, 2024年11月2-3日) など

競争的資金等の研究課題

科研費 基盤研究(C), 中小規模病院における褥瘡の実態と関連要因の分析に基づく外部支援方法の提案と評価, 2026-2029年度

社会貢献活動

- 石川県立看護大学 令和8年度IPNU地域相談事業「もの忘れ相談」
- 一般社団法人次世代看護教育研究所 エコー技術講習会 講師 など



成人・老年看護学講座

大橋 史弥 准教授

Fumiya Oohashi

contact: foohashi@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/fumiyaoohashi>

研究キーワード

心不全／心エコー／心機能増悪／予測モデル／実装

エコーによる体内可視化で高齢者の安心した暮らしを支える看護システムを探る

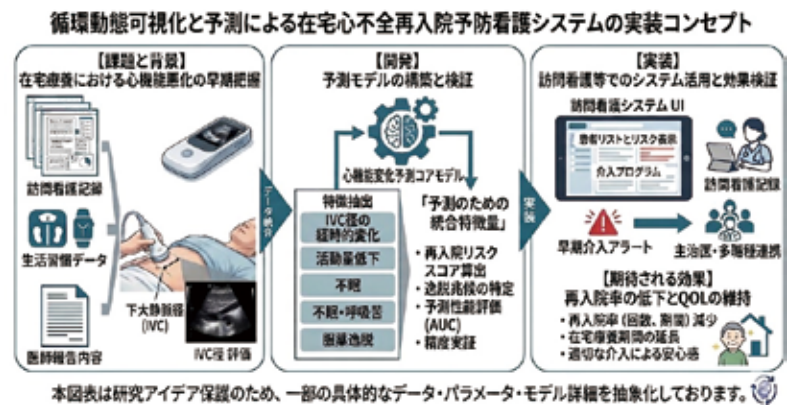
研究の概要

在宅で過ごす心不全療養者の再入院率の高さは大きな課題であり、心機能増悪兆候の把握が難しいことが要因のひとつである。携帯型エコーを用いた下大静脈径(IVC)評価などの循環動態の可視化に関する研究を基盤とし、心不全療養者の心機能増悪徴候を捉え、看護実践に活かす新たなアセスメント方法の開発を目指している。

研究の内容(大学院向け)

在宅心不全療養者が再入院に至る逸脱した心機能増悪予測モデルの開発と実装

心不全は再入院率が高く、在宅療養中に心機能の悪化を早期に把握することが難しいことが課題となっています。これまで進めてきた携帯型エコーを用いた下大静脈径(IVC)評価など、循環動態の可視化を基盤とし、心不全療養者の心機能の変化を非侵襲的かつ簡便・迅速に捉える方法について検討します。さらに、通常の心機能の変化から再入院に至る逸脱した悪化兆候を捉える予測モデルの開発を目指します。これにより、訪問看護など在宅医療の場で活用できる、心不全療養者の再入院予防につながる看護システムを実装します。



メッセージ

看護の力は無限大です。皆様も本学で看護の魅力を体感し、一緒に探求しませんか？夢の実現に向けて、大切な大学生活を全力でサポートします。

Profile

研究分野

老年看護学／循環器看護学／看護理工学

所属学会

日本看護科学学会／看護理工学会／日本創傷治癒学会／International Lymphoedema Framework Japan／日本褥瘡学会／日本創傷・オストミー・失禁管理学会 など

学歴・経歴

- 2012年 群馬大学医学部附属病院 看護師
- 2018年 群馬大学大学院 保健学研究科 保健学専攻 修士課程 修了
- 2022年 金沢大学大学院 医薬保健学総合研究科 博士課程 修了
- 2026年 石川県立看護大学 准教授

受賞

- 優秀演題賞, 「再入院予防に向けて慢性心不全療養者が自身の下大静脈を描出するセルフ心エコー実施可能性の検討」, 日本循環器看護学会2024.
- Best Poster Presentation Award, 「The most appropriate duration for preventing recurrent pressure ulcers among patients with pressure ulcers undergoing conservative treatment」, 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023. など

論文

- Walking Transiently Increases Inferior Vena Cava Diameter in Healthy Men: Implications for Hemodynamic Assessment. JNSE, 2026.
- Inferior vena cava dilatation preceding symptom onset in a home-dwelling patient with worsening heart failure. British journal of cardiac nursing. Br J Cardiac Nurs, 2026.
- Handheld ultrasound assessment of the inferior vena cava and nursing care in an older adult patient with suspected heart failure: A case study. Br J Cardiac Nurs, 2025. など

書籍等出版物

- 若手研究者のつながりと発信 (共著). 医学書院, 2023.
- 一般病棟の認知症患者「こんなときどうする？」(共著). 照林社, 2017. など

講演・口頭発表等

- The most appropriate duration for preventing recurrent pressure ulcers among patients with pressure ulcers undergoing conservative treatment (EAFONS, 2023)
- Using self-monitoring echocardiography to delineate and measure the inferior vena cava diameter by patient receiving treatment for heart failure(EAFONS, 2023) など

競争的資金等の研究課題

科研費, 若手研究, 在宅心不全療養者が再入院に至る逸脱した心機能増悪予測モデルの開発と実装, 2025-2027年度 など

社会貢献活動

- 日本看護科学学会 若手エリアマネージャー
- 一般社団法人次世代看護教育研究所 エコー技術講習会 講師 など



成人・老年看護学講座

沖田 翔平

講師

Shohei Okida

contact: okida326@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/okida>

研究キーワード

頭頸部がん看護／嚥下／褥瘡

生活の質を低下させないために看護ができることを探る

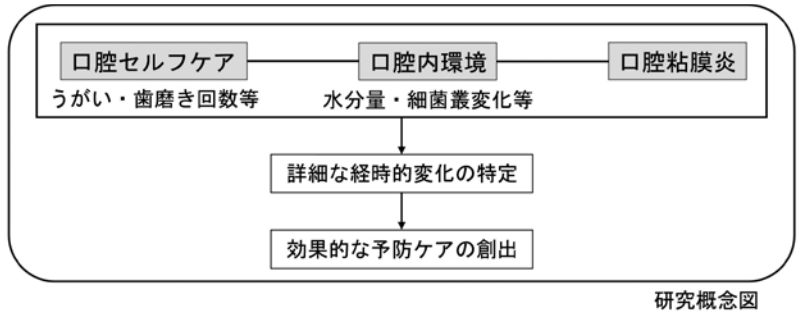
研究の概要

頭頸部がんは発声・咀嚼・嚥下に大きく関わり、生活の質に大きく影響を及ぼす。治療は化学放射線療法を選択する 경우가多いが、副作用として、口腔粘膜炎がほぼ全例に出現するとされる。口腔粘膜炎の進行を最小限に食い止めるためには口腔内清潔を維持するためのセルフケアが重要である。また、同時に口腔内にどのような変化が起こっているのか口腔細菌叢の経時的変化を含めて詳細に明らかにしていくことで支持療法の質向上を目指している。

研究の内容(大学院向け)

化学放射線療法中のセルフケア、口腔環境・粘膜炎、嚥下機能の関連

頭頸部がんへの化学放射線療法中の支持療法の質向上を目指して、まずは治療中断の原因となる治療中の誤嚥性肺炎発症のプロセスについて詳細に明らかにした。その中で、ほぼ全例に出現するとされる口腔粘膜炎が鍵になると考え、詳細な経過を明らかにすることとした。口腔粘膜炎の進行を最小限に食い止めるためには口腔内清潔を維持するためのセルフケアが重要であり、同時に口腔内にどのような変化が起こっているのか細菌叢の経時的変化を含めて明らかにしていくことで支持療法の質向上、新たなケア方法の創出を目指している。



メッセージ

看護研究を通してよりよい社会を作っていくことに貢献していきたいと思っています。少しでも興味があれば一緒に看護研究を行っていけたらと思います。

Profile

研究分野

がん看護／創傷看護／成人・老年看護

所属学会

日本がん看護学会／日本頭頸部癌学会
日本褥瘡学会／日本創傷・オストミー・失禁管理学会
看護実践学会／看護理工学会／日本癌学会
など

学歴・経歴

2012年 富山大学医学部看護学科 卒業
2012年 金沢大学附属病院看護部 看護師
2018年 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 修士(保健学)
2020年 金沢大学医薬保健研究域保健学系 助教
2022年 金沢大学附属病院看護部 看護師
2024年 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 博士(保健学)

受賞

- 第30回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 優秀演題賞
- 2024年度日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術論文若手奨励賞
- 第38回北陸ストーマ研究会 推薦論文賞

論文

- 沖田翔平, 大桑麻由美, 須釜淳子. 頭頸部がん患者の化学放射線療法中の誤嚥性肺炎発症関連要因の質的検討. 日本がん看護学会誌. 2020;34:83-93.
- Okida S, Takada C, Oe M, Sugama J, Okuwa M. Characteristics of pressure injuries in bedridden older Patients at the end of life. Journal of Japanese Society of Wound, Ostomy and Continence Management. 2023; 27(3):515-524. など

講演・口頭発表等

- 寝たきり高齢者のエンドオブライフにおける褥瘡の特徴の後ろ向き探索, 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, Web, 2022: 沖田翔平, 市橋紗由美, Supriadi Syafei, 向井加奈恵, 大貝和裕, 大江真琴, 大桑麻由美
- 頭頸部がんへの化学放射線療法中のセルフケアと口腔内環境及び口腔粘膜炎の関連, 第84回日本癌学会, 金沢, 2025: 沖田翔平, 大貝和裕, 大桑麻由美 など

競争的資金等の研究課題

- 科研費, 研究活動スタート支援, 頭頸部がんへの化学放射線療法中のセルフケアと口腔内環境及び口腔粘膜炎の関連, 2020-2023年度
- 第6回 SGH がん看護研究助成, 頭頸部がんへの化学放射線療法中のセルフケアと口腔内環境が口腔粘膜炎の進行に及ぼす影響

社会貢献活動

- 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 編集委員会 査読委員
- 看護実践学会 査読員



地域・在宅・精神看護学講座

米澤 洋美

教授

Hiromi Yonezawa

contact: h-yonezawa@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/read0140188>

研究キーワード

保健師活動／健康づくり／介護予防／団塊世代男性
シルバー人材センター

立場の弱い人や孤立した人も含め、お一人お一人が居場所と出番を持ち輝ける社会を目指して、地域での退職後高齢者の健康づくりを探索

研究の概要

行政の保健師として働いてきた経験と日本の地域保健福祉従事者の現任教育を担当する研究所での経験を発端にして研究テーマを展開しています。地域丸ごと健康になれるしぐみに興味があります。地域保健における保健活動や健康づくりのテーマであれば一緒に研究したいです。

研究の内容(大学院向け)

2000年に始まった日本の介護保険制度は20年を超え、住み慣れた街でいつまでも自分らしく暮らすことを目指し介護予防の考え方が各自治体で推進され介護予防を重視した事業や保健と福祉の一体化事業など公的サービスは連続性をもって進められています。が一方で自ら求めない高齢者も多く、いきなり重症化している事例も少なくありません。

他国と比較して日本の高齢者の就労意欲は高い傾向が見られます。この就労意欲の高さを強みとし、いつまでも自信をもって暮らすための高齢者の健康づくり、介護予防が主体的に展開されるしぐみを研究として考えています。



シルバー人材センター会員の高齢者さんと一緒に話し合って健康づくりを進める研究をしました。保健師が主体的に健康づくりに取り組むためのファシリテーター(船頭さん)になれたらと思います。参加型アクションリサーチの手法を用いました。

メッセージ

これまでは2025年に着目した制度改革から、今般では2040年に着目した制度改革に世の中の関心が進んでいます。健康で暮らせる寿命がさらに延びるであろう未来において高齢者がいつまでも生き生きと輝けるしぐみづくりと一緒に考えることに関心のある方をお待ちします。

Profile

研究分野

公衆衛生看護学／高齢者保健／保健師現任教育

所属学会

日本公衆衛生看護学会／日本地域看護学会
日本看護科学学会／日本医学看護学教育学会
日本結核・非結核性抗酸菌症学会
日本老年看護学会／日本保健師活動研究会

学歴・経歴

1995年 東京大学医学部保健学科 卒業
1999年 東京医科歯科大学大学院修了 修士(看護学)
2019年 石川県立看護大学大学院修了 博士(看護学)
1995年 国家公務員共済組合連合会虎の門病院 看護師
1999年 横浜市役所 保健師
2005年 国立保健医療科学院公衆衛生看護部 研究官
2007年 横浜市役所保 健師
2008年 福井大学医学部看護学科 助教
2009年 福井大学医学部看護学科 講師
2015年 福井大学医学部看護学科 准教授
2022年 石川県立看護大学 教授

論文

- 室野奈緒子, 米澤洋美, 塚田久恵, 金子紀子, 嶋雅奈恵, 峰松健夫: 公衆衛生看護学実習指導におけるテレプレゼンスロボットの有用性の検討. 看護理工学会. 12巻, 278-287. 2025
- 日本の高齢者の就労と健康づくり・健康管理に関する文献検討. 米澤洋美, 石垣和子, 地域ケアリング, 24(12), 2022
- NICUを退院した低出生体重児の母親の育児不安と育児ソーシャルサポート、育児に対する自己効力感との関連, 北陸公衆衛生学会誌, 夏梅るい子, 長谷川美香, 米澤洋美, 49(1), 2022.

書籍等出版物

米澤洋美(分担執筆)第3章・高齢者保健医療福祉活動, 中谷芳美(著者代表): 標準保健師講座, 対象別公衆衛生看護活動第5版. 92-118, 医学書院, 東京, 2024.

講演・口頭発表等

Factors Relating to the Self-assessment of Driving Skill for Members of Silver Human Resource Centers in Rural Areas.Hiromi. yonezawa,4th Edition of International Public Health Conference.2025.

競争的資金等の研究課題

文科省科研基盤 (C) 一般(研究代表者) 定年退職後男性の再就労の場における役割循環型介護予防プログラムの開発(2024-2028)

社会貢献活動

- かほく市健康づくり推進協議会委員
- かほく市地域自立支援協議会委員長
- 全国保健師教育協議会「保健師教育」編集委員



地域・在宅・精神看護学講座

室野 奈緒子 助教

Naoko Muroko

contact: muro79@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ https://researchmap.jp/muroko_naoko



研究キーワード

多職種連携／産業保健／職場復帰支援／メンタルヘルス

メンタルヘルス不調者の円滑な職場復帰を叶える多職種連携の科学的検証

研究の概要

メンタルヘルス不調による休職は長期化しやすく、再発率も高いため、企業にとって大きな経済的損失をもたらす。不調者の職場復帰を促進するためには、適切な支援が不可欠であり、中でも産業医、産業看護職、人事労務担当者など、職場内の多職種連携が重要な役割を果たす。

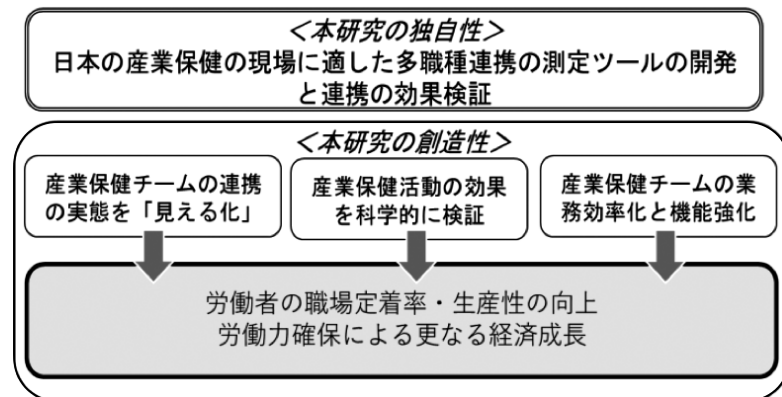
職場復帰支援に携わる職種間の連携を強化することで、労働者への質の高いメンタルヘルスケアの提供と、円滑な職場復帰が可能となる。そこで、職場内の多職種連携に焦点を当て、その実態と効果を明らかにすることを目指し、研究に取り組んでいる。

研究の内容(大学院向け)

メンタルヘルス不調者の円滑な職場復帰を支援するため、職場内の多職種連携の効果を測定するツールを開発し、その有効性を検証する研究を進めている。

産業保健チームは、医療専門職と非医療専門職の多様な職種で構成されており、事業場の規模や職種によって連携の在り方は様ではない。本研究では、開発した測定ツールを用いることで、多職種連携の実態を明らかにし、それぞれの属性による違いを科学的に検証する。

さらに、測定ツールを用い連携の効果検証を行うことで、産業保健チームの連携の実態を「見える化」できるほか、業務効率の改善や労働者へのきめ細かな支援に寄与し、職場全体の産業保健活動の充実につながることが期待される。



メッセージ

産業保健は、従業員の健康管理を通して生産性の向上や労働災害の予防などの効果をもたらす、従業員と企業の双方の利益につながります。産業保健師として、従業員の健康を支え、従業員と企業の幸せのために関わることによりがいを感じます。

Profile

研究分野

産業保健／メンタルヘルス／職場復帰支援
公衆衛生看護学

所属学会

日本産業衛生学会／日本公衆衛生学会
日本地域看護学会／日本産業精神保健学会
日本看護科学学会

学歴・経歴

2019年 石川県立看護大学看護学研究科看護学専攻 博士前期課程 修了
2020年 石川県立看護大学地域看護学 助教
2026年 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻 看護科学領域 博士後期課程 修了

論文

- 室野奈緒子, 米澤洋美, 塚田久恵, 金子紀子, 嶋雅奈恵, 峰松健夫: 公衆衛生看護学実習指導におけるテレプレゼンスロボットの有用性の検討. 看護理工学会, 12巻, 278-287. 2025
- 室野奈緒子, 石垣和子, 塚田久恵, 阿部智恵子: 人事労務担当者との連携における産業看護職の役割の構造 -メンタルヘルス不調者の職場復帰支援を通して-. 石川看護雑誌, vol.18, 13-24, 2021

講演・口頭発表等

- メンタルヘルス不調者の職場復帰支援における産業保健看護職の人事労務担当者との連携. 第34回日本産業衛生学会全国協議会, 示説
- Survey of Collaboration between Occupational Health Nurses and Human Resources in Supporting the Return-to-Work of Employees with Mental Health Problems. the 15th International Nursing Conference (INC) and the 28th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), E-Poster

競争的資金等の研究課題

「メンタルヘルス不調者の職場復帰に向けた多職種連携効果の測定」令和6～10年度 学術研究助成基金助成金 基盤研究 (C)

社会貢献活動

- 日本産業衛生学会 多職種連携研究会世話人
- 日本産業衛生学会 産業保健看護部会 石川県会計監事



地域・在宅・精神看護学講座

嶋 雅奈恵 助教

Kanae Shima

contact: kanaeshi@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/kanaeshima>



研究キーワード

地域看護／公衆衛生看護学／児童虐待／障害児施設

家庭養育の推進(より家庭に近い環境での養育の推進)のため、障害児施設の発達障害児への支援を探る

研究の概要

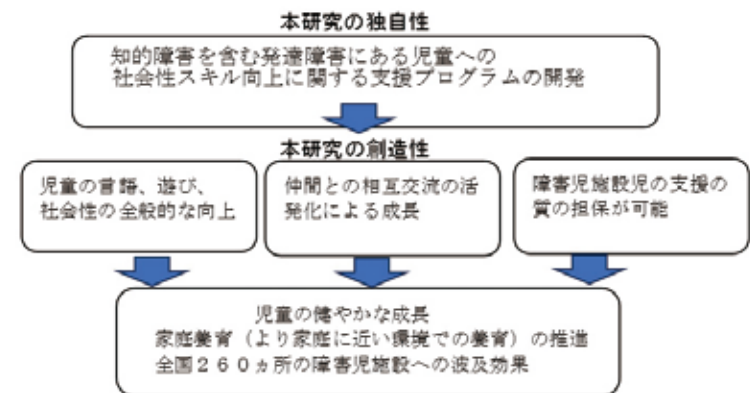
これまで行政保健師として公衆衛生看護活動に従事してきた。この経験の中で常に対象者がその人らしく主体的に生活できるように、QOL 向上を目指した活動を行ってきた。また地域の健康課題やその解決のための取り組みを関係者で共有、検討・協議してその取り組みをさらに推進するために行政計画へ反映させることを目指した研究を行ってきたが、現在は障害児施設の児童への支援に関する研究に取り組んでいる。

2023年4月に「こども家庭庁」が新設され児童のいる家庭だけでなく、施設で生活する児童も等しく健やかに成長するための支援が求められている。障害児に対する児童福祉法に基づく入所施設に「福祉障害児入所施設(以下、障害児施設)」がある。入所児童の中には被虐待児も入所しており、知的障害を含む発達障害、精神障害等合併障害の児童が増加している。児童虐待により児童相談所を経て障害児施設に入所となる児童も少なくない。

障害児施設からの意向先は、医療が必要な入所施設である医療型においては、「家庭復帰」8割を超えるのに対して、福祉型は「家庭復帰」は3割にも満たない。

児童福祉法(2016年改正)では、実親による養育が困難であれば、里親や特別養子縁組などで児童が健やかに養育されるよう、家庭養育の推進(より家庭に近い環境での養育の推進)を図ることになったが、社会的養護を必要とする児童の約9割が施設入所という現状にある。

そこで、障害児施設での発達障害児に求められている支援を検討し、障害児の健やかな成長とともに、障害児施設の支援の質の向上を探求し、家庭養育の推進(より家庭に近い環境での養育)の実現を目指していく。



メッセージ

私はこれまで行政保健師として地域で生活する困難な状況にある者が抱える健康課題とその課題解決に向けた支援に取り組んできました。実践者からエビデンス重視の実践を探求するべく、研究活動を開始しています。

Profile

研究分野

地域看護／公衆衛生看護学

所属学会

日本公衆衛生学会／日本公衆衛生看護学会
日本地域看護学会

学歴・経歴

2007年 富山医科薬科大学大学院医学研究科看護学専攻(修士課程) 修了
2007年 富山県職員(保健師)
2020年 石川県職員(保健師)
2023年 石川県立看護大学地域看護学講座 助教

論文

住宅改修が要介護認定者の在宅継続期間へ及ぼす影響(学位論文) 厚生指針(0452-6104)54巻11号 Page38-43, 2007年10月

講演・口頭発表等

- 住宅改修が要介護認定者の在宅継続期間へ及ぼす影響第64回日本公衆衛生学会(於北海道)示説, 2005年9月
- 福祉型障害児入所施設における知的障害児支援に関する文献レビュー. 日本公衆衛生看護学会, 2024年1月

競争的資金等の研究課題

「福祉型障害児入所施設の発達障害児に対する社会性スキル支援プログラムの開発」令和7-10年度 学術研究助成基金助成金 基盤研究 (C)



地域・在宅・精神看護学講座

桜井 志保美 教授

Shihomi Sakurai

contact: sakurai@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/sakurai-shihomi>

研究キーワード

介護者／心血管疾患リスクファクター／睡眠／医療的ケア育児

年齢や疾患にかかわらず、生まれてから人生の最期まで、児者が家族とともに自宅で安心して暮らせる未来の実現に貢献する

研究の概要

認知症高齢者の家族介護者のほとんどが睡眠の不満を経験していた。これまでに、睡眠に問題を抱える介護者が、非介護者に比べて高血圧リスクが高いことを明らかにし、心血管疾患発症予防のための睡眠支援について提案している。

国内には1万を超える訪問看護ステーションがあるが、小児訪問看護に特化した訪問看護ステーションは43施設のみであった(2020年4月)。そこで、日本国内のどこに住んでいても、医療的ケア児とその家族が自宅で一緒に安心して暮らせる社会の実現を目指し、訪問看護師による育児支援について取り組んでいる。

最近新たに、指定規則が改正され、地域・在宅看護論になったことをきっかけに、介護予防に関する取り組みにも着手している。

研究の内容(大学院向け)

実践活動で感じた疑問を研究手法によって、明らかにし、解決策を探る

保健師と働いていたある日、いつものように認知症高齢者のお宅に訪問すると、介護者である奥さんのお葬式と遭遇。“この認知症高齢者のご夫婦との経験を無駄にしない”と思い開始した研究が、認知症高齢者の家族介護者への健康支援である。介護者の睡眠を、Pittsburgh 睡眠質問票、アクティグラフ、心拍変動スペクトル解析を用いて、睡眠の量的評価・質の評価をすることを得意にしている。これまでに、歩行可能な認知症高齢者の家族介護者の睡眠の問題やレスパイトケアの効果を明らかにした。また、記述データについて内容分析を行い、介護者のストレス解消方法や医療的ケア児の養育者の困りごとなどを明らかにしている。

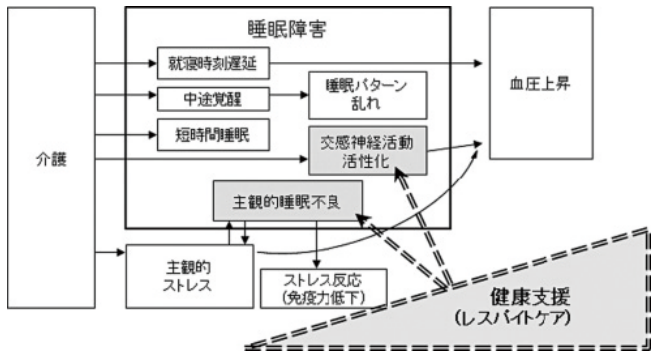


図. 家族介護者の健康支援に関する研究

メッセージ

月に1回抄読会を開催し、在宅看護に関する論文の紹介と意見交換に実施。いろいろな視点からの意見交換を期待して、在宅看護学分野ゼミ以外の参加者も募集中。一緒に学び合いましょう。

Profile

研究分野
 地域看護学

所属学会
 在宅ケア学会／地域看護学会／日本看護科学学会

- 学歴・経歴
- 名古屋大学大学院医学系研究科 博士(看護学)
 - 大阪府保健所勤務(保健師)
 - 日本福祉大学事業部 研修講師
 - 名古屋大学医学部保健学科在宅看護学 助手・助教
 - 金沢医科大学看護学部公衆衛生看護学 講師・准教授
 - 石川県立看護大学在宅看護学 准教授・教授

- 論文
- 未就学の医療的ケア児を養育する親の育児ストレスの実態「インターナショナル Nursing CareResearch 21(1)」2022
 - Effectiveness of Respite Care via Short-Stay Services to Support Sleep in Family Caregivers 「Int. J. Environ. Res. Public Health 17」2020
 - Impaired autonomic nerve activity during sleep in family caregivers of ambulatory dementia patients in Japan「Biol Res Nurs 17(1)」2015

- 講演・口頭発表等
- 医療的ケア児が2歳未満の時期に訪問看護師が行った遊びの育児支援に関する内容分析「第41回日本看護科学学会学術集会」2021
 - ショートスティ利用による睡眠支援を目的としたレスパイトケアの効果「第23回日本在宅ケア学会学術集会」2018

- 競争的資金等の研究課題
- 科学研究費基金・基盤研究(C)「訪問看護師向け2歳未満の医療的ケア児における食と発達に関する育児支援ガイド作成」
 - 科学研究費基金・基盤研究(C)「認知症患者の家族介護者に対する睡眠支援を目的としたレスパイトケアの効果検証」

社会貢献活動

かほく市地域公開講座、宝達志水町女性の会:健康教育「あなたの眠りは大丈夫」



地域・在宅・精神看護学講座

山路 朋子 助教

Tomoko Yamaji

contact: 07yama@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/to.mo-ko>

研究キーワード

病棟看護師／終末期／退院支援／災害看護／訪問看護

人生の終末期をその人らしく暮らすことができるように、退院支援の在り方や、効果的な教育を考えるために役立てる

研究の概要

日本人は人生の最終段階を迎えた時にどこで過ごしたいかと問われた時、自宅で過ごしたいと答える人が多い。しかし、医療の進歩に伴い、病院で過ごすことを選択し病院で亡くなる人が多い現状にある。終末期を在宅で安全に安心して、その人らしく過ごせる人を増やすためにはどうしたらよいか。病院から在宅までの切れ目のない援助を行うために、退院支援が重要である。退院支援は患者の症状や病状のコントロール、意思決定支援、他職種や家族との連携や調整など様々なことを行う必要がある。病棟看護師は終末期を迎える患者の退院支援を行えているだろうか、できていないと感じている人達には何が影響しているのだろうか。退院支援を行う病棟看護師への教育や、より良い退院支援を探っている。また、能登半島地震の経験を経て、被災者への支援のための、災害時の支援モデルに関する研究も行っている。

研究の内容(大学院向け)

病棟看護師の終末期のがん患者に対する退院支援の実践の自己評価と関連する要因を明らかにする

病棟看護師として勤務していて、終末期がん患者さんの看護に携わることが多かった。自宅で過ごしたかったという患者さんがいたが、その思いを叶えられずに何度も悔しい思いをしたことが研究のきっかけである。病棟看護師の退院支援がどの程度できているか、苦手と感じていないか、またそれに関連する要因は何かを明らかにすることで、病棟看護師の退院支援に関する教育に役立てていくことができるのではと考えた。病棟看護師は、患者・家族からの情報収集、家族への余命や告知、家族への療養についての要望確認はできているとする人が多かった。社会資源の活用、患者・家族・医療者の思いのずれについてはできていないとする人が多かった。苦手意識が少なく、終末期がん患者を自宅退院につなげた経験、在宅療養後の情報提供を受けた経験、退院支援に関する知識を有する病棟看護師は退院支援の実践の自己評価が高いことが明らかとなった。病棟看護師への支援として、退院後の患者の情報提供を受けることができるシステム作りや、苦手意識の改善への方策、退院支援の学習機会の必要性が示唆された。

メッセージ

10代の頃は看護の世界に入ろうとは思っていませんでしたが、大学で看護を勉強し看護師として働き、大学院でさらに看護学を深めていくことで楽しくなりました。

Profile

研究分野
 在宅看護学

所属学会
 日本看護科学学会

- 学歴・経歴
- 2011年 金沢医科大学看護学部 卒業
 - 2011年 金沢医科大学病院 看護師
 - 2018年 金沢医科大学大学院看護学研究科修士(看護学)
 - 2023年 石川県立看護大学 助教

論文

「病棟看護師の終末期がん患者に対する退院支援の実践自己評価と関連要因の検討」『日本看護科学学会誌』40巻 p. 562-571 2020年

- 講演・口頭発表等
- 「終末期がん患者に対する病棟看護師の退院支援実践の自己評価とその関連要因の検討」日本看護科学学会学術集会 口演 2018
 - 「病棟看護師の終末期がん患者に対する退院支援の自己評価とその関連要因の検討」日本看護科学学会学術集会 示説 2019

競争的資金等の研究課題

科学研究費助成事業 基盤研究(C)「過疎地域の高齢被災者を災害直後から支える訪問看護モデルの構築」



地域・在宅・精神看護学講座

牛村 春奈

 助教

Haruna Ushimura
 contact: ushimura@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/u-haru>


研究キーワード

在宅看護／パーキンソン病／口腔機能

食べることは生きることであり、喜びでもある。
 食べることを諦めなくて良い社会に向けて、
 口のはたらきを探る。

研究の概要

食事は単に栄養をとるだけでなく、「美味しい」と喜びを感じ、人と一緒に食べるにより仲が深まるなど、生きる上で欠かせないものである。しかし、人生の楽しみである食事が困難となる場合があり、その原因には加齢や病気による口の機能の衰えがある。口の機能が衰えると、最初は、むせたり、食べにくい食品があったりする程度だが、進行すると食べられなくなり、ついには栄養不足により心身機能が低下する。しかし、早期に気づいて対応することで、口の機能低下を予防することができる。そこで、口の機能が低下しやすい高齢者やパーキンソン病の方の口の機能に関する研究をすることにより、食べることを諦めなくて良い社会に貢献したいと考えている。



図1.口腔機能測定方法の例



図2.これまでに取り組んだ研究（Parkinson 病の舌・咀嚼機能と栄養素摂取量との関連）

メッセージ

訪問看護師としての経験を活かして在宅療養に活かせる研究をしたいと思っています。私自身、研究については勉強中なので、学生と一緒に成長したいと思っています。

Profile

研究分野
 在宅看護学

所属学会
 日本在宅看護学会／在宅ケア学会
 日本摂食嚥下リハビリテーション学会

学歴・経歴
 2023年 石川県立看護大学博士前期課程 修了
 2023年 石川県立看護大学博士後期課程 在籍

論文
 Parkinson 病療養者における舌圧・咀嚼能力と栄養素摂取量の関連, 日本摂食嚥下リハビリテーション学会雑誌, 28(2), 90-98, 2024.

- 講演・口頭発表等
- 高齢者の舌機能低下が日常生活動作に与える影響, 第30回日本在宅ケア学会学術集会 2025.
 - Tongue pressure is associated with oral health-related quality of life and nutritional status among Japanese elderly people, The 27th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2024.
 - 高齢女性における基本チェックリスト判定と口腔関連 QOL との関連, 第29回日本在宅ケア学会学術集会 2024.

競争的資金等の研究課題
 AI による顔面運動解析から咀嚼能力を評価するシステム開発, 科学研究費助成事業 基盤 (C)



地域・在宅・精神看護学講座

美濃 由紀子

 教授

Yukiko Mino
 contact: mino-pn@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/read0123773>


研究キーワード

司法精神看護／精神科身体合併症看護／感情活用

重大な他害行為を行った精神障がい者の治療、
 社会復帰における看護師の役割の明確化を図る

研究の概要

わが国では従来、他害行為を行った精神障がい者の医療は、専門システムの不備から極めて劣悪な状況下にありましたが、医療観察法の施行によって飛躍的な改善を遂げました。同法の対象者は、病状の重篤さや複合性、課題の深刻さから一般精神科医療の枠では治療・処遇が非常に困難でしたが、マンパワー確保による治療契約・多職種連携等の条件が整備されたことで、早期に社会復帰ができるようになりました。司法精神医療の現場において、特に看護師が担う役割は、多岐にわたることから司法精神医療で行われているケアの実態を明らかにすることを通じた啓発と司法精神看護学教育の充実は必須課題であると考えています。司法精神医療制度や専門教育体制は、国による違いも大きく、それらの充実のためには国際的な視点からの検討も必要です。私は、司法精神医療における看護職が果たす役割の明確化と司法精神看護学教育の充実に向けた研究活動を行っています。

研究の内容(大学院向け)

「他害行為を行った精神障がい者の評価、治療、社会復帰支援における看護師の役割」研究における4つのサブテーマ「1.日本における医療観察法対象者に対する治療・評価・社会復帰支援」、「2.日本における司法精神医学・司法精神看護学教育の方向性」、「3.日本と欧米諸国と司法精神医療教育体制の違い」、「4.司法精神医療制度の国際比較」に沿って研究を進めており、現在は、司法精神看護学教育の確立に向けて、分担研究者らと共に活動を行っています。

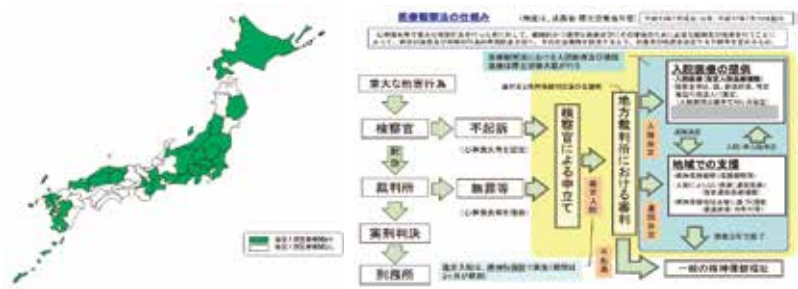


図1.指定入院医療機関の整備状況
厚生労働省 HP より

図2.医療観察法の仕組み
厚生労働省 HP より

メッセージ

大学院での研究では、学生自身が関心を持っているテーマを大切に扱います。博士前期課程でしたら比較的どんなテーマでも対応可能です。博士後期課程の場合は、テーマと内容にオリジナリティが求められますので、取り組みたいテーマがありましたら、事前にご相談ください。

Profile

専門分野・研究分野
 精神看護／メンタルヘルス／司法精神看護学
 精神科身体合併症看護

研究分野
 精神保健看護学

所属学会
 日本司法精神医学会／日本看護科学学会
 日本精神科看護協会／看護実践学会
 日本看護研究学会／日本保健医療行動科学会

学歴・経歴
 ● 北里大学東病院 看護師
 1997年 北里大学大学院 修士(看護学)
 1999年 東京慈恵会医科大学 助教
 2004年 東京医科歯科大学大学院 博士(看護学)
 2006年 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 厚生労働技官 研究員
 2009年 東京医科歯科大学(現 東京科学大学) 大学院 准教授
 2022年 石川県立看護大学 教授

- 論文
- Investigation of in-home monitoring methods for forensic outpatients treated under the Medical Treatment and Supervision Act. Japan Journal of Medical Informatics, Vol. 43, pp981-984, 2023
 - 医療観察法にもとづく通院処遇対象者への訪問看護に関する研究動向と課題の検討, 日本精神科看護学術集会誌, 66(2), 143-147, 2024
 - 感情という糸口から事例の真実に迫る包括的事例検討会 - well-beingの実現を援助する感性を磨こう - . 日本保険医療行動科学会雑誌, Vol. 40(1), pp52-58, 2025.

書籍等出版物

- 実践精神科看護 第17巻『司法精神看護』第一章 司法精神医療と医療観察法の理解. p14-20, 精神看護出版(分担執筆)
- 美濃由紀子編著. これだけは知っておきたい『精神科の身体ケア技術』. 医学書院.

講演・口頭発表等

- A Review on Current Status and Issues of Forensic Psychiatric Nursing Practice in Japan. International Conference on Forensic Nursing Science & Practice. P1, 2025
- 「異和感」から尊厳を考える -感情活用のワークと哲学対話の手法を用いて、初年次教育学会第18回大会, 初年次教育学会第18回大会発表要旨集, 32, 2025.

競争的資金等の研究課題

「司法精神看護学」教育のカリキュラムの開発と多職種連携教育方法の検討. 文部科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 基盤 (C)

社会貢献活動

- 日本司法精神医学会 査読委員
- 国立精神・神経研究センター 精神保健研究所 客員研究員
- かほく市地域自立支援協議会 委員
- 能登半島地震・石川こころのケアセンター 相談員
- 石川県准看護師試験委員会 委員



地域・在宅・精神看護学講座

大江 真吾 准教授

Shingo Ohe
contact: ohe1111@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/shingooue>

研究キーワード

自閉スペクトラム障害／発達障害／農福連携／思春期のメンタルヘルス

自閉スペクトラム症の方の語りから、彼らが何を考え、何を感じているかを探る

研究の概要

わが国では、発達障害者支援法の施行により、発達障害者（児）に対して障害特性やライフステージに応じた支援が行われている。自閉スペクトラム症者に関する疫学については様々な先行研究があるが、国内外での調査では有病率が0.9～2.8%とされ、自閉スペクトラム症は決して稀な疾患ではなく、今後も社会全体で支援していくことが必要であることがわかる。自閉スペクトラム症者への支援には多職種が関わる。その中でも看護師は生活の支援から疾患理解、対処方法の確立など多岐に渡ってサポートしている。自閉スペクトラム症者がよりスムーズに社会参加し暮らせるように、彼らの語りから理解を深め、生活を支援し、就労へ繋ぎ、自閉スペクトラム症者が暮らしやすい社会を目指して研究を行っている。

研究の内容(大学院向け)

自閉スペクトラム症者が抱く看護師への思いはなにか、彼らのニーズはなにか、彼らの語りから解き明かす

入院中の自閉スペクトラム症者にインタビューを実施したところ、彼らは入院中の看護師からのケアを実感しながらも、看護師に存在を希薄に感じると語っていた。一方看護師は、自閉スペクトラム症者の自己肯定感を高めようとする関わりや認知面への働きかけを行うなど、熱心に看護ケアを実践していた。

ケアの実践は、特に精神科領域においては必ずしもケアの提供側と受け取る側のケアの必要性の認識の一致が行われない。しかしながら、コミュニケーション障害をもつ自閉スペクトラム症者には看護師との間で交わされる相互交流から得られる経験や認識、対人関係スキルの学びは、とても重要であると考え。今後は、様々な場面で起こる自閉スペクトラム症者と看護師の交流の中で自閉スペクトラム症者が何を感じ、考えているのか、それを受けて看護師はどのように看護実践を行っていくかを、自閉スペクトラム症者自身の語りから明らかにしていきたい。



図1.知的・発達障害者が使いやすい農業機械の開発に向けた調査の様子



図2. あおカフェの様子

メッセージ

看護はとても奥深いものです。その中でも精神看護では相手や自分自身の思いに関心を寄せ、理解しようとするところから始まります。たくさんの楽しいこと、大変なことを一緒に進んでいけたら良いなと思っています。

Profile

研究分野

精神看護学／児童思春期精神看護学

所属学会

日本看護科学学会／日本看護研究学会
日本精神保健看護学会／日本精神科看護協会
北陸公衆衛生学会／看護実践学会

学歴・経歴

- 金沢大学医薬保健学総合研究科 修士(看護学)
- 金沢大学医薬保健学総合研究科 博士(保健学)

論文

- 知的障害者および発達障害者の刈り取り機操作における走行方向補正システムの効果検証, 看護理工学会誌,12,161-172,2025
- Factors Associated with Worsening Post-Earthquake Psychiatric Symptoms in Patients Receiving Psychiatric Visiting Nurse Services During the 2024 Noto Peninsula Earthquake: A Retrospective Study,Psychiatry International,6(1),2025
- 農業機械操作時の知的障害者および発達障害者が抱く困難性と機械操作への思い北陸公衆衛生学会誌,50(2),11-22,2024

講演・口頭発表等

自閉スペクトラム障害患者の認識と看護師の意図の間に生じるズレとニーズをふまえた効果的な看護ケアの検討(第40回日本看護科学学会学術集会, 2020)

競争的資金等の研究課題

- 自閉スペクトラム症者への精神科訪問看護ケアに関する主観的・客観的データからの分析(代表)／科費費事業:2024-2026年度
- 障害者による粗飼料生産での機械利用とヒツジ生産を支援する技術開発(分担／イノベーション創出強化研究推進事業:2022-2023年度)

社会貢献活動

- 石川県かほく市自殺対策推進委員会 委員長
- 発達障害児の保護者学習会「あおカフェ」講師



地域・在宅・精神看護学講座

高濱 圭子 助教

Keiko Takahama
contact: takahama@ishikawa-nu.ac.jp

研究キーワード

アルコール依存症／事例検討会

断酒継続し依存症から立ち直る方々の生きる力を探求して看護ケアに活かす

研究の概要

アルコールは人類の歴史始まって以来、あらゆる文化の中で使用されてきた。技術革新の進化によって豊かになり、大量生産・飲用が可能になるにつれてアルコール関連問題も多く発生し、我々を悩ませてきた。アルコール依存症は長期の大量飲酒によって、身体・精神的依存を形成し、身体的・社会的問題を引き起こす進行性の慢性疾患で、アルコール関連問題の中核である。わが国では2014年に「健康障害対策基本法」が成立し、予防から回復までの支援が包括され、回復には断酒継続が重要とされ、自助グループへの参加が推奨されている。アルコール依存症の回復を支援している世界規模の自助グループAA(Alcoholics Anonymous)は基本テキストとミーティングを中心に活動している。AAについては医療・福祉・社会・宗教といった広範囲の領域から関心が向けられ、研究がなされてきた。看護領域でも長期断酒継続者の回復過程に関する研究がみられるようになり、回復者たちが「発症から回復までの過程を振り返りながら様々な経験の意味付けを行っている」ことが報告されている。私はAAメンバーがどのように実践しその断酒体験を位置づけているのか、どのような意味を見出しているのかを明らかにすることを目的として質的研究を行っている。



AA発祥の地、アメリカ合衆国へ研修に行きました。アルコール依存症からの回復者が運営する施設です。左上(外観)、左下(ミーティングルーム)、右の写真の言葉はトルストイからの引用だとか…「人間っていいな」と思った瞬間でした。

メッセージ

私が研究に取り組むきっかけは糖尿病・アルコール依存症の患者さんとの出会いでした。どちらも自己管理(セルフケア)が肝要で、その回復と支援は簡単ではありません。しかし、回復した方の姿をみて、今、苦しんでいる患者さんにもこうなって欲しいと思いました。そして大学院進学、アルコール依存症から回復している方々と関わることになりました。分かったことは断酒の難しさや苦悩でした。しかし、楽しそうに生きる姿を見せられ、希望を持つことができました。現在、その過程・経験を理解して看護支援に活かすことを目指して研究しています。

Profile

研究分野

アルコール依存症／事例検討会

所属学会

日本精神保健看護学会／日本保健医療行動科学会
日本看護科学学会／日本精神科看護協会
日本質の心理学会

学歴・経歴

- 長崎大学病院(内科・外科)
- 東京医科歯科大学病院(精神科・内科)
- 東京アルコール医療総合センター

2005年 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科精神保健看護学博士前期課程 修了

2015年 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科看護先進科学専攻精神保健看護学博士後期課程 入学(現在に至る)

書籍等出版物

- 宮本真巳, 安田美弥子編『アディクション看護』医学書院 2008年(糖尿病の章を担当)
- 美濃由紀子編著『精神科の身体ケア技術』医学書院 2008年(糖尿病の章を担当)
- 井上智子・窪田哲朗編『病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程+病態関連図』医学書院 2016年(物質・アルコール関連障害の看護を担当)

講演・口頭発表等

- 国内の看護学領域における統合医療に関する文献レビュー 患者を対象とした研究の効果・検証に焦点を当てて(示説:日本保健医療行動学会 2017年)
- 自助グループに参加するアルコール依存症者の回復過程 12ステップを実践している2事例の語りから(口頭発表:日本保健医療行動学会2018年)
- 看護学領域における事例検討会の効果と課題に関する文献の検討(第2報)デスカンファレンスを中心に(示説:日本看護科学学会2021年)
- 精神科入院患者における便秘の実態:横断研究(示説:日本看護科学学会2025年)

社会貢献活動

2003年から日本精神科看護協会の研修にファシリテーターとして貢献している。



地域・在宅・精神看護学講座

杉谷 菜月 助手

Natsuki Sugitani

contact: sugitani@ishikawa-nu.ac.jp

研究キーワード

精神看護／対話型生成AI／発達障害／愛着障害
コミュニケーション支援対話型生成AIによる発達・愛着障害者への
コミュニケーション支援モデルの開発

研究の概要

本研究は、対人関係に困難を抱える発達障害・愛着障害を抱える方たちに対し、対話型生成AIを活用した新たなコミュニケーション支援モデルの構築を目指しています。対人関係における予測困難性にストレスを感じやすい発達・愛着障害当事者にとって、一定のルールに基づき応答するAIは、心理的安全性の高いシミュレーション環境を提供できる有効な支援ツールとなる可能性があります。具体的には、精神看護学の知見に基づき、以下の3点に取り組みます。

1. 特性に応じたプロンプト設計

当事者の不安を最小化し、適切な社会的スキルの習得を促すAI応答スタイルを定義・検証します。

2. 情緒的サポートの再現

熟練看護師の「傾聴」技術をAIに実装し、テキストベースの対話においても、自己肯定感を高める共感的・受容的な関わりを追求します。

3. 臨床・教育への多角的展開

相談業務の補助から、当事者が日常的に使用できるセルフケアツールまで、デジタル・メンタルヘルス・ケアとしての実用性を評価します。

精神科看護師の対話技術とテクノロジーを融合させることで、発達障害や愛着障害を抱える方たちの社会適応とQOL向上に寄与する新たな看護介入の確立を追求しています。



メッセージ

対人関係の悩みは目に見えにくく、時に言葉にできないほど深い苦悩を伴います。AIという新しい技術を活用し、精神障害や発達特性を抱える方たちの「安心」「自信」「自己理解」を支える架け橋になりたいと考えています。臨床に根ざした研究に関心のある方を歓迎いたします。

Profile

研究分野

精神看護学

所属学会

日本精神保健看護学会／日本精神看護協会

学歴・経歴

- 石川県立看護大学 卒業
- 石川県立中央病院 看護師
- 石川県立こころの病院 看護師
- 石川県立看護大学 助手

論文

杉谷菜月,清水暢子:非言語的コミュニケーションスキルの分析-精神科看護師の「傾聴」看護に焦点をあてて-,精神看護出版,Vol47,No.9,pp60-66,2020

講演・口頭発表等

排便障害を有する重度認知症患者に「便秘の改善ケアプロトコル」を使用した介入研究(第61回全国自治体病院学会,2023)



共同研究講座 看護理工学

大貝 和裕 共同研究講座教授

Kazuhiro Ogai

contact: ogaikzhr@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ▶ https://researchmap.jp/cosine_60

研究キーワード

看護理工学(bio-engineering nursing)／マイクロバイオー
ム褥瘡／人工知能(AI)バイオからAIまで看護理工学に基づく、
高齢者を守る包括的ケアシステムの構築

研究の概要

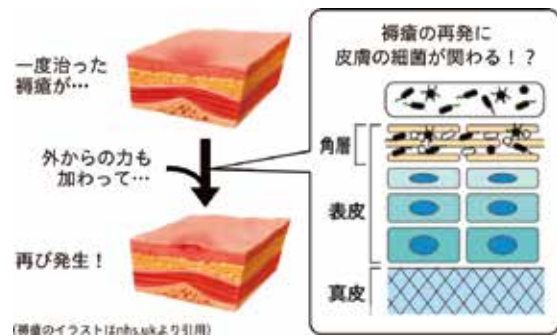
少子高齢化に伴い、社会保障のメインステージは病院から在宅にシフトされつつある。また、体調は悪い、だけど病院にはかからない、という高齢者が多くいると考えられる。2023年4月に新たに設立された「共同研究講座 看護理工学」では、上記のような問題を解決するために、病院や施設にいる方はもちろん、地域に住む高齢者が健康状態を自分で、いつでも、どこでも調べることのできる技術の開発研究を行う。さらに、結果を早期発見やケアにつなげることを見据え、「高齢者を守る包括的ケアシステム」を確立する。

研究の内容(大学院向け)

マイクロバイオー
ム(細菌のパターン)、スキ
ンプロット
ィング、AIを駆使した皮膚・創傷
ケア技術の開発

上記目的を達成するための基礎研究として、高齢者の皮膚マイクロバイオームの研究をすすめている。マイクロバイオームとは、対象となる部位(皮膚など)にどういった細菌がどのくらいの割合で存在するか、ということである。高齢者の中には褥瘡(床ずれ)を持つ方がいるが、褥瘡が治った後でも再び褥瘡が起こる場合がある。この褥瘡再発に、ある種の細菌が関与していることを研究によって明らかにした。この細菌を対象とした検出方法や“撃退”方法を開発できれば、褥瘡再発の早期発見や、褥瘡再発そのものを減らせるようになるかもしれない。

このほかにも共同研究として、スキンプロットィングという技術とAIを組み合わせ、採血せずに全身状態をチェックできる方法の開発(慢性脱水:峰松先生、栄養評価:長谷川先生)や、ベッドサイドで簡単に迅速にできるDNA検査法をベースにした創部感染検査法などの基礎・応用研究を行っている。



メッセージ

看護理工学、というと難しく聞こえるかもしれませんが。しかし、自分のちょっとしたひらめきが新しい看護技術の開発につながり、高齢者が健康に長生きできる世の中をつくれるかもしれない…と考えたら、ちょっとワクワクしませんか。このワクワクを、石川県立看護大学で一緒に体感しましょう！

Profile

研究分野

看護理工学(bio-engineering nursing)
マイクロバイオー
ム褥瘡／人工知能(AI)

所属学会

看護理工学会／日本創傷治癒学会
日本看護科学学会／日本褥瘡学会
日本創傷・オストミー・失禁管理学会 など

学歴・経歴

- 2008年 金沢大学医学部保健学科検査技術科学専攻 卒業
- 2013年 金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程 修了 博士(保健学)
- 2013年 金沢大学健康増進科学センター 助教
- 2018年 金沢大学健康増進科学センター 准教授
- 2023年 石川県立看護大学共同研究講座看護理工学共同研究講座 教授

受賞

- 2020年 第8回看護理工学会学術集会 研究奨励賞
- 2021年 令和2年度保健学系優秀研究教員
- 2022年 令和3年度保健学系優秀研究教員
- 2023年 看護理工学会 学会賞

論文

- Shibata K, Ogai K*, Ogura K, et al. Skin Physiology and its Microbiome as Factors Associated with the Recurrence of Pressure Injuries. Biol Res Nurs . 2021 Jan; 23(1): 75-81. (*corresponding author)
- Ogai K, Matsumoto M, Aoki M, et al. Increased level of tumour necrosis factor-alpha (TNF-α) on the skin of Japanese obese males: measured by quantitative skin blotting. Int J Cosmet Sci . 2016 Oct; 38(5): 462-9.

講演・口頭発表等

- スキンプロットィングのさらなる応用-定量解析・網羅的解析に向けた検討- 第50回日本創傷治癒学会
- A comparative study of skin bacterial communities in healthy-young individuals and bedridden-aged inpatients in japan. WUWHs 2016.

競争的資金等の研究課題

- 科研費基盤研究(B)「皮膚細菌・真菌叢に着目した失禁関連皮膚炎の新規リスクファクター探索と予防ケア開発」
- 科研費基盤研究(C)「網羅的スキンプロットィング法による「褥瘡予測タンパク質」の探索と臨床応用」
- 科研費挑戦的研究(萌芽)「褥瘡再発を予防する「自己皮膚細菌叢コピー＆ペーストドレッシング材」の開発」

社会貢献活動

- 看護理工学会 評議員, 編集・広報・教育委員
- 日本創傷治癒学会 評議員
- 金沢大学つま同窓会 会長



共同研究講座 看護理工学

長谷川 陽子 共同研究講座准教授
Yoko Hasegawa
contact: haseyoko@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/yoko.hasegawa>

研究キーワード

臨床栄養学／看護理工学

栄養学と看護理工学をビッグデータで融合し、人々が健康で幸せに生きることを支えるサイエンスを目指す

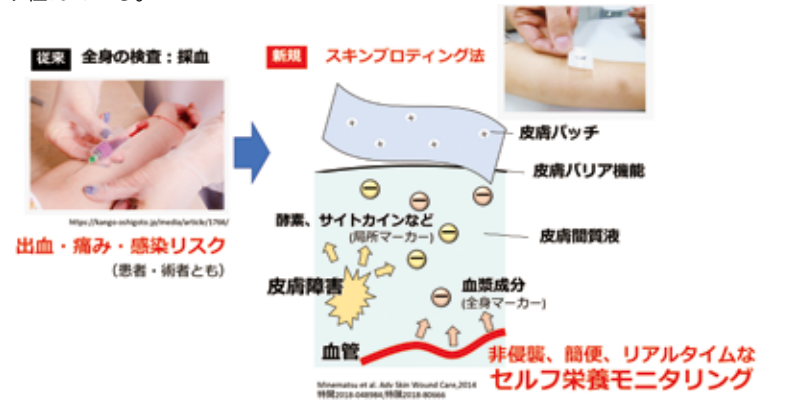
研究の概要

地域在住者が健康で長生きできる社会の実現を目指し、「栄養学」と「看護理工学」を融合させ、“痛くない、簡便で、リアルタイムな新たな健康管理システム”の開発を目指している。具体的には、スキンプロットティングという非侵襲的な生体検査法を用いて、地域在住者が自分で自身の健康状態や脱水、栄養状態を評価できるセルフモニタリングツールの開発と、それを活用した健康管理システムの構築に取り組んでいる。

研究の内容(大学院向け)

“痛くない、簡便で、リアルタイムな新たな健康管理システム”を開発する

地域在住者の健康を守るためには適切な健康管理が必要である。さらに、高齢化や地方の過疎化が進む今日においては、地域在住者が自分で自分の健康管理をする“セルフケア”の概念が重要性を増している。従来、健康管理のためによく用いられてきた採血による血液検査は出血や痛みを伴うだけでなく、セルフケアの一環として自身で検査を行うことが困難であった。そこで我々は、スキンプロットティング法という、皮膚にパッチテストのようなプロットティングメンブレンを貼付し、皮膚の間質液に含まれる生体指標を検出する生体検査法を用いて、誰もが簡便かつ非侵襲的に、健康状態や脱水、栄養状態などを評価することができる新しい生体検査ツールを開発に取り組んでいる。さらに、それを活用し適切な介入や疾病予測が可能となる健康管理システムの構築を目指して日々研究に取り組んでいる。



メッセージ

臨床で働く看護師さん以外にも、研究や教育現場で活躍する道もあります。県内だけでなく、県外や海外で活躍する道もあります。本学で皆さんの可能性が最大限発揮されるよう、全力でサポートします。ぜひ本学で一緒に学びましょう。

Profile

研究分野

臨床栄養学／看護理工学

所属学会

看護理工学会／日本臨床栄養代謝学会
日本病態栄養学会／日本看護科学学会
日本創傷・オストミー・失禁管理学会
日本褥瘡学会／日本栄養改善学会 など

学歴・経歴

2006年 徳島大学医学部栄養学科 卒業
2008年 徳島大学大学院栄養生命科学教育部博士前期課程 修了(栄養学修士)
2010年 University of Pittsburgh, School of Health and Rehabilitation Sciences, Coordinated Master in Nutrition and Dietetics 修了(栄養学修士)
2017年 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻博士課程 修了(保健学博士)
2022年 医療リアルワールドデータ活用人材育成事業一般履修コース 修了

受賞

2021年 Japan Digestive Week 2021 Best Presenter Award
2023年 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 学術論文症例研究賞
2024年 第24回北陸PEG・在宅栄養研究会 優秀賞

論文

- Nishioka S, Hasegawa Y. Addressing sarcopenia in people with disabilities: Definition, assessment and nutritional care. Medical Nutrition Matters. 44(1):2-10. 2024/10/1.
- Hasegawa Y*, Kato K*, Ogai K, Konya C, Minematsu T (*co-first authors). Need for a consensus definition of chronic dehydration: A scoping review. Drug discoveries & therapeutics. 18(2):75-79. 2024/6/6
- Kato K*, Hasegawa Y*, Ogai K, Konya C, Minematsu T (*co-first authors). Evaluation indicators for chronic dehydration: A scoping review. Journal of Nursing Science and Engineering. 11:263-270. 2024/7/31

書籍等出版物

- 長谷川陽子:「終末期における褥瘡と栄養管理」, 終末期の褥瘡, 石澤美保子・玉井奈緒編集, 真田弘美監修, p37-42, 南山堂, 東京, 2025年
- 長谷川 陽子, 須釜 淳子:疾患における栄養療法: 褥瘡、病態栄養専門管理栄養士のための病態栄養ガイドブック 改訂第8版, p283-287, 南江堂, 東京, 2025年

競争的資金等の研究課題

科研費, 基盤研究 C, 2026-2028年度, 代表者, 慢性脱水の病態と高齢者における健康状態との関連の解明

社会貢献活動

2024年 「もしもに備えて今日から始める「食」と健康」, 北國健康生きがい支援事業 令和6年度石川県立看護大学プログラム
2024年 「まだまだ間に合う! もっと増やそう! 筋肉貯金!! ~筋肉を増やす食事のコツ~, かほく市地域公開講座



共同研究講座 ウェルビーイング看護学

松本 勝 共同研究講座教授
Masaru Matsumoto
contact: matumoto@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/masurumatsumoto>

研究キーワード

ロボティックチェア／ウェルビーイング／シーティング
遠隔支援／超音波検査(エコー)

センサ技術・ICTを活用したモニタリングやAIによる新たなロボティックホームケアの確立

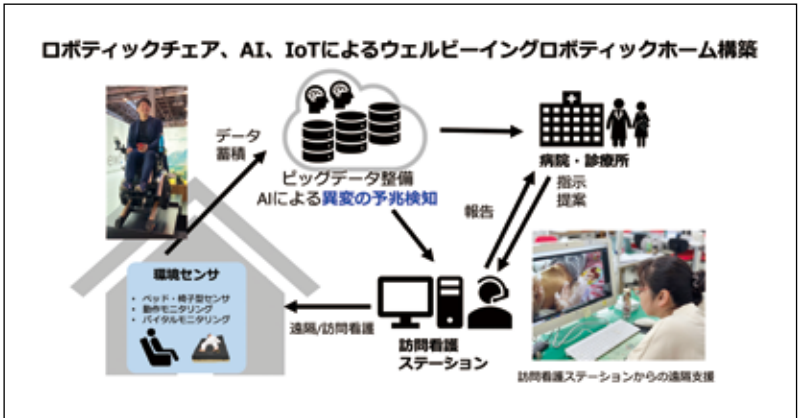
研究の概要

医療的ニーズを持ちながら在宅で療養する高齢者が、寝たきりや座りきりの問題を回避しつつ、安全で快適な生活を送るためには、センサー技術やICTを活用したモニタリング、および異常を早期発見するAIを組み込んだ新しいホームケアシステムの確立が不可欠です。そこで、共同研究講座ウェルビーイング看護学では、産学連携を通じて、在宅療養者の幸福寿命の延伸とウェルビーイングの実現に向けた医療機器・福祉用具の開発と社会実装に取り組んでいます。

研究の内容(大学院向け)

在宅高齢者の安全で快適な生活を実現するロボティックホーム、遠隔看護システムの開発

在宅高齢者が安全かつ快適に長時間座位を維持できるよう、シーティング条件の検討と、座位時の身体状態を非拘束でモニタリングする手法の開発を行います。さらに、これらを活用した生活を支援するロボティックチェアを開発します。また、それらを社会実装するために、ケアリコメンデーションシステムの構築、データベースの整備、遠隔看護システムの開発にも取り組みます。加えて、座位・臥位での無拘束バイタルセンシングとAIによる兆候検知を組み込み、状態変化を早期に捉える仕組みを検討します。得られた情報を訪問看護ステーションや病院と共有し、遠隔支援の運用モデルを構築します。



メッセージ

看護理工学や産学連携、技術開発等に関心がある方、あるいはやりたいテーマは具体的になくても何か新しいことをやってみたいという方と一緒に研究ができればと思っています。年齢、性別、キャリアは問わず、一緒に研究できる学生を募集しています。

Profile

研究分野

ウェルビーイング看護学／看護理工学
創傷看護学／イメージング看護学

所属学会

看護理工学会／日本創傷・オストミー・失禁管理学会／日本褥瘡学会／日本看護科学学会／日本在宅ケア学会／日本超音波医学会／日本老年看護学会／日本老年医学会／ウェルビーイング学会／看護実践学会 など

学歴・経歴

石川県かほく市出身
2014年 金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程修了 博士(保健学)
2014年 金沢大学医薬保健研究域保健学系 助教
2019年 東京大学大学院医学系研究科 特任講師
2021年 石川県立看護大学 准教授
2024年 現職

受賞

2021年 日本看護科学学会学術論文賞 優秀賞
2022年 2021年度看護理工学会 奨励賞

論文

- Development of an Automated Ultrasonographic Detection Method for Fecal Retention Using a Transgluteal Cleft Approach. PLoS One. 2025;20(12):e0338926.
- Expert Consensus Document: An Algorithm for the Care and Treatment of Patients with Constipation Based on Ultrasonographic Findings in the Rectum. Diagnostics. 2024; 14(14):1510

書籍等出版物

松本勝, 河本敦夫, 野村岳志編:ポイントオブケア看護エコー:ボケットエコーで看護力アップ. 照林社, 東京, 2024.

講演・口頭発表等

- 教育DXの最前線!クラウド実習記録と携帯型エコーで変わる看護基礎教育(ランチョンセミナー). 看護基礎教育への携帯型エコー導入の経験とクラウド型実習支援システムにおける活用可能性. 第45回日本看護科学学会学術集会,, 2025年12月6日.
- “減る”社会でも、看護でつなぐ一歩支え合う持続可能なケアとは(シンポジウム). 在宅看護におけるAI・IoTで支える学習連携とセルフケア. 第15回日本在宅看護学会学術集会, 2025年11月30日.

競争的資金等の研究課題

- 科研費, 基盤研究 B, 令和7-10年度, 代表者, 生体情報遠隔モニタリングを活用した医療過疎地・僻地における訪問看護 DXの実装.
- 科研費, 挑戦的研究(萌芽) 令和6~8年度, 代表者, 非拘束センシングによる椅座位での聴診音モニタリング手法と異音検知システムの開発.

社会貢献活動

高齢者看護ケアに活かす、座位姿勢の整え方の基礎と実践を学ぼう! . 石川県立看護大学令和7年度リカレント教育事業, 石川県立看護大学. 2025.10.19, 2025.11.22.



共同研究講座 ウェルビーイング看護学

幅 大二郎

Daijiro Haba

contact: haba-d@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/haba1021>

研究キーワード

ウェルビーイング／ロボティックチェア／看護理工学
理学療法学／低周波振動

看護理工学と理学療法学を融合し、幸福寿命の延伸を目指したロボティックチェアの開発

研究の概要

在宅で療養する高齢者は日中車椅子に移乗して寝たきを予防していますが、本来は「移動手段」の車椅子であるため長時間の座位は姿勢を崩し、摂食・嚥下困難、褥瘡や下肢浮腫などを引き起こすといった問題があります。本共同研究講座ではこの「移動手段」の車椅子を食事や排泄、褥瘡や浮腫予防などトータルで生活を支援する「生活の場に適した」車椅子に進化させることで、IoT、AI、ロボットを駆使して在宅療養者の幸福寿命の延伸を目指します。

研究の内容(大学院向け)

幸福寿命を延伸するロボティックチェアの開発



図1.寝たきり予防のため日中車椅子に移乗するがウェルビーイングの実現には至っていない(一般社団法人オーディナリーライフ提供)



図2.トータルで生活を支援し、高齢の療養者が在宅で最期まで尊厳をもって自立できるロボティックチェアの開発とロボティックホームの実現

メッセージ

看護師に限らず、理学療法士やそのほか様々な分野のメンバーで研究に取り組んでいます。既存の概念にとらわれず、なにが新しいことをやってみたいという方と一緒に研究ができればと思っています。

Profile

研究分野

看護理工学／創傷看護学／理学療法学

所属学会

日本理学療法士協会／日本物理療学会／看護理工学会／日本創傷・オストミー・失禁管理学会／日本褥瘡学会／日本創傷治癒学会

学歴・経歴

- 2015年 神戸大学医学部保健学科学療法学専攻 卒業
- 2023年 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻 創傷看護学分野博士課程修了 博士(保健学)
- 2023年 東京大学大学院医学系研究科附属グローバルナースングリサーチセンター 特任研究員
- 2024年 石川県立看護大学共同研究講座ウェルビーイング看護学 共同研究講座講師

受賞

- 2022年 第52回日本創傷治癒学会 研究奨励賞
- 2022年 日本基礎理学療法学会第6回若手研究者ネットワークシンポジウム データ解析賞
- 2022年 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 優秀演題賞 英語セッション
- 2025年 第27回日本褥瘡学会学術集会 優秀演題賞

論文

- Sustained effects of local low-frequency vibration using an air mattress-integrated vibrator on blood flow in healthy adults: A preliminary study. Journal of Nursing Science and Engineering. 2025;13:64-74.
- Efficacy of wearable vibration dressings on full-thickness wound healing in a hyperglycemic rat model. Wound Repair and Regen. 2023;31:816-826.

講演・口頭発表等

- ランチョンセミナー1 未来の看護を作る 研究・開発・社会実装：ロボティックマットレスのさらなる進化. 第27回日本褥瘡学会学術集会 (2025.8.29)
- シンポジウム2(日本リハビリテーション医学会 合同企画)リハビリテーション専門職者の褥瘡ケアへの関わり. 局所低周波振動刺激による難治性創傷治癒促進の新戦略と将来展望. 第26回日本褥瘡学会学術集会 (2024.9.6).
- Development of an intelligent vibrational dressing to promote healing of diabetic foot ulcers. The Wound Meeting 2024 Seoul (2024.3.22)

競争的資金等の研究課題

科研費, 若手研究, 令和7-8年度, 車椅子座位高齢療養者への局所低周波振動刺激による下肢慢性浮腫セルフケア方法の確立

社会貢献活動

「ウェルビーイングと運動」地域公開講座, かほく市いきいきシニア活動推進事業／石川県立看護大学地域ケア総合センター, かほく市いきいきステーション. 2025.



共同研究講座 ウェルビーイング看護学

立川 啓太

Keita Tatsukawa

contact: keitat@ishikawa-nu.ac.jp

研究キーワード

ウェルビーイング／寝たきり高齢者／尿失禁ケア
AIコミュニケーションロボット

高齢者の尊厳を守る、排泄トラブルのない社会へ

研究の概要

オムツやパッドを用いたケアでは、尿が皮膚に長時間接触することにより、失禁関連皮膚炎や褥瘡などの皮膚障害が生じる可能性があります。本共同研究講座では、こうした課題に対し、寝たきり高齢者の尿失禁に伴う皮膚障害の予防に向けた研究を行っています。さらに、AIコミュニケーションロボットが高齢者および施設スタッフに与える影響についても調査し、高齢者やスタッフのウェルビーイングの向上に向けた研究を推進しています。

研究の内容(大学院向け)

寝たきり男性高齢者における尿を皮膚に曝露させない尿失禁ケア方法の確立

寝たきり男性高齢者における排泄ケアの新たな選択肢を探索し、尿失禁に伴う皮膚障害の予防を通じて対象者のウェルビーイングの向上を目指します。

尿失禁を有する寝たきり高齢者を取り巻く課題

皮膚障害のリスク

・皮膚の湿潤やpHの上昇による**失禁関連皮膚炎(IAD)**や**皮膚感染症のリスク上昇**
・尿失禁により**褥瘡発生**リスクが高まる

介護者への負担

・頻回な対応による**身体的疲労**
・シーツや衣服への尿漏れによる負担
・認知症を有する高齢者の排泄ケアへの抵抗

QOLの低下

・**自己肯定感の低下**
・**抑うつ**傾向
・活動性の低下

不快感による汚染行動

・認知症の行動・精神症候群として**不快感からおむつを外そうとする**

従来の課題を解決する新たな尿失禁ケア方法が必要

メッセージ

「看護」や「研究」の面白さを広く知っていただけるよう努めていきたいと考えています。新たな看護のあり方を探索したい方々とともに、研究に取り組んでいきたいと思います。

Profile

研究分野

ウェルビーイング看護学／看護理工学

所属学会

日本看護科学学会／看護理工学会
日本創傷・オストミー・失禁管理学会
日本褥瘡学会／看護実践学会

学歴・経歴

- 2020年 石川県立看護大学看護学部看護学科 卒業
- 2022年 石川県立看護大学大学院看護学研究科 博士前期課程 修了
- 2022年 石川県立中央病院 看護師
- 2026年 現職

受賞

- 2020年 石川県立看護大学 学長賞

論文

- 森林映像が前頭前野活動に与える影響. 日本補完代替医療学会誌. 2022; 19(1): 1-7.
- 森林音聴取と森林映像視聴が前頭前野および自律神経活動に与える影響. 日本補完代替医療学会誌. 2024; 21(1): 7-14.

講演・口頭発表等

- 森林映像の視聴が前頭前皮質酸化ヘモグロビン濃度に及ぼす影響. 第40回日本看護科学学会学術集会. 東京. 2020年12月12-13日.
- 認知症を有する男性寝たきり高齢者に対する集尿型器具「TIMESHIFT」の実用性評価:長時間使用に関する症例検討. 第18回看護実践学会学術集会. 石川. 2025年9月27日.
- Impact of a Non Verbal AI Communication Robot on Care Staff in a Disaster Affected Japanese Facility. International Society for Gerontechnology 15th World Conference. Canada, 2026. 3. 26-29.



石川県寄附講座 災害実践看護学

木田 亮平 教授

Ryohei Kida

contact: rkida@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ https://researchmap.jp/ryohei_kida

研究キーワード

災害看護／防災教育／持続的な看護提供体制／地理情報システム
データサイエンス／組織マネジメント

災害時に国民を守る 看護提供体制・組織システムを探究する

研究の概要

災害が多発する日本において、持続的に医療サービスを提供し国民の健康・生活をまもるためには、災害に強い看護提供体制やシステムの構築がカギとなる。災害サイクル(準備期、超急性期、急性期、慢性期・復興期)において重要な役割を担う看護職のチカラが最大限発揮され、国民の健康・生活をまもるための看護提供体制やシステムづくりについて探究している。

研究の内容(大学院向け)

地理情報や量的データを活用して、 災害に強い看護提供体制・システムづくりを提案する

持続的な看護提供体制、特に災害時の体制づくりには「場所」というマクロな視点が非常に重要である。場所に関する様々な情報(地理情報)と看護・保健医療に関する情報を組み合わせて、災害に強い看護提供体制やシステムの在り方、体制づくりを探究している。現在は、データサイエンスの方法論を用いて、災害発生前から発生後も活用できる新しい地域医療・防災マップアプリの開発や、災害発生時の適正な看護職配置に関する研究を行っている。



図1. 種々の情報を組み合わせて作成した石川県地域医療・防災マップ(β版)のアプリ画面(浸水場所を避けた避難所から薬局までの距離を推計している例)



図2. 地理情報を用いた将来の地震発生時の看護職配置シミュレーション結果の例

メッセージ

さまざまなデータを活用し、地域医療や災害・防災情報等を組み合わせ可視化し分析することを重視しています。「災害で生じる健康問題や悲しみを少しでも減らせる社会をつくる」という夢と一緒に叶えてくれる仲間を募集しています！

Profile

研究分野

看護提供体制／看護施策・看護政策／看護管理学
組織心理学／災害看護

所属学会

日本災害看護学会／日本災害医学会／日本看護
管理学会／日本看護科学学会／日本医療・病院管
理学会／看護実践学会／地理情報システム学会
など

学歴・経歴

- 2011年 首都大学東京(現・東京立大学)健康福祉学部看護学科 卒業
- 2018年 東京大学大学院医学系研究科看護管理学／看護体系・機能学分野 特任助教
- 2020年 東京大学大学院医学系研究科看護管理学／看護体系・機能学分野 助教
- 2021年 東京医科歯科大学(現・東京科学大学)大学院保健衛生学研究科博士課程修了 博士(看護学)
- 2024年 石川県立看護大学 准教授
- 2025年 石川県立看護大学寄附講座「災害実践看護学」教授

受賞

Top10 Cited Article in Japan Journal of Nursing Science (2023)

論文

- Characteristics of Disaster-Related Deaths and Causal Events from the 2024 Noto Peninsula Earthquake: A One-Year Descriptive Study of Public Data from Ishikawa Prefecture, Japan Journal of Nursing Science. 22(4): e70014. 2025.
- Nursing management for temporary lodging facilities in Japan in the early stages of the COVID-19 pandemic: A multiple-case study. 20(1):e12507. 2023.
- 全国の認定看護管理者所属施設の分布及び所属と関連する二次医療圏・施設特性 - 地理情報システムを用いたオープンデータ分析 -. 日本看護科学学会誌. 43:305-314. 2023. など

講演・口頭発表等

- 施設における認定看護管理者の有無と病棟の看護師充足度および在宅復帰率との関連. 第28回日本看護管理学会学術集会. 2024.
- ポスト・コロナに向けた看護職の労働環境 およびワークライフバランスにおける研究動向. 第77回日本臨床眼科学会. 2023年. など

競争的資金等の研究課題

2025～2028年度. 科学研究費助成事業若手研究「地域における看護サービス資源の地域間格差及び地域住民の空間統計学的検討(研究代表者)」

社会貢献活動

- 日本医療・病院管理学会 認定フェロー, 事業委員, 若手会員の会世話人.
- 石川県防災会議震災対策部会 専門委員 (2025.8～2025.12)
- かほく市令和6年能登半島地震検証委員会 委員長(2026.1～現在)



石川県寄附講座 災害実践看護学

窪田 直美 講師

Naomi Kubota

contact: nkubotan@ishikawa-nu.ac.jp

研究キーワード

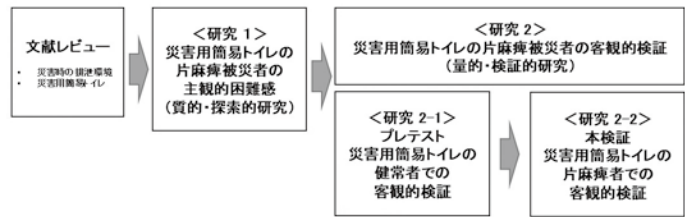
災害／避難生活／生活環境／災害トイレ

災害時の避難生活におけるQOLの向上のため、 避難生活の環境改善を目指す研究 (災害時の排泄環境の改善)

研究の概要

1. 災害後の避難生活における排泄環境の改善にむけた研究

近年、災害は世界的にも頻発しています。災害後の避難生活においては、ライフラインが制限される中で集団生活を強いられ、十分な食事が摂取できず、睡眠や休息も取れず、排泄も困難となり、普段通りの生活活動もできない状況となります。さらに、プライバシーも確保できない状況となることから、大きなストレスとなります。以上のような避難生活が要因となって災害関連死が増加します。そのため、看護職として避難生活の環境を改善し、少しでも避難住民のQOLを向上させることが重要です。私が初めて災害看護に携わったのは、2007年の能登半島地震において輪島市で災害支援ナースとして活動したことが始まりです。その後、東日本大震災、平成28年熊本地震、平成30年西日本豪雨、令和元年東日本台風、令和6年能登半島地震においても被災地で支援活動をいたしました。これまでの被災地活動の実際においても、避難住民の生活環境はあまり改善されていないのが現状です。特に災害時の劣悪な排泄環境は健康障害につながる重要な課題です。避難生活の排泄に関するQOLを向上すべく、特に要配慮者の中でも片麻痺のある療養者に対する排泄環境の改善を目指して、災害時のトイレに関する研究を進めています(下図)。



2. 災害看護に関するVR教材の開発とその効果に関する研究

災害看護の知識と技術を修得するためのVR教材の開発とその効果に関する研究に取り組んでいます。「災害に強い看護職」を育成すべく、教育と研究を融合しながら推進していきます。

メッセージ

病院等で30年以上看護師として、さらに災害看護専門看護師(2017年取得)として地域防災、病院防災、防災教育など活動して参りました。今後は、災害実践看護学の知見を集積できるように研究活動を進めたいと思います。

Profile

研究分野

災害発生後における避難生活での環境整備
排泄環境の整備／災害トイレの備蓄と普及

所属学会

日本災害看護学会／日本災害医学会／日本高度
実践看護学会／看護実践学会／トイレ研究会／日
本看護管理学会

学歴・経歴

- 1989年 東京都立公衆衛生看護専門学校 卒業
- 1989年 東京都立広尾病院を経て
- 2010年 福井県立大学大学院看護福祉学部看護学科修士課程看護学専攻(基礎看護)修了(修士 看護学)
- 2012年 日本DMAT(現在更新なし)
- 2016年 福井大学大学院医学系研究科修士課程看護学専攻災害看護専門看護師教育課程 修了(修士 看護学)
- 2017年 災害看護専門看護師 取得(2022年更新)
- 2025年 石川県立看護大学 石川県寄附講座 災害実践看護学講座 講師
- 2025年 災害支援ナース 石川県との協定

論文

手術体位の保持に伴うストレスに対するアロマセラピーの効果:2011, 第41回日本看護学会学術集会 論文集, 成人看護 I, ISSN 1347-8192, pp289-292.

書籍等出版物

変化を乗り切る判断・決断・行動力を!看護部長通信 新・実践情報誌[隔月刊]2022年8月9月号, 特集2「過去の教訓を生かし、危機的状況でも機能を止めない 災害に強い組織づくりと看護管理の実践」本人担当分:p72～p81(10ページ分),Web10月11月、12月1月、2月3月にて連載, 2022年8月,日総研出版 看護部長通信

講演・口頭発表等

- 2016年8月 「東日本大震災の応急仮設住宅で暮らす独居高齢被災者の社会とのつながりに関する研究」日本災害看護学会第18回年次大会
- 2022年3月 第2類感染症指定病院かつ地域災害拠点病院におけるCOVID19禍での地震災害発生を想定した図上訓練からの課題, 第27回災害医学会総会学術集会
- 2025年3月 A 災害拠点病院における地震災害を想定した机上訓練による電子カルテ機能停止の課題, 第30回日本災害医学会総会学術集会

社会貢献活動

- 2019年3月～ 鯖江市にて減災ナースにて委嘱、鯖江市消防団機能別分団:医療班(現在)
- 2020年～ 日本災害看護学会先遣隊



石川県寄附講座 災害実践看護学

登谷 美知子 講師

Michiko Toya

contact: toyam092@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/tomichiko>

研究キーワード

高齢者施設／災害時受け入れ／事前準備

令和6年能登半島地震における 高齢者施設での避難者受け入れの実態及び 施設の特徴に関する調査

研究の概要

災害発生後、介護施設の機能維持が困難となった場合、入居者は避難移動を余儀なくされる。その場合、移動範囲は何kmなど広域となることがあり、健康維持に新たな課題が生じる。そのため、要介護者である高齢者が避難後も健康を維持する為には、まずは避難者を受け入れる高齢者施設の受け入れ準備が重要になる。

そこで、本研究では、令和6年能登半島地震発生後に、入居目的で避難された高齢者の受け入れ可否に関する調査を行い、施設の特徴を明らかにする。



メッセージ

2025年4月より、石川県寄附講座 災害実践看護学講座が開設され講師として着任いたしました。これまでの実践活動を活かし社会貢献に努めるとともに、研究活動も行いながら、実践で得た経験・知識・技術を活かし災害に強い看護師の育成を目指し頑張っていきたいと思います。

Profile

研究分野

災害実践看護学／災害時の受援
災害時の受け入れシステム
災害時の看護管理者に関する事

所属学会

日本災害看護学会／日本看護管理学会
看護実践学会

学歴・経歴

2017年 福井大学大学院医学系研究科看護学専攻 災害看護専門看護師教育課程修学
2020年 福井大学大学院医学系研究科看護学修士課程 修了(災害看護学領域)
2020年 災害看護専門看護師 取得
2025年 石川県立看護大学 石川県寄附講座 災害実践看護学講座 講師

論文

2016年熊本地震の災害中長期に受援を行った病院に勤務する看護管理者の思いと活動の実際. 看護実践学会誌, Vol37. (1), 28-41, 2025

書籍等出版物

- 災害派遣シミュレーションQ&A (共著: 日本看護協会出版会)
- 看護職員の惨事ストレスとケア-災害・暴力から心を守る- (共著: 朝倉書店)
- 主任・看護style 管理・リーダーシップと育成 (共著: 日総研)
- 令和7年版看護白書 (共著: 日本看護協会出版、投稿中)

講演・口頭発表等

- 2016年熊本地震発生後の災害中長期に受援を行った病院に勤務する看護管理者の思いと活動の実際 第24回日本看護管理学会学術集会, 2020年8月
- 効果的な受援への準備 ～平時の備えを考える～ 日本災害看護学会第23回年次大会, 特別講演, 2021年9月
- 災害拠点病院看護部が取り組む防災対策と評価, 第12回日本看護評価学会, シンポジスト, 2022年9月
- R6年能登半島地震における急性期の避難所支援活動, 日本災害看護学会第26回年次大会, シンポジスト, 2024年9月

社会貢献活動

2007年 中越沖地震 救護班避難所支援活動
2011年 東日本大震災 花巻空港 SCU 活動、知的障害者施設支援
2016年 熊本地震 DMAT 活動、避難所・病院支援
2018年 平成30年7月西日本豪雨災害 病院・福祉避難所支援
2023年 令和5年奥能登地震 在宅避難者支援
2024年 令和6年能登半島地震 避難所・在宅避難者、応急仮設住宅支援
2010年～2024年 石川県看護協会 災害支援ナース育成事業参画
2019年～2021年 日本災害看護学会 広報委員会

研究シーズ集

Research SEEDS

研究テーマ	歳をとるのも悪くないなと思える 看護技術に必要なシステムやものづくり	真田 弘美 [P.08] 研究キーワード・看護のものづくり／DX／傷(キズ)
看護学は、毎日進化しています。これからの少子超高齢社会で対象となる方々のキーパーソンです。人生100歳に向けて、個々が自分で生きる術をつくります。病院で、在宅で、施設で、どこで暮らしても幸福寿命が達せられるように、無いなら創るを基本に、他分野(理工)の先生方や企業とともに「歳をとるのも悪くないな」という社会にすることが夢です。		
研究テーマ	身体活動を促進する行動科学および 社会的支援アプローチの効果	垣花 涉 [P.09] 研究キーワード・運動／コミュニティ・エンパワメント／アクションリサーチ
「地域を基盤とした参加型研究によるコミュニティ・エンパワメントの構築は、高齢者の健康を維持・増進させる」という仮説検証型の研究を行っている。研究者と高齢者が協働して地域健康づくりを作り上げる介入プロセスを、トライアンギュレーション法を用いて質的に分析する。併せて、介入に伴う高齢者の体組成および体力の変化を対照群のそれと比較する。量的・質的分析により、コミュニティ・エンパワメントの構築が高齢者の健康を維持・増進させる根拠を明らかにする。		
研究テーマ	看護学生を能動的な学習へ導く 双方向型授業の構築	垣花 涉 [P.09] 石川 倫子 [P.20] 瀬戸 清華 [P.24] 研究キーワード・探究／双方向型授業／コミュニケーション
私たちは、コロナ禍での遠隔授業の経験から、学生を能動的な学習へ動機づける教師－学生間、または学生同士のコミュニケーションの重要性を見出している。そのため、授業では自明の答えのない問題について、学生自身がみずから答えを模索する「探究学習」を推進している。学生は、「問いを立てる・しらべる・読む・集めた情報を分析する・議論する・論理を組み立てる・書く・発表する」一連の学問の思考様式を体験する。併せて、言葉により人間関係をつくり、自分の意思を伝え、他者の意思を理解することを学ぶ。		
研究テーマ	西田幾多郎における自由概念の研究	中嶋 優太 [P.10] 研究キーワード・西田幾多郎／自由／自律／人格／新資料／翻刻／徳倫理
個人の自由な意志決定は、生命倫理学の自律尊重原則にも見られるように現代社会においてますます重視されるようになってきた一方で、自由な選択を迫られる場面が増えるとともに自由であることが必ずしも幸福であると感じられなくなってきた。本研究では、日本を代表する哲学者、西田幾多郎の独創的な自由論を手がかりに自由とはなにかを問い直すことで、現代社会に於ける自由をめぐる諸問題を考えるために新たな視点を提供する。		
研究テーマ	AI・機械学習を活用したデータ駆動型な 探索的問題解決シーズの創出	松田 幸久 [P.11] 研究キーワード・AI／機械学習／データ駆動型／コンサルテーション
本シーズは、1：AIや機械学習をよく知りたい方、2：業務に導入しようとしている企業、3：それらを用いた事業を展開している企業に対するコンサルテーションや研修会での講師を行うサービスである。		
研究テーマ	ストレス・マネジメント、対人関係論、 コミュニケーションスキルなどについて の心理学的コンサルテーション	松田 幸久 [P.11] 研究キーワード・ストレス・マネジメント／交流分析／第一印象
本シーズは、以下のテーマについて企業や団体に対する講義や研修を行うサービスである。1：ストレス社会におけるストレスをコントロールする方法や考え方、2：対人関係の理論と日常の社会で応用できる交流分析、3：第一印象の形成を含めたコミュニケーションスキルなどの理論と実践		
研究テーマ	・心拍変動(Heart Rate Variability)測定 およびその解析技術 ・体幹加速度分析による歩行動作解析	小林 宏光 [P.12] 研究キーワード・心拍変動／自律神経／歩行／森林浴
心拍変動は自律神経活動の指標として様々な領域で活用されています。特に近年では実験室的な研究だけではなく実際の生活環境での研究や一般向けの健康づくりなどにおける活用も進んでいます。この心拍変動測定に関する基礎的な研究に加え 1、2) この測定を用いた自然環境、森林環境が与える治療的効果の研究 3、4) も行ってきました。また体幹の加速度測定による歩行動作解析 5) の研究も進めています。侵襲なく歩行機能が測定できることから特に近年注目されている技術です。		

研究テーマ	15世紀イングランドの写本文化における 英語教訓詩受容の実態	工藤 義信 [P.13] 研究キーワード・後期中世英文学／教訓詩／写本研究
15世紀イングランドで創作された英語教訓詩、ピーター・イドリー作『息子への教え』の現存写本10点それぞれを詳しく調査し、ひとつの詩作品が多様な仕方で編纂され、多様な文脈で読み親しまれていた実態を明らかにする研究を行っています。詩のテキストの改変・削除・追加とその経緯・意図、同じ写本の中に一緒に編纂されている他の作品や、それらの作品とともに収録されていることの意味、読者の社会階層の多様化を扱っています。		
研究テーマ	MRゴーグルを用いた輸液ポンプの輸液 管理演習における教育効果の検証	佐能 唯 [P.14] 研究キーワード・歩行解析／転倒リスク評価／医療工学
Mixed Reality(MR)ゴーグルを用い、輸液ポンプの輸液管理方法を自主練習することで従来の方法と比べ、教育的な影響を検証する。 (小児看護学とのコラボレーション)		
研究テーマ	時計遺伝子を制御する機能的分子を 見つける	平居 貴生 [P.15] 研究キーワード・分子薬理学／時間生物学／骨代謝学
体内リズムと病気の関連について興味を持って研究を続けています。体内リズムを制御する時計遺伝子の新しい役割を見つけること、それらをコントロールするような機能分子を見出すことで多くの病気の予防や治療に貢献できるのではないかと考えています。		
研究テーマ	若者のHPV関連疾患予防に 関する研究	今井 美和 [P.16] 亀田 幸枝 [P.27] 研究キーワード・HPV(ヒトパピローマウイルス)／ワクチン HPV関連疾患／子宮頸がん／プレコンセプションケア
日本の高校までの包括的性教育のレベルは国際標準から大きく遅れており、子宮頸がんなどのHPV関連疾患の予防について学ぶ機会はほとんどありません。そのため、高校卒業後の18歳以上の若者に対するプレコンセプションケアが不可欠になっています。同時に、思春期の子どもを持つ保護者もその重要性を理解する必要があります。このような状況を改善するため、本学では同世代のピア(仲間)である大学生や大学院生が協力し、HPV関連疾患予防啓発プログラムの開発に取り組んでいます。 注)包括的性教育:世界の性教育の指標である国際セクシャリティ教育ガイダンスの内容を取り入れた教育 プレコンセプションケア:生殖可能年齢にあるすべての人々の健康の保持および増進		
研究テーマ	生殖機能の中枢制御機構に関する研究	市丸 徹 [P.17] 研究キーワード・性周期調節／視床下部／電気生理学 多ニューロン発射活動
生殖に関わる行動的・生理的变化は直接的には性ホルモンに調節されますが、その性ホルモンの分泌調節はHPG axisという視床下部を頂点とした上位ホルモンによる調節系で制御されています。本研究ではラットを用いて、生殖機能の中枢と想定される視床下部GnRHパルスジェネレーターの電気活動を、留置電極により多ニューロン発射活動(MUA)として記録・解析するシステムの開発を目指しています。		
研究テーマ	重症筋無力症の新規病態: 免疫チェックポイント分子と 補体制御因子および治療への発展	岩佐 和夫 [P.18] 研究キーワード・神経免疫学／重症筋無力症／骨格筋／補体制御因子 免疫チェックポイント因子
重症筋無力症の基本的な病態は自己抗体による神経筋接合部のシナプス後膜(骨格筋)の障害である。重症筋無力症ではシナプス後膜の障害に加え、骨格筋においても特異的な反応が生じていることが明らかになってきている。この骨格筋における反応は重症筋無力症の新たな病態理解に結びつくだけでなく、治療にも役立つ可能性がある。		

研究テーマ	・地域の出生力に関する研究 ・環境汚染物質の脳神経系・内分泌系への影響 ・必須微量元素の生態学的意義に関する研究	今井 秀樹 [P.19] 研究キーワード・fertility／environmental chemicals essential trace elements
環境因子(おもに化学物質)の脳－神経系あるいは内分泌系への影響の研究(近年は複合汚染に注目している)。栄養素(必須微量元素など)の生態学的意義に関する研究。地域の出生力に関する研究。		
研究テーマ	診療看護師(NP)による 患者・家族の症状マネジメント力を 高める教育支援モデルの開発	石川 倫子 [P.20] 寺井 梨恵子 [P.21] 田村 幸恵 [P.22] 瀬戸 清華 [P.24] 千田 明日香 [P.25] 研究キーワード・診療看護師(NP)／症状マネジメント／在宅療養移行支援
患者・家族が在宅療養生活を継続するためには、当事者である患者・家族の症状マネジメント力の向上が重要であり、患者の病態と生活から包括的に症状マネジメントできる診療看護師(NP)の介入が求められる。そこで本研究では、在宅療養生活を継続するために、診療看護師(NP)が患者・家族の療養生活で得た自助力を活かし、患者・家族の症状マネジメント力を高める教育支援モデルの開発を試みる。		
研究テーマ	転倒リスク場面における看護師の 臨床判断能力と眼球運動との関連	寺井 梨恵子 [P.21] 研究キーワード・転倒／看護師／看護学生／臨床判断／視線解析／観察
医療事故のうち転倒・転落は療養上の世話の中で最も多い。一般的に、転倒リスクアセスメントツールが用いられているが、実際には五感を使った判断や行動が先行している現状が明らかになっている。五感のうち、視覚は87％を占めており、看護師は視覚情報を用いて臨床判断を繰り返している。現在は、転倒リスク場面における看護師の臨床判断能力や場面の違いによる眼球運動との関連を明らかにすることを目的として研究に取り組んでいる。		
研究テーマ	在宅療養患者への 看護師による携帯エコーを使用した 心不全評価の臨床的意義	田村 幸恵 [P.22] 研究キーワード・慢性心不全／携帯エコー／看護師／在宅
高齢化に伴い急増している慢性心不全は、増悪と寛解を繰り返すことで心機能が低下し、生活の質と生命予後を悪化させる。再入院率は非常に高く、患者数増加に伴う高額な医療費も問題となっている。慢性心不全患者への看護師の役割は、問診と身体所見観察、および日常生活指導による心不全の増悪予防と早期発見であるが、現状の予防対策では十分とは言えない。そこで、在宅療養する慢性心不全患者の身体所見観察に、看護師が携帯エコーを用いることに着眼した。看護師の身体所見観察に携帯エコーによる客観的指標を追加できれば、心不全増悪の早期発見が容易となり、在宅で療養する心不全患者の再入院率低下とADL維持に大きく貢献できると考える。		
研究テーマ	ケア技術の質向上、患者さんにとって より安全・安楽なケア方法の考案を目指す	石井 和美 [P.23] 研究キーワード・看護技術／看護教育／清潔ケア
清潔は人間の基本的欲求であり、日々の生活の中で当たり前に行っている生活行動の1つである。しかし、病気や手術など何らかの理由によって、自分で清潔を保持できなくなった場合は他者に清潔行動を委ねることになる。ケア実施者はその人に代わって、より安全で安楽で効果的な(質の高い)ケアを提供し、その人の清潔のニーズ(欲求)を満たす必要がある。近年では様々なケア用品が開発され、ケアを実施する場や人も多様になっており、このような現状においてもより質の高いケア技術を患者に提供するためには常にケア技術のエビデンスを検証し続ける必要がある。清潔ケアでは「洗う」、「拭く」といった基本的な技術がある。このような基本技術に着目し、誰がいつどのような場で何を用いても同じケアが提供できるよう、ケア技術の検討を行っている。		
研究テーマ	稀少・難治性疾患を生きる当事者視点の ピアサポートの支援プログラム	瀬戸 清華 [P.24] 研究キーワード・筋萎縮性側索硬化症／ピアサポート／当事者間プログラム／支援
筋萎縮性側索硬化症の患者が自助や互助の力を高めるためには、当事者同士のピアサポートの様相に基づく支援プログラムが重要である。希少性・難治性・進行性を生きる患者は、患者交流の場においてどのようなピアサポートを成しているのか。当事者間に広がる世界に近づき、社会参加につながる真の支援を形にすることを目標に、研究に取り組んでいる。		

研究テーマ	看護師と看護補助者が協働して 質の高い援助を行っていくための研究	千田 明日香 [P.25] 研究キーワード・看護師／看護補助者／タスクシフト・シェア 情報共有／調整行動
急性期病棟では看護師の業務負担軽減のため、患者の援助を看護補助者が行う機会が増えています。看護師と看護補助者が患者に質の高い援助を提供するチームとして活動していこうとする中、患者の体調が変化しやすい急性期病棟では、看護師と看護補助者共に即座の判断や行動が求められます。研究では患者の援助を実施する看護師と看護補助者の情報共有や調整行動の視点から両職種の協働のあり方を検討しています。		
研究テーマ	手術を受ける患者さんの生命力の消耗を 最小にする看護	橋本 知奈 [P.26] 研究キーワード・手術看護／看護技術／看護実践
近年、医療技術の進歩に伴い、手術は高度化・複雑化し、術中管理の重要性はますます高まっている。手術は医師、看護師、臨床工学技士など多職種が協働して遂行される医療であり、手術看護もその中で実践されるものである。このような状況下で、手術を受ける患者さんは、意識の有無を問わず、自己の意思や身体の一部が制限され、生命維持を医療者に委ねた状態にある。私は手術室での臨床経験を通して、手術室看護師は単なる医師の介助者ではなく、手術を受ける患者さんの生命力の消耗を最小にする看護実践者であると実感するに至った。しかし、その看護実践や看護技術について十分に可視化・評価されているとは言い難い。これらを踏まえ、手術室で実践される看護および看護技術について科学的に評価し、手術を受ける患者さんの生命力の消耗が最小になるような看護技術や機器を開発する研究に取り組みたいと考えている。		
研究テーマ	性成熟期の男女へのプレコンセプションケア (生殖可能年齢にあるすべての人々の健康の保持および増進) に関する研究	亀田 幸枝 [P.27] 今井 美和 [P.16] 研究キーワード・妊娠前／健康教育／プレコンセプションケア プログラム開発
プレコンセプションケアは、妊娠前の適切な時期に適切な知識・情報を女性やカップルを対象に提供し、将来の妊娠のためのヘルスケアを行うことです。取り組むべき領域は栄養状態、不妊、ワクチンで予防できる疾患、性感染症、若年妊娠や望まない妊娠、喫煙など多岐にわたります。ヘルスリテラシーを高めることで妊娠前の女性やカップルの健康状態を改善することが可能となります。その結果、より安全で安心な妊娠・出産が可能となり、結婚、妊娠、出産、子育て、仕事を含めた将来のライフデザインを描けるようになります。しかし、このような情報を知る機会ほとんどありません。そのため、プレコンセプションケアに関する啓発プログラム開発を目指しています。		
研究テーマ	周産期の死(流産・死産・新生児死亡)を 経験した母親・家族を社会全体で支える システム開発に関する研究	米田 昌代 [P.28] 研究キーワード・周産期喪失／流産／死産／新生児死亡／グリーフケア セルフヘルプグループ／連携システム／オンラインシステム
周産期喪失は、通常は喜びにあふれた妊娠・出産の中で起こる突然の出来事であり、母親にとって深い傷を負う体験となる。このような体験は、悲嘆が複雑化しやすく、様々な健康障害を生じたり、残されたきょうだいに対する不適当な養育につながる事が明らかになっている。このようなことから、周産期喪失時にグリーフケアは重要である。本研究では多職種、セルフヘルプグループが連携してその対象にあったグリーフケアを提供できるように、また、対象自らが選択できるような施設から地域へのシステム作りをめざしている。		
研究テーマ	神経管閉鎖不全の発生リスク 低減のための葉酸サプリメント摂取に 関する女性の認識	曾山 小織 [P.29] 研究キーワード・神経管閉鎖障害／葉酸サプリメント プレコンセプションケア／ヘルスリテラシー／保健行動
神経管閉鎖障害(Neural tube defects:NTDs)は二分脊椎を含む脊髄膜瘤、脳瘤、及び無脳症等の先天異常です。女性が妊娠する1か月以上前から葉酸を補足することで発生リスクが低減すると言われていています。日本では葉酸サプリメントの摂取が推奨されましたが、妊娠前の葉酸サプリメントの摂取率は低率であり、NTDsも減少していません。妊娠前の葉酸サプリメント摂取率を向上するための研究を行っています。		
研究テーマ	ユースクリニックを基盤とした、ユース世 代の性を含む心身の健康のための教育 プログラムと支援モデルの開発と評価	桶作 梢 [P.30] 研究キーワード・ユース／ユースクリニック／性と生殖の健康(SRH) ヘルスケア／教育
思春期・若年成人期(ユース世代)は、性を含む心身の健康や将来設計に関する課題を抱えつつ、適切な支援にアクセスしにくい。本研究は、石川県初のユースクリニック「ふらっとマチナカ保健室」の実践を基盤に、若者のニーズや支援利用の実態を明らかにする。さらに、がんを経験した若者への支援にも着目し、教材開発やピアサポーター養成を含む教育的アプローチを通して、地域に根ざした支援モデルの構築を目指す。		

研究テーマ	膀胱底の位置の縦断的計測による 妊産褥婦の尿失禁リスク予測のための 指標の探索	河合 美佳 [P.31] 研究キーワード▶尿失禁／膀胱／妊産褥婦
女性の尿失禁は妊娠や出産が契機となり発症することが多く、加齢とともに増加し、尿失禁がQOLに影響するという点では妊娠や出産に関わる看護者は女性の生涯を通して考えなくてはならない問題である。産後に尿失禁が起こる原因としては、骨盤底筋群の弛緩により膀胱が下降することや、妊娠中に子宮と癒着した膀胱が産後の子宮復古とともに下降するためと考えられていることから、膀胱底の位置と骨盤底筋群の筋力の変化を縦断的に測定し尿失禁との関連を検証することを検討している。		
研究テーマ	妊婦歯科健診の受診率向上を 目指した取り組み	野沢 ゆり乃 [P.32] 研究キーワード▶妊産婦／妊婦歯科健診／育児不安
近年、口腔の健康が全身の健康に密接に関係していることが明らかとなっている。周産期においても口腔内からの感染・慢性炎症巣としての歯周病が早産や低出生体重児出産などを引き起こす可能性があるという報告があり、妊婦歯科健診受診率向上を目指した支援方法を見出すための研究に取り組んでいる。		
研究テーマ	自律した意思決定に寄り添う看護： 出生前検査を巡る看護職の実践知を探る	原 真佑子 [P.33] 研究キーワード▶出生前検査／NIPT／意思決定支援
出生前検査を取り巻く環境が変化し、情報へのアクセスが容易になる中で、検査を受けるか迷う妊婦や家族への意思決定支援の重要性が急速に高まっています。しかし、医療現場の多忙さや体制的な課題から、最も身近な存在である看護職が支援に十分に関与しにくい現状があります。特に、家族の意思を尊重し寄り添う「遺伝カウンセリングマインド」に基づいた対応は、個々の看護職の意識や経験に委ねられている面が大きく、その具体的な実態は十分に把握されていません。そこで本研究では、看護職の認識と対応のリアルな実態を明らかにすることで、現場の課題を解決し、家族が安心して選択に向き合える体制づくりに貢献することを目指します。		
研究テーマ	家族のレジリエンスを高め、 愛着形成と修復を支援する	戸部 浩美 [P.34] 研究キーワード▶虐待／マルトリートメント／家族／レジリエンス／愛着 養育態度／感情調整／マインドフルネス／認知行動療法
子どもが幼少期に養育者との間に築く安定して安心が得られる関係性＝愛着は、その後の人格形成の土台となり、生涯にわたって個人、また家族や社会のウェルビーイングに大きな影響を与える。世代間伝達の影響、身体・精神的疾患、貧困、不登校、発達障害など、様々な要因で愛着形成がうまくいかない場合も多いため、愛着形成不全の予防や修復のために周囲の支援が不可欠である。人生に起こるストレスや危機にあっても立ち直る力＝レジリエンスを高めるために、認知行動療法やマインドフルネスを用いた教育や訓練による支援を行っている。		
研究テーマ	親になる前から始める 子ども虐待予防支援プログラムの開発	千原 裕香 [P.35] 研究キーワード▶子ども虐待予防／親になること／子育て 次世代育成教育／DX(Digital Transformation)
子ども虐待・不適切な養育は子どもの発達に広範囲で深刻な衝撃を及ぼすことが明らかとなっており、発生の未然防止が極めて重要である。様々な社会の変化により子どもと関わる機会が少なくなり、「親になること」について考えたり、子育てについて学んだりする機会がないまま親になり、育児不安や不適切な養育につながってしまうことが指摘されている。そこで、親になる前の若者にアプローチする子ども虐待予防支援プログラムの開発をめざし検討を重ねている。		
研究テーマ	母親の完全主義と育児困難・ エンパワーされた経験の関係	後藤 亜希 [P.36] 研究キーワード▶子育て支援／育児困難／母親／完全主義
本研究の目的は、母親の完全主義と育児困難の関係および、完全主義とエンパワーされた経験との関係を明らかにすることである。完全主義の「完全欲求」、「失敗過敏」、「行動疑念」の3側面が強い母親ほど育児困難が強かった。また、安心できる人達の基で「気持ちの整理」、「本来の自分になれる」、「役立つ感覚が得られた体験」、「新しい考え・視点・対処方法の獲得」の経験をしていない母親は、そうでない母親に比べて完全主義の「完全欲求」、「失敗過敏」、「行動疑念」の3側面が強かった。完全主義の傾向が軽減されるには、母親が安心できる関係性の構築とその人との間で、上記の経験ができるよう支援することが重要であった。		

研究テーマ	子どもを特別養子縁組に託す実母への 支援を確立し、傷ついた女性を支援する	西 真理子 [P.37] 研究キーワード▶特別養子縁組／実母支援／自立支援／虐待予防 予期しない妊娠
虐待や貧困等により親から養育を受けられない子どもの養子縁組や里親等による家庭での養育率は非常に低く、文化社会的背景を考慮したうえで認知や受容を変革していく必要がある。そのような中、特別養子縁組に子どもを託す実母への支援はほぼなく、予期しない妊娠を経て出産後すぐに子どもを託すという人生の劇的な変化と、深い傷つきや不安を経験した女性への心理教育を含めた長期的な自立支援を目指し研究に取り組んでいる。		
研究テーマ	どこでも、すべての人たちの皮膚を 健康に保つ最良なケアを実現	紺家 千津子 [P.38] 研究キーワード▶傷ケア／スキンケア／リモート看護師支援／災害看護
高齢者の皮膚は、薄く、弾力性が乏しく、角質水分保持能や皮脂の分泌能などの機能が低下する。このように脆弱な高齢者の皮膚に物理的、化学的な刺激が加わると、褥瘡(じゅくそう。いわゆる「床ずれ」を意味する)、スキン-テア(皮膚裂傷)、失禁関連皮膚炎などの多様な皮膚障害が発生しやすくなります。さらに、これらの皮膚障害によって、痛みや痒み、時には皮膚障害部が感染し死に至る場合があります。そのため、これらの皮膚障害を予防し、発生時には適切な管理を病院や介護施設、自宅であっても行える体制整備に向けての研究に取り組んでいます。		
研究テーマ	皮膚を見る、皮膚を護る、 そして皮膚から見る：ポイントオブケア ナーシング技術の開発	峰松 健夫 [P.39] 研究キーワード▶看護理工学／スキンケア／創傷治療 慢性脱水／スキンプロッティング
皮膚の異常は、生命を脅かすのみならず、強い不快感により生活の質(QOL)を低下させ、さらにボディイメージなどを損なうことで精神的苦痛にも直結する。そこで、誰もが簡単に、出血や痛みもなく皮膚の状態を検査できる技術として「スキンプロッティング法」を開発してきました。これまでスキンプロッティング法を用いた皮膚バリア機能の評価、褥瘡(じゅくそう。いわゆる「床ずれ」)の発生予測、かゆみの同定などに応用してきました。さらに近年は、スキンプロッティングを全身状態の評価にも応用できることを見出し、慢性脱水や栄養状態の評価法の開発にも取り組んでいます。		
研究テーマ	リンパ浮腫の客観的評価方法の確立と ケア技術の開発	臺 美佐子 [P.40] 研究キーワード▶がん／リンパ浮腫／セルフケア支援
リンパ浮腫は、がん治療後に生じる慢性的な浮腫である。リンパ循環停滞により真皮・皮下組織に過剰な組織間液が貯留することで、治癒が見込めない病態であること、皮膚の急性炎症である蜂窩織炎を繰り返しやすいことが特徴である。ひとびとが、がん治療後も安心・安全に暮らせるために、浮腫をコントロールし、蜂窩織炎を予防するためのケアの継続支援が重要であることから、看護学に求められる役割は大きい。臨床(浮腫ケア相談室や国内の医療施設)・研究(看護理工学手法を用いた様々な研究方法)・教育(がん看護学)・地域フィールド(かほく市や県内の被災地域)・国際的フィールド(世界14カ国)との連携を図り、リンパ浮腫の新たな評価方法の開発、遠隔システムの構築、革新的ケア開発に取り組んでいる。		
研究テーマ	重篤な病態を乗り越えた高齢者の 退院後の療養支援に関する研究	南條 裕子 [P.41] 研究キーワード▶クリティカルケア／重症化予防／看護管理／EBP
集中治療領域の発展により、重症患者の生存率は上昇したが、その一方で、長期予後の悪化やQOL低下が問題視されるようになった。集中治療後の運動機能・認知機能・メンタルヘルスの障害はPost intensive care syndrome: PICSと言われ、患者とその家族の退院後のQOL低下の一因とされている。特に、超高齢化社会においては、患者の多くが高齢者であることからPICS発症のリスクは高く、一旦退院しても再入院を繰り返すなどにより、患者やその家族だけでなく、医療経済への負担は大きいものとなっている。そのため、重篤な病態を乗り越えた患者とその家族が、退院後に自律して生活できること(自助力を活かした在宅療法への移行支援、心身のリハビリの継続、異常の早期発見による重症化前への対応＝再入院予防)を目標に、プログラムやシステムの開発に関する研究に取り組んでいる。		
研究テーマ	子どもに自己の病名を伝えることに 関する乳がん患者の悩み	瀧澤 理穂 [P.42] 研究キーワード▶がん／意思決定／子どもへの説明
日本人の2人に1人ががんに罹患すると推計されているが、医療の進歩により、がんの生存率は向上している。がん患者が定期的な通院、仕事や家事を調整し、病気に伴う生活の変化にうまく対処していくためには、他者からの理解と協力が必要となる。そのため患者は、自己の病名をいつ、誰に、どこまで、どのように伝えるかという意思決定に迫られる。特に子育て中のがん患者は、子どもの特性や発達段階に応じて、子どもの自己の病名をどう伝えるかという悩みを抱いている。このようながん患者の意思決定に関する思いや体験を明らかにし、看護支援の在り方について検討することを目的に研究に取り組んでいる。		

研究テーマ	シミュレーションで非侵襲的に体内を観察し、看護理工学による新たなケア・機器開発へ	星野 真実 [P.43] 研究キーワード・看護理工学／生体シミュレーション／バイオメカニクス／異分野融合
わが国において、高齢化や医療の高度化により看護はより社会的に重要なものとなり、その技術の発展が望まれている。私はその中でもシミュレーション技術を用いた工学的手法を用いて看護学の研究を行っている。シミュレーション技術を用いることでコンピュータ上で身体モデルを再現し、非侵襲的に身体内部に加わる力の予測などが行える。この技術を用いて褥瘡(じよくそう)予防のためにベッドに寝たときに身体内部にどのような力が加わっているのか予測できるモデルの開発などに取り組んでいる。		
研究テーマ	・褥瘡のアセスメントおよびケア技術に関する研究 ・高齢者の在宅療養支援に関する研究	北村 言 [P.44] 研究キーワード・高齢者／褥瘡／在宅／遠隔
高齢化率が上昇する中、これまでと同じケア方法では、同等あるいはより質の高いケアを全ての高齢者に提供することは難しくなります。その課題を解決するには、看護ケアも変化していかなくてはなりません。世の中の変化とともに、高齢者を取り巻く環境も大きく変化し、様々なテクノロジーが身近なものになってきています。現在、そして未来の高齢者の生活を支えるため、それらのテクノロジーを活用し、新たな看護技術の開発に取り組んでいます。		
研究テーマ	在宅心不全療養者が再入院に至る逸脱した心機能増悪予測モデルの開発と実装	大橋 史弥 [P.45] 研究キーワード・心不全／心エコー／心機能増悪／予測モデル／実装
在宅で過ごす心不全療養者の再入院率の高さは大きな課題であり、心機能増悪兆候の把握が難しいことが要因のひとつである。携帯型エコーを用いた下大静脈径(IVC)評価などの循環動態の可視化に関する研究を基盤とし、心不全療養者の心機能増悪徴候を捉え、看護実践に活かす新たなアセスメント方法の開発を目指している。		
研究テーマ	生活の質を低下させないために看護ができることを探る	沖田 翔平 [P.46] 研究キーワード・頭頸部がん看護／嚥下／褥瘡
頭頸部がんは発声・咀嚼・嚥下に大きく関わり、生活の質に大きく影響を及ぼす。治療は化学放射線療法を選択する 경우가多いが、副作用として、口腔粘膜炎がほぼ全例に出現するとされる。口腔粘膜炎の進行を最小限に食い止めるためには口腔内清潔を維持するためのセルフケアが重要である。また、同時に口腔内にどのような変化が起こっているのか口腔細菌叢の経時的変化を含めて詳細に明らかにしていくことで支持療法の質向上を目指している。		
研究テーマ	団塊世代男性を対象とした定年退職後の再就労の場における介護予防プログラム構築	米澤 洋美 [P.47] 研究キーワード・主体的健康づくり／退職後高齢者 シルバー人材センター／介護予防
日本の高齢者の就労意欲は諸外国と比較しても高い。少子高齢化が急速に進展し人口が減少する中、経済社会の活力を維持するため、働く意欲がある高齢者が活躍できる環境の整備を目的として、「高齢者雇用安定法」の一部が改正され、令和3年4月1日から施行されている。社会の要請でもある高齢者の就業の場において、健康づくりの効果を検証することができれば介護サービスを使わず健康で暮らせる時間が延伸するのではないかと考えアクションリサーチにて検討している。		
研究テーマ	メンタルヘルス不調者の職場復帰に向けた多職種連携効果の測定	室野 奈緒子 [P.48] 研究キーワード・多職種連携／産業保健／職場復帰支援／メンタルヘルス
メンタルヘルス不調による休職は長期化しやすく、再発率も高いため、企業にとって大きな経済的損失をもたらす。不調者の職場復帰を促進するためには、適切な支援が不可欠であり、その中でも産業医、産業看護職、人事労務担当者など、職場内の多職種連携が重要な役割を果たす。職場復帰支援に携わる職種間の連携を強化することで、労働者への質の高いメンタルヘルスケアの提供と、円滑な職場復帰が可能となる。そこで、職場内の多職種連携に焦点を当て、その実態と効果を明らかにすることを目指し、研究に取り組んでいる。		

研究テーマ	福祉型障害児入所施設に配属された行政保健師が行う知的障害児に対する支援技術	嶋 雅奈恵 [P.49] 研究キーワード・地域看護／公衆衛生看護学／児童虐待
2023年4月に「こども家庭庁」が新設され児童のいる家庭のみならず施設で生活する児童も等しく健やかに成長するための支援が求められている。障害児に対して、保護、日常生活の指導及び知識技能の支援を行う児童福祉法に基づく入所施設に「福祉型障害児入所施設」がある。児童虐待により児童相談所を経て福祉型障害児施設に入所となる児童も少なくなく、中でも障害児の中でも知的障害児が多いのが特徴である。そこで、医療受診やこころの相談で苦慮した申請者の行政保健師としての経験から、福祉型障害児入所施設での行政保健師の知的障害児への支援技術の実態を明らかにし、福祉型障害児入所施設での知的障害児に求められている支援を検討する基礎資料とする。		
研究テーマ	・家族介護者の健康支援 ・医療的ケア児の養育者への育児支援 ・介護予防	桜井 志保美 [P.50] 研究キーワード・介護者／心血管疾患リスクファクター／睡眠／介護予防 医療的ケア／育児
認知症高齢者の家族介護者のほとんどが睡眠の不满を経験していることが知られている。これまでに、睡眠に問題を抱える介護者が、非介護者に比べて高血圧リスクが高いことを明らかにし、心血管疾患発症予防のための睡眠支援について提案している。国内には1万を超える訪問看護ステーションがあるが、小児訪問看護に特化した訪問看護ステーションは43施設のみであった。そこで、日本国内のどこに住んでいても、医療的ケア児とその家族が自宅で一緒に安心して暮らせる社会の実現を目指し、訪問看護師による育児支援について取り組んでいる。		
研究テーマ	・病棟看護師の終末期がん患者に対する退院支援の実践自己評価と関連要因の検討 ・災害時の訪問看護に関する研究	山路 朋子 [P.51] 研究キーワード・病棟看護師／終末期がん／退院支援 災害看護／訪問看護
わが国では在院日数の短縮化や病床数削減に取り組む一方、在宅医療の充実や、医療上のニーズや日常生活に課題を抱える患者が在宅生活に移行できるよう推進されている。近年では自宅での終末期医療や最期を希望する国民のニーズが明らかとなっている。このようなニーズに答えるためには、早期からの退院支援が重要となってくる。日本は災害の発生が多く、災害関連死が問題視されている。平時でも災害時でも、限られた資源で、人々の健康と暮らしを守るための支援方法について提案できるよう研究を進めている。		
研究テーマ	高齢者の口腔機能に関する研究	牛村 春奈 [P.52] 研究キーワード・在宅看護／パーキンソン病／口腔機能
食べることは単に栄養をとるだけでなく、喜びを感じたり、人と一緒に食べるにより仲が深めたりする生きる上で欠かせないことである。しかし、人生の楽しみである食事が困難となる場合がある。その原因の一つには加齢や病気による口の機能の衰えがあり、口の機能が衰えると、食べられなくなり心身機能が低下する。そこで、口の機能の低下に早く気付いて予防することで、食べることを諦めなくて良い社会にしたいと考えている。		
研究テーマ	・他害行為を行った精神障がい者の評価、治療、社会復帰における看護師の役割 ・日本における司法精神医学・司法精神看護学教育の方向性 ・身体疾患を併発した精神疾患患者の治療・ケアに影響を及ぼす要因	美濃 由紀子 [P.53] 研究キーワード・司法精神看護／医療観察法／精神科身体合併症看護
わが国では、重大な他害行為を行った精神障がい者の医療は、従来、専門システムの不備から極めて劣悪な状況下にありましたが、「医療観察法」の施行によって飛躍的な改善を遂げました。同法の対象者は、病状の重篤さや複課題の深刻さから一般精神科医療の枠での治療が非常に困難でしたが、治療契約・多職種連携等の条件が整備されたことで、早期に社会復帰ができるようになりました。特に看護師が担う役割は多岐にわたることから、司法精神医療で行われているケアの実態を明らかにすることを通じた啓発と司法精神看護学教育の充実は必須課題であると考えています。		

研究テーマ	知的・発達障害をもつ方の農福連携に関する研究	大江 真吾 [P.54] 研究キーワード・自閉スペクトラム症／発達障害／農福連携
わが国では、発達障害者支援法の施行により、発達障害者（児）に対して障害特性やライフステージに応じた支援が行われている。知的・発達障害をもつ人の社会参加の一つとして、就労がある。農福連携を推進していくことが国を挙げての動きであるが、順調には進んでいない状況にある。その理由にはいくつかあるが、知的・発達障害をもつ人がうまく働くことができる環境づくりが必要であると考える。現在は知的・発達障害をもつ方が適切に機械操作ができるように研究を進めている。		
研究テーマ	精神科入院患者における便秘の実態調査と超音波画像装置（エコー）を用いた看護ケアの検討	高濱 圭子 [P.55] 研究キーワード・便秘／排泄ケア／アルコール依存症
精神科領域では、患者の高齢化や治療薬の影響により便秘患者の増加が懸念され、排便ケアの重要性が高まっている。しかし、詳細な実態調査は不足しており、効果的なケアの検討も十分なされているとは言い難い状況である。本研究は精神科入院患者の便秘の実態を明らかにするとともに、看護領域で活用が広がるエコーを用いたアセスメントを取り入れ、安全で効果的な排便ケアの構築を目指している。		
研究テーマ	対話型生成AIによる発達・愛着障害者へのコミュニケーション支援モデルの開発	杉谷 菜月 [P.56] 研究キーワード・精神看護／対話型生成AI／発達障害／愛着障害 コミュニケーション支援
本研究は、対人関係に困難を抱える発達障害・愛着障害を抱える方たちに対し、対話型生成AIを活用した新たなコミュニケーション支援モデルの構築を目指しています。対人関係における予測困難性にストレスを感じやすい発達・愛着障害当事者にとって、一定のルールに基づき応答するAIは、心理的安全性の高いシミュレーション環境を提供できる有効な支援ツールとなる可能性があります。具体的には、精神看護学の知見に基づき、以下の3点に取り組みます。 1. 特性に応じたプロンプト設計 当事者の不安を最小化し、適切な社会的スキルの習得を促すAI応答スタイルを定義・検証します。 2. 情緒的サポートの再現 熟練看護師の「傾聴」技術をAIに実装し、テキストベースの対話においても、自己肯定感を高める共感的・受容的な関わりを追求します。 3. 臨床・教育への多角的展開 相談業務の補助から、当事者が日常的に使用できるセルフケアツールまで、デジタル・メンタルヘルス・ケアとしての実用性を評価します。精神科看護師の対話技術とテクノロジーを融合させることで、発達障害や愛着障害を抱える方たちの社会適応とQOL向上に寄与する新たな看護介入の確立を追求しています。		
研究テーマ	・看護理工学に基づく、高齢者を守る包括的ケアシステムの構築 ・マイクロバイオーム（細菌のパターン）、スキنبロツティング、AIを駆使した皮膚・創傷ケア技術の開発	大貝 和裕 [P.57] 研究キーワード・看護理工学（bio-engineering nursing） マイクロバイオーム／褥瘡／人工知能（AI）
少子高齢化に伴い、社会保障のメインステージは病院から在宅に変わりつつある。体調は悪いが病院にはかからない、という高齢者も多い。2023年4月に石川県立看護大学に「共同研究講座 看護理工学」が新設され、上記のような問題を解決するために、地域に住む高齢者が健康状態を自分で、いつでも、どこでも調べることのできる技術の開発研究を行う。さらに、結果を早期発見やケアにつなげることを見据え、「高齢者を守る包括的ケアシステム」を確立する。		
研究テーマ	・スキنبロツティング法を用いた健康管理システムの構築に関する研究 ・スキنبロツティング法による健康状態や栄養状態の評価法の開発に関する研究	長谷川 陽子 [P.58] 研究キーワード・看護理工学／栄養評価／在宅栄養管理 スキنبロツティング
地域在住者が健康で長生きできる社会の実現を目指し、「栄養学」と「看護理工学」を融合させ、“痛くない、簡便で、リアルタイムな新たな健康管理システム”の開発を目指している。具体的には、スキنبロツティングというパッチテストのような非侵襲的な生体検査法を用いて、地域在住者が自分で自身の栄養状態や健康状態を評価できるセルフモニタリングツールを開発し、それを活用する管理システムの構築に取り組んでいる。		

研究テーマ	センサ技術・ICTを活用したモニタリングやAIによる新たなロボティックホームケアの確立	松本 勝 [P.59] 研究キーワード・ロボティックチェア／ウェルビーイング／シーティング 遠隔支援／超音波検査（エコー）
医療的ニーズをもちながらも在宅で療養する高齢者が寝たきりや座りきりの問題を回避しながら安全で快適な生活を送るためにはセンサ技術・ICTを活用したモニタリングや異常を早期発見するAIなどによる新しいホームケアシステムの確立が欠かせません。そこで共同研究講座ウェルビーイング看護学では、産学連携により在宅療養者の幸福寿命延伸、ウェルビーイングを実現するための医療機器・福祉用具の開発と実装を行っています。		
研究テーマ	看護理工学と理学療法学を融合し、幸福寿命の延伸を目指したロボティックチェアの開発	幅 大二郎 [P.60] 研究キーワード・ウェルビーイング／ロボティックチェア／看護理工学 理学療法学／低周波振動
在宅で療養する高齢者は日中車椅子に移乗して寝たきりを予防していますが、本来は「移動手段」の車椅子であるため長時間の座位は姿勢を崩して嚥下が困難になり、さらに褥瘡や下腿浮腫を引き起こすといった問題があります。本共同研究講座ではこの「移動手段」の車椅子を食事や排泄、褥瘡や浮腫予防などトータルで生活を支援する「生活の場に適した」車椅子に進化させることで、在宅療養者の幸福寿命の延伸を目指します。		
研究テーマ	高齢者の尊厳を守る、排泄トラブルのない社会へ	立川 啓太 [P.61] 研究キーワード・ウェルビーイング／寝たきり高齢者／尿失禁ケア AIコミュニケーションロボット
オムツやパッドを用いたケアでは、尿が皮膚に長時間接触することにより、失禁関連皮膚炎や褥瘡などの皮膚障害が生じる可能性があります。本共同研究講座では、こうした課題に対し、寝たきり高齢者の尿失禁に伴う皮膚障害の予防に向けた研究を行っています。さらに、AIコミュニケーションロボットが高齢者および施設スタッフに与える影響についても調査し、高齢者やスタッフのウェルビーイングの向上に向けた研究を推進しています。		
研究テーマ	災害時に国民を守る看護提供体制・組織システムを探求する	木田 亮平 [P.62] 研究キーワード・災害看護／防災教育／持続的な看護提供体制 地理情報システム／データサイエンス／組織マネジメント
災害が多発する日本において、持続的に医療サービスを提供し国民の健康・生活をまもるためには、災害に強い看護提供体制やシステムの構築がカギとなる。災害サイクル（準備期、超急性期、急性期、慢性期・復興期）において重要な役割を担う看護職のチカラが最大限発揮され、国民の健康・生活をまもるための看護提供体制やシステムづくりについて探求している。		
研究テーマ	災害時の避難生活における生活環境の向上を目指す研究（災害トイレの整備）	窪田 直美 [P.63] 研究キーワード・災害／避難生活／生活環境／災害トイレ
災害時の劣悪な排泄環境は健康障害につながる重要な課題です。避難生活の排泄に関するQOLを向上すべく、特に要配慮者の中でも片麻痺のある療養者に対する排泄環境の改善を目指して、災害時のトイレに関する研究を進めています。		
研究テーマ	高齢者施設における、災害時の避難者受け入れ可否に関する実態調査および受け入れに関する特徴	登谷 美知子 [P.64] 研究キーワード・高齢者施設／災害時受け入れ／事前準備
災害が発生した場合、介護施設は特に配慮を要する被災した高齢者を受け入れ、避難生活中における生活機能の低下等の防止を図る等その役割は重要である。しかし受け入れについては、福祉支援体制の強化に関するガイドラインや運営に関する準備・連携への提案など記されたものがほとんどであり、具体的かつ実用的な事前準備については示されていない。そこで今回、令和6年能登半島地震発生後に被災地外の介護施設の被災者受け入れについて実態調査を行いどのような準備が必要であったかを明らかにする。		

キーワード検索

A	AI	57
	AIコミュニケーションロボット	61
	ALS	24
B	bio-engineering nursing	57
	Bone biology	15
C	Cancer	42
	child-rearing support	36
	Chronobiology	15
D	Decision making	42
	Dialogue	42
	DX(Digital Transformation)	08・35
E	EBP: Evidence-Based Practice	41
	environmental chemicals	19
	essential trace elements	19
F	feelings of difficulty with child rearing	36
	fertility	19
G	GnRHパルスジェネレーター	17
H	HPV(ヒトパピローマウイルス)	16
	HPV関連疾患	16
M	Molecular Pharmacology	15
	mothers	36
	MUA	17
	Myasthenia Gravis	18
N	Neuroimmunology	18
	NIPT	33
P	perfectionism	36
S	SDGs	21
	Skeletal muscle	18
あ	愛着形成・修復	34
	愛着障害	56
	アクションリサーチ	09
	アルコール依存症	55
い	育児困難	36
	育児不安	32
	意思決定	42
	意思決定支援	33
	異分野融合	43
	医療工学	14
	医療コミュニケーション	29
医療的ケア育児	50	
う	ウェルビーイング	59・60・61
	運動	09
え	栄養学	58
	エコ	40
	遠隔	40・44
	遠隔支援	59
	嚙下	46
お	応用臨床心理学	11
	親になること	35
か	介護者	50
	介護予防	47

か	家族学	34
	家族のレジリエンス	34
	がん	40・42
	環境汚染物質の脳神経系・内分泌系への影響	19
	看護技術	23・26
	看護教育	23
	看護師	25
	看護実践	26
	看護提供システム	20
	看護デザイン	12
	看護の質改善	41
	看護のものづくり	08
	看護補助者	25
看護理工学	39・43・57・58・60	
き	感情活用	53
	感情調整	34
	完全主義	36
き	希少・難治性疾患	24
	傷(キズ)	08
	傷(きず)ケア	38
	基礎看護技術	22
	虐待予防	37
	キャリア	20
	教育	30
く	グリーフケア	28
	クリティカルケア	41
け	健康教育	27
	健康づくり	47
こ	口腔機能	52
	公衆衛生看護学	49
	高齢者	44
	高齢者施設	64
	子育て	35
	子育て支援	36
	骨格筋	18
	骨代謝学	15
	子ども虐待予防	35
	コミュニケーション支援	57
コミュニティ・エンパワメント	09	
さ	災害	64
	災害看護	38・52・62
	災害時受け入れ	65
	災害トイレ	64
	災害ボランティア	21
	在宅	45
	在宅看護	53
	在宅療養移行支援	20
	産業保健	49
	産後	31
し	シーティング	60
	時間生物学	15
	子宮頸がん	16
	思春期のメンタルヘルス	55
	自助・互助	24
	視床下部	17
	次世代育成教育	35
	事前準備	64
	持続的な看護提供体制	62
	実装	45
	実母支援	37
	児童虐待	49
	自閉スペクトラム障害	54
司法精神看護	53	
重症化予防	41	

し	重症筋無力症	18	
	終末期	51	
	手術看護	26	
	出生前検査	33	
	循環器看護	22	
	障害児施設	49	
	情報共有	25	
	褥瘡	44・46・57	
	職場復帰支援	48	
	女性	31	
	自立支援	37	
	シルバー人材センター	47	
	事例検討会	55	
	心エコー	45	
	心機能増悪	45	
	神経免疫学	18	
	心血管疾患リスクファクター	50	
す	人工知能(AI)	57	
	身体活動	29	
	心不全	45	
	心理学	11	
	診療看護師(NP)	20	
	睡眠	50	
	スキンケア	38・39・40	
	スキンプロッティング	39・57・58	
	せ	生活環境	63
		清潔ケア	23
生殖中枢		17	
精神科身体合併症看護		53	
精神看護		56	
生体シミュレーション		43	
性と生殖の健康(SRH)		30	
生命倫理学		10	
西洋中世写本研究		13	
生理人類学		12	
セルフヘルプグループ支援		28	
そ		相互作用	25
	創傷治癒	39	
	組織開発	20	
	組織マネジメント	63	
た	退院支援	51	
	対話	42	
	対話型生成AI	56	
	多職種連携	48	
	タスクシフト・シェア	25	
	団塊世代男性	47	
ち	地域看護	49	
	地域の出生力に関する研究	19	
	中世イングランド書物文化	13	
	中世英文学	13	
	超音波検査(エコー)	59	
	調整行動	25	
	地理情報システム	63	
て	低周波振動	60	
	データサイエンス	62	
	電気生理学	17	
	転倒	21	
	転倒リスク評価	14	
と	頭頸部がん看護	46	
	当事者	24	
	特別養子縁組	37	

に	西田幾多郎	10
	日本哲学	10
	尿失禁	31
	尿失禁ケア	61
	人間工学	12
	妊産婦	32
	妊娠前	27
	認知科学	11
	認知症	39
	妊婦歯科健診	32
ね	寝たきり高齢者	61
の	脳科学	11
	農福連携	54
は	パーキンソン病	52
	バイオメカニクス	43
	排泄ケア	74
	発達障害	54・56
	母親	36
	パフォーマンス評価	21
ひ	ピアサポート	24
	必須微量元素の生態学的意義に関する研究	19
	ビックデータ	58
	避難生活	63
	病棟看護師	51
ふ	プレコンセプションケア	16・27・29
	プログラム開発	27
	分子薬理学	15
へ	ヘルスケア	30
	ヘルスリテラシー	29
	便秘	74
ほ	防災教育	63
	訪問看護	51
	保健行動	29
	保健師活動	47
	歩行解析	14
ま	マイクロバイーム	57
	マインドフルネス	34
	慢性脱水	39
め	メンタルヘルス	48
ゆ	ユース	30
	ユースクリニック	30
よ	養育態度	34
	予期しない妊娠	37
	予測モデル	45
り	理学療法学	60
	リモート支援	38
	流産・死産・新生児死亡	28
	臨床栄養学	58
	臨床判断	21
	リンパ浮腫	40
る	ループリック	21
ろ	ロボティックチェア	59・60
わ	ワクチン	16



POINT OF FUTURE

石川県立看護大学が見る4つの未来

本学は以下の4点を、これからの看護職、看護研究者を育成するために、特に重要と考え、強化を進めています。本学ならではの取り組みにご期待ください。



防災や災害時の対応に関する教育・研究の充実

災害や非常時における看護職の役割、ニーズはますます高まっています。防災に関する教育、災害現場で役立つ幅広い知識の獲得、被災時の看護モデルの実証的研究などを通して、災害に強い看護人材の育成を進めています。



国際的な視点での看護

ブリガム・ヤング大学(アメリカ)、ムハマディヤ工科保健大学(インドネシア)等で海外看護研修を予定しています。また、海外の看護系教員の招聘や留学生の研修受け入れなど、国際的な視点を育成しています。



DXの推進

これまでの紙の教科書に替えて電子教科書を導入。さらに実習記録の電子化、VR、AR、MRなど最新のシステムやツールを活用したシミュレーション教育の導入を通し、教育のデジタル化を推進しています。



産学連携の推進

企業と連携し、新たな技術開発と臨床現場での活用を目指しています。また、学生が最先端の設備や技術を体験することで次世代を担う学生を育成しています。

石川県立看護大学の6つの魅力

なりたい自分をサポートする環境が整っています。

1 将来の 多様な選択肢

看護師・保健師国家試験受験資格取得が可能です。2026年度より資格取得を選択でき、看護師資格取得では本学の特色である災害看護を実践的に学びます。

2 学生一人あたりの 教員数

学生一人あたりの教員数は北陸三県の看護系大学では最大級。複数担任制を採用し、教員と学生の距離が近く相談しやすい環境です。

3 手厚い進路支援

4年生には学生10名程度に1名の進路アドバイザーを配置し、進路と国家試験をきめ細かくサポートしています。

4 大学院での キャリアアップ

卒業後は石川県立看護大学大学院へ進む道が開かれています。大学院で探究を深め、修了後は臨床の現場で働くことはもちろん、教育や研究の世界で活躍する未来もあります。

5 石川県内に広がる 多様な実習先

実践の場での教育を重視し、入学早期から体験学習を導入しています。医療機関、保育施設、福祉施設など70以上の実習施設を確保しています。

6 学びに適した 立地と環境

本学のあるかほく市は大手出版社の「住みよさランキング」で上位にランクされ、自然豊かな環境にありながら、車・電車での金沢へのアクセスも便利です。

ACCESS



公共の交通機関でお越しの方

- JR高松駅から市営バスに乗り「看護大学・看護大学前」下車／約5分
- JR金沢駅からIRいしかわ鉄道・JR七尾線で、高松駅下車／約30分
- JR七尾駅から七尾線で高松駅下車／約50分

お車でのお越しの方

- 金沢森本ICからのと里山海道へ、県立看護大IC下車／約25分
- 小松空港から北陸自動車道小松ICへ、金沢森本ICで降り、のと里山海道へ、県立看護大IC下車／約1時間
- のと里山空港からのと里山海道へ、県立看護大IC下車／約1時間

主な沿革

平成12(2000)年4月	石川県立看護大学開学
平成16(2004)年4月	大学院看護学研究科 修士(現在 博士前期)課程を開設
平成18(2006)年4月	大学院看護学研究科博士後期課程開設

平成23(2011)年4月	公立大学法人化
平成30(2018)年4月	大学院看護学研究科 博士前期課程に助産師養成課程を開設

石川県立看護大学
研究者情報・研究シーズ集

令和8年(2026)7月 発行

監修：真田弘美・米田昌代

編集：登谷美知子

発行：石川県公立大学法人 石川県立看護大学

〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地

TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319

印刷：HAYASHI株式会社